

阿南市 男女共同参画に関する
市民意識調査

報告書

令和5年3月

徳島県 阿南市

目次

I	調査概要	1
I	調査内容	1
II	調査結果	2
1	自身のことについて	2
F1	性別について	2
F2	年齢について	2
F3	職業について	3
F4	家族構成について	4
F5	結婚しているかどうか	5
F5-①	仕事をしていますか	6
2	男女平等意識について	7
問1	地位は平等になっていると思うか	7
問2	各項目に対してどのように考えるか	10
問3	男性は働き女性は家庭という考え方について	12
問3-①	そう思う理由	13
問4	性に対する負担感、生きづらさについて	14
問4-①	そう思う理由	15
3	家庭や地域における活動・役割分担について	16
問5	家庭での分担について	16
問6	活動に参加していますか	21
問6-①	参加している活動はどのような活動か	22
問6-②	地域活動の課題について	23
問7	防災、災害対応に性別配慮が必要か	24
問8	男性が活動に参加するのにどのようなことが必要か	26
4	就業や仕事について	28
問9	女性の働き方（理想と現実）について	28
(1)	女性の働き方の理想	28
(2)	女性の働き方の現実	30
問9-①	その理由	33
問10	日常生活の理想と現実について	34
問11	女性が働きやすい状況にあるか	37
問12	働きやすい社会環境をつくるにはどのようなことが大切か	39
問13	男性の育児休業の妨げになっているものは何か	41
5	子育て・教育について	43
問14	子育ての考え方	43
問15	男女共同参画社会のための教育現場について	44

6	性の多様性について	45
問 16	性的マイノリティについて	45
問 17	自分、周りが身体・心の性で悩んだことがあるか.....	45
問 18	性的マイノリティにとって生活しづらさがあると思うか	46
問 18—①	性的マイノリティへの理解、支援に何が必要か	47
問 19	パートナーシップ、ファミリーシップの導入について	48
7	人権に関する問題について	49
問 20	経験したり相談を受けたことがあるもの	49
問 21	暴力だと思うもの	53
問 22	DVを受けたり見聞きしたことがあるか	56
問 22—①	いつ行為を受けたか.....	57
問 22—②	誰かに相談したか.....	58
問 22—③	相談しなかった理由.....	59
問 23	DV 防止、被害者支援に何が必要か	60
問 24	DV などの相談体制について	62
8	新型コロナウイルス感染症の仕事、生活の影響	63
問 25	拡大前と現在の状況について	63
9	男女共同参画社会実現の施策について	64
問 26	男女共同参画社会形成で力を入れること	64
10	男女共同参画に関する言葉などについて	67
問 27	法律、言葉について	67

I 調査概要

I 調査内容

■調査実施内容

調査先	市民
調査実施期間	令和4年11月22日 ～12月7日
配布数	2,000
配布方法	郵送
回収数	703
回収率	35.2%

■報告書の見方

- 回答結果の割合「%」は、回答者数（n）に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入しています。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100%にならない場合があります。
- 複数回答(複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式)の設問の場合、回答は選択肢ごとの回答者数（n）に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、「%」合計が100%を超える場合があります。
- グラフ及び表中のn（number of case）は、集計対象者総数です。

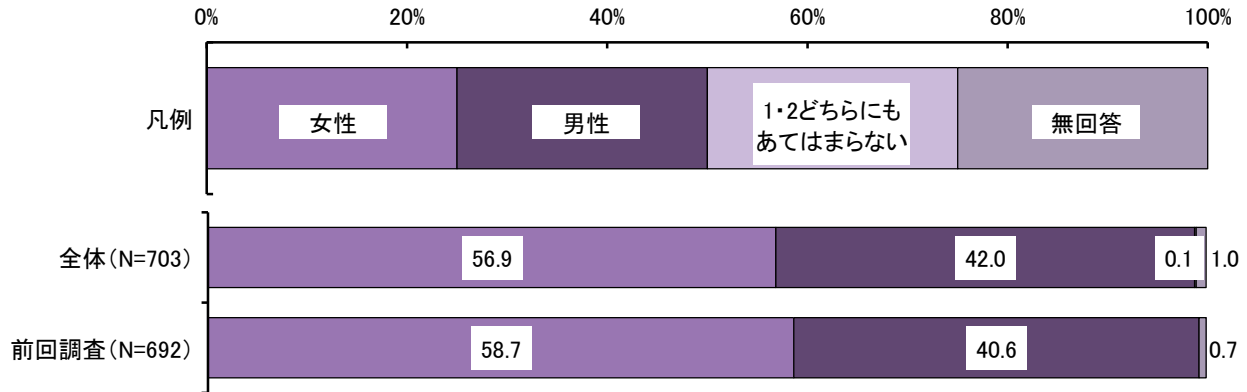
II 調査結果

1. あなた自身のことについておたずねします。

F1 あなたの性別についてお答えください。【いずれか1つに○印】

アンケートへの回答者の性別では、「女性」の割合が56.9%、「男性」の割合が42.0%、「どちらにもあてはまらない」が0.1%と、女性の割合が高くなっています。

【全体・前回調査】

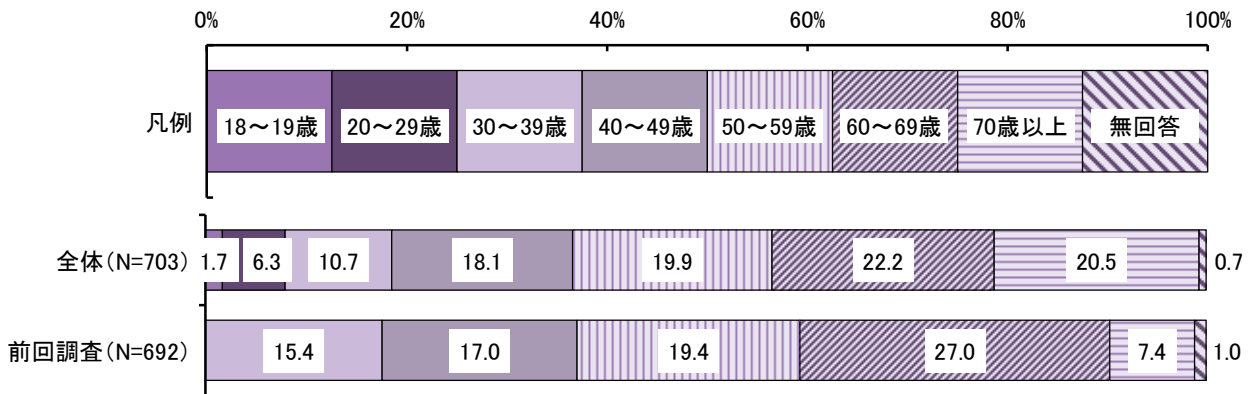


F2 あなたの年齢についてお答えください。【いずれか1つに○印】

年齢別構成では、「60～69歳」の割合が22.2%と最も高く、次いで「70歳以上」20.5%、「50～59歳」19.9%、「40～49歳」18.1%となっており、『50歳以上(合計)』で全体の62.6%を占めています。

性別では、概ね同様な傾向となっています。

【全体・前回調査】



【性別】

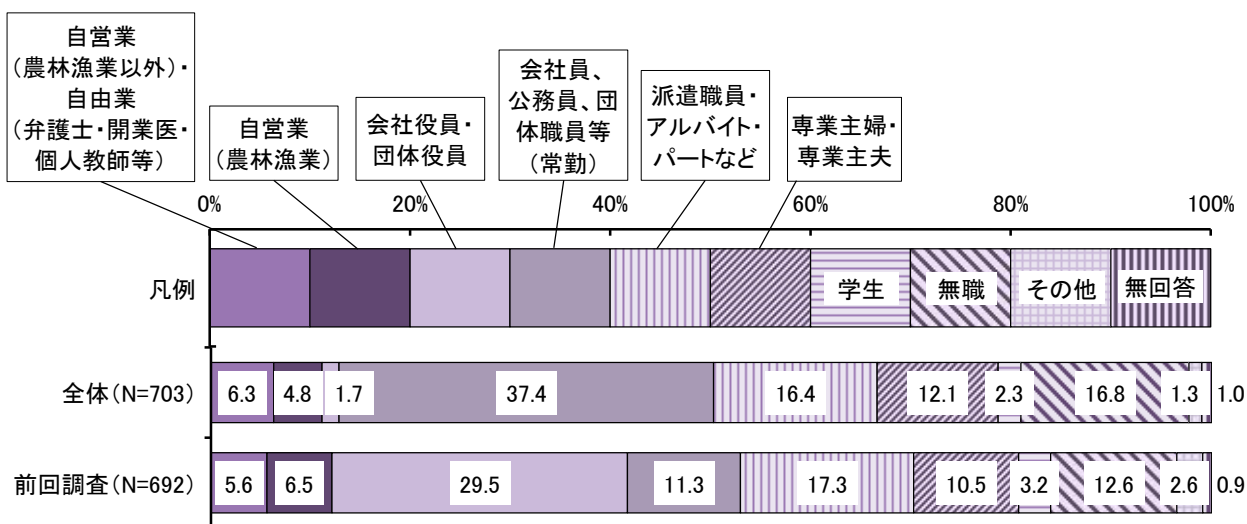


F3 あなたは次に示す職業のうちどれにあたりますか。【いずれか1つに○印】

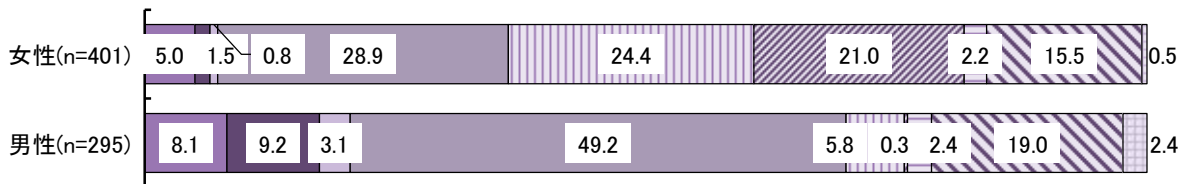
職業別構成では、「会社員、公務員、団体職員等（常勤）」の割合が37.4%と最も高く、次いで「無職」16.8%、「派遣職員・アルバイト・パートなど」16.4%、「専業主婦・専業主夫」12.1%となっています。

性別では、女性は「派遣職員・アルバイト・パートなど」「専業主婦・専業主夫」などで男性を上回っており、男性は「会社員、公務員、団体職員等（常勤）」などで女性を上回っています。

【全体・前回調査】



【性別】

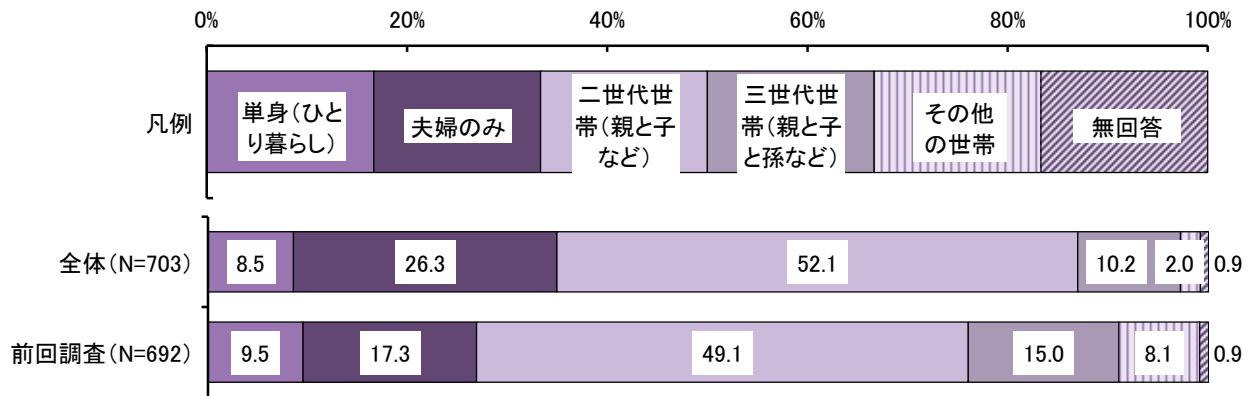


F4 あなたの家族構成は次のどれですか。【いずれか1つに○印】

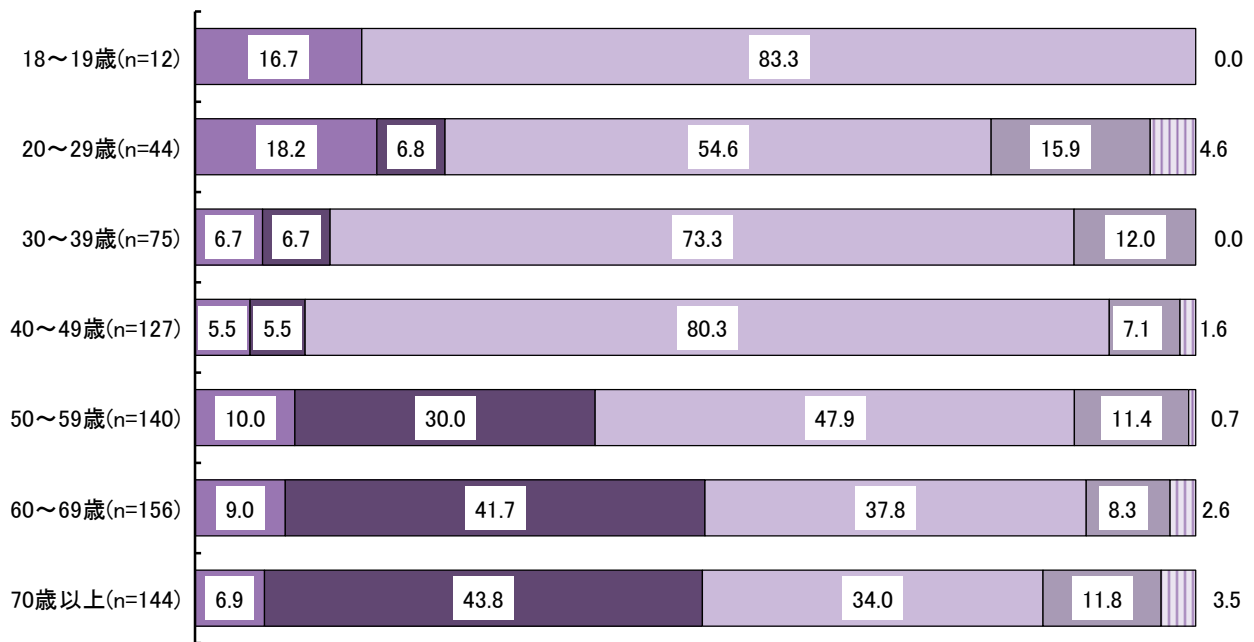
家族構成では、「二世世代世帯（親と子など）」の割合が52.1%と半数を超えて最も高く、次いで「夫婦のみ」26.3%、「三世世代世帯（親と子と孫など）」10.2%、「単身（ひとり暮らし）」8.5%となっています。

年齢別では、29歳以下で「単身（ひとり暮らし）」の割合が他の年齢層よりも高く、50歳以上で「夫婦のみ」の割合が他の年齢層よりも高くなっています。

【全体・前回調査】



【年齢別】

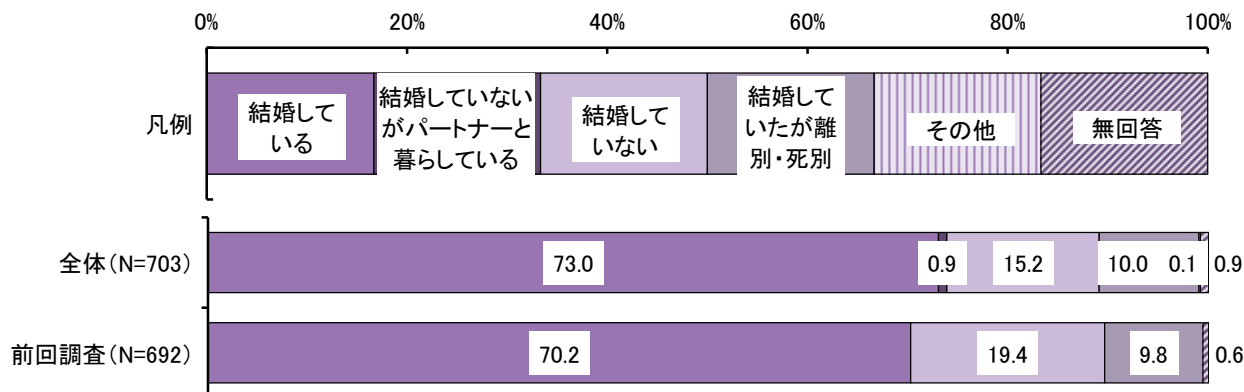


F5 あなたは現在結婚（事実婚を含む）していますか。【いずれか1つに○印】

未既婚では、「結婚している」の割合が73.0%と最も高く、次いで「結婚していない」15.2%、「結婚していたが離別・死別」10.0%となっています。

性別・年齢別では、女性、男性ともに10歳代で「結婚していない」が100%となっています。女性は「結婚している」の割合が50歳代でピークとなり、その前後で「結婚していたが離別・死別」の割合が高くなっており、男性は概ね年齢が上がるほど「結婚している」の割合が増える傾向となっています。

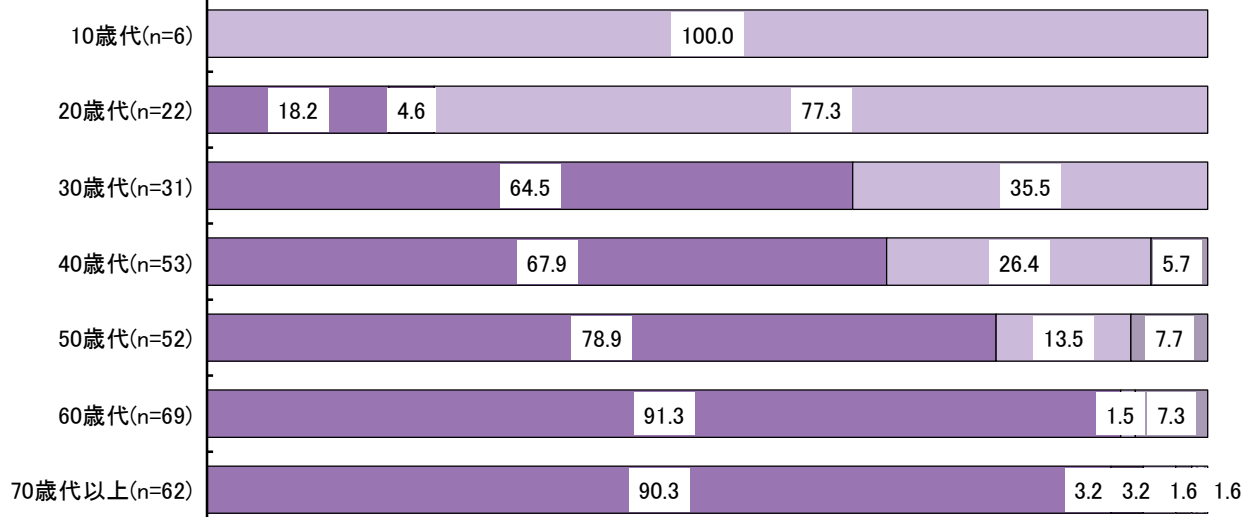
【全体・前回調査】



【女性・年齢別】



【男性・年齢別】



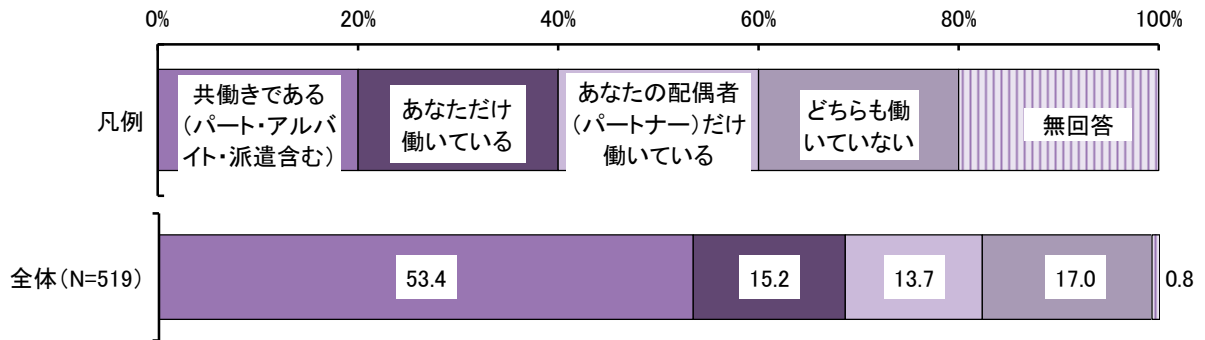
<F5-①は、F5で「1.結婚している」、「2.結婚していないがパートナーと暮らしている」を選択した方のみお答えください>

F5-① あなたとあなたの配偶者やパートナーは、現在、収入を得る仕事をしていますか。

【いずれか1つに○印】

自分と配偶者・パートナーの就労では、「共働きである（パート・アルバイト派遣含む）」の割合が53.4%と最も高く、次いで「どちらも働いていない」17.0%、「あなただけ働いている」15.2%、「あなたの配偶者（パートナー）だけ働いている」13.7%となっています。

【全体】



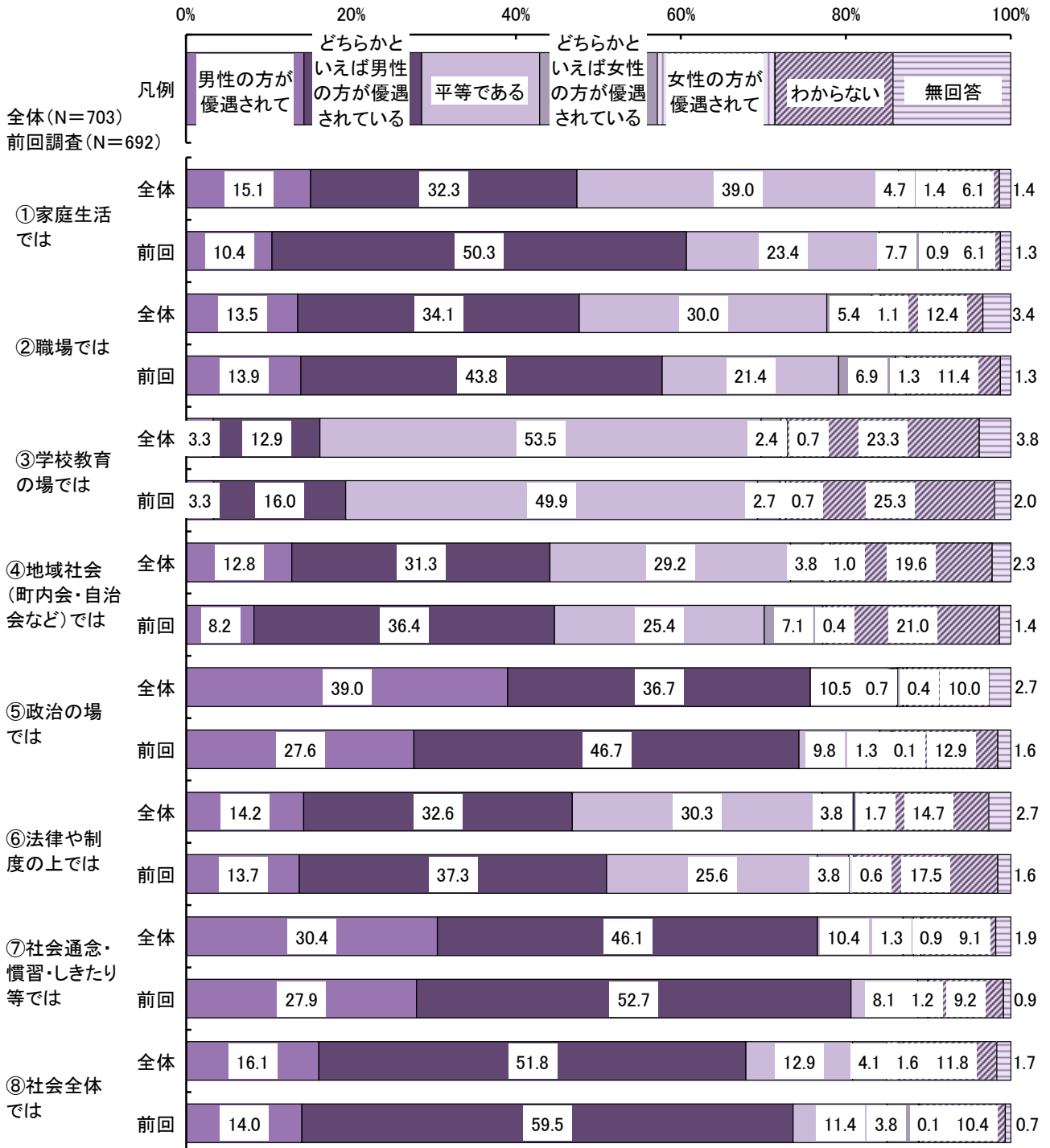
2. 男女平等意識についておたずねします。

問1 あなたは、次の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。それぞれの分野ごとに、あなたのお考えに最も近いものをお答えください。【①～⑧ごとに、それぞれ1つに○印】

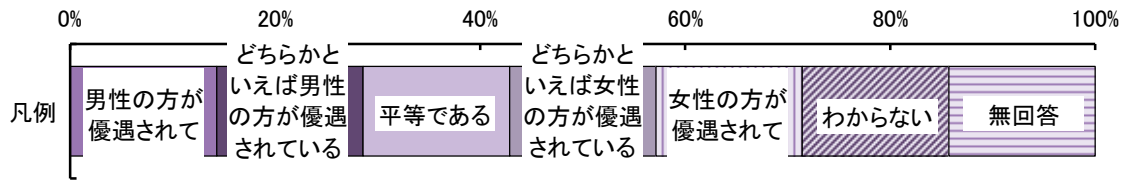
男女の地位の平等意識では、すべての分野において、『男性優遇』（「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計、以下同じ）の割合が、『女性優遇』（「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計）の割合を上回っています。特に「社会通念・慣習・しきたり等では」76.5%、「政治の場では」75.7%、「社会全体では」67.9%と『男性優遇』の割合が高くなっています。

一方、「③学校教育の場では」では、「平等である」の割合が53.5%と半数を超えて高くなっています。

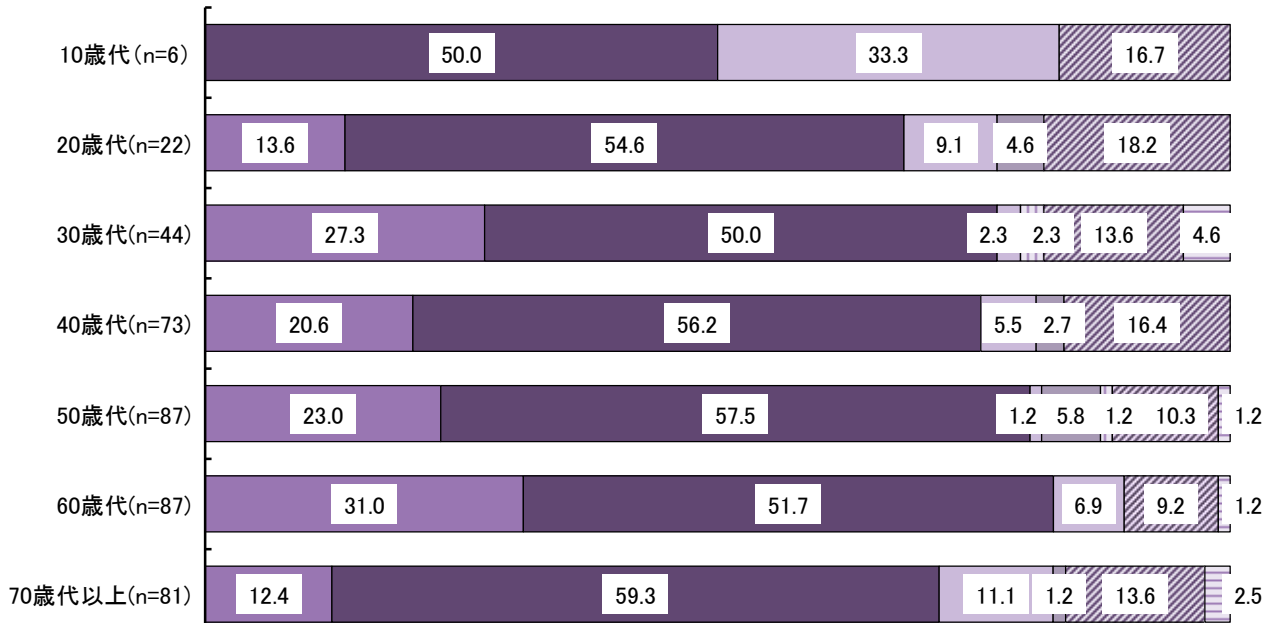
【全体・前回調査】



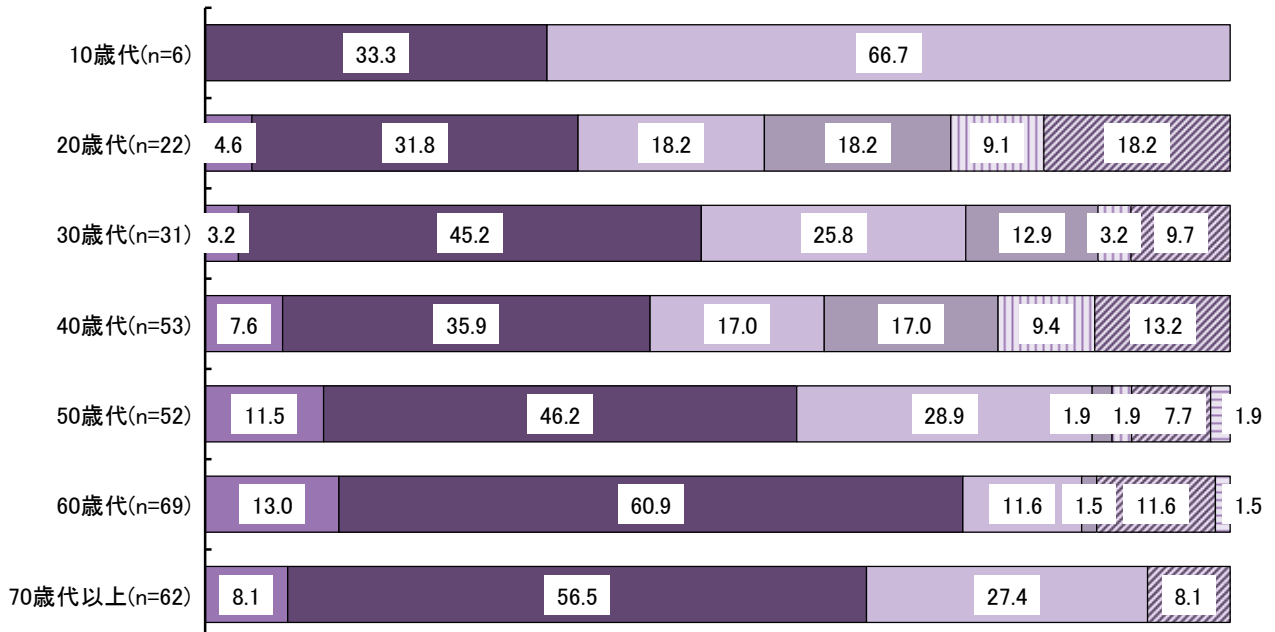
「社会全体」における男女の地位の平等意識の性別・年齢別では、「平等である」の割合が、女性の10歳代で33.3%と最も高くなっており、年齢があるほど『男性優遇』の割合が高くなり、60歳代では82.7%となっています。男性はすべての年代で「平等である」の割合が女性よりも高くなっており、『男性優遇』が最も高い60歳代で73.9%となっています。



【女性・年齢別】

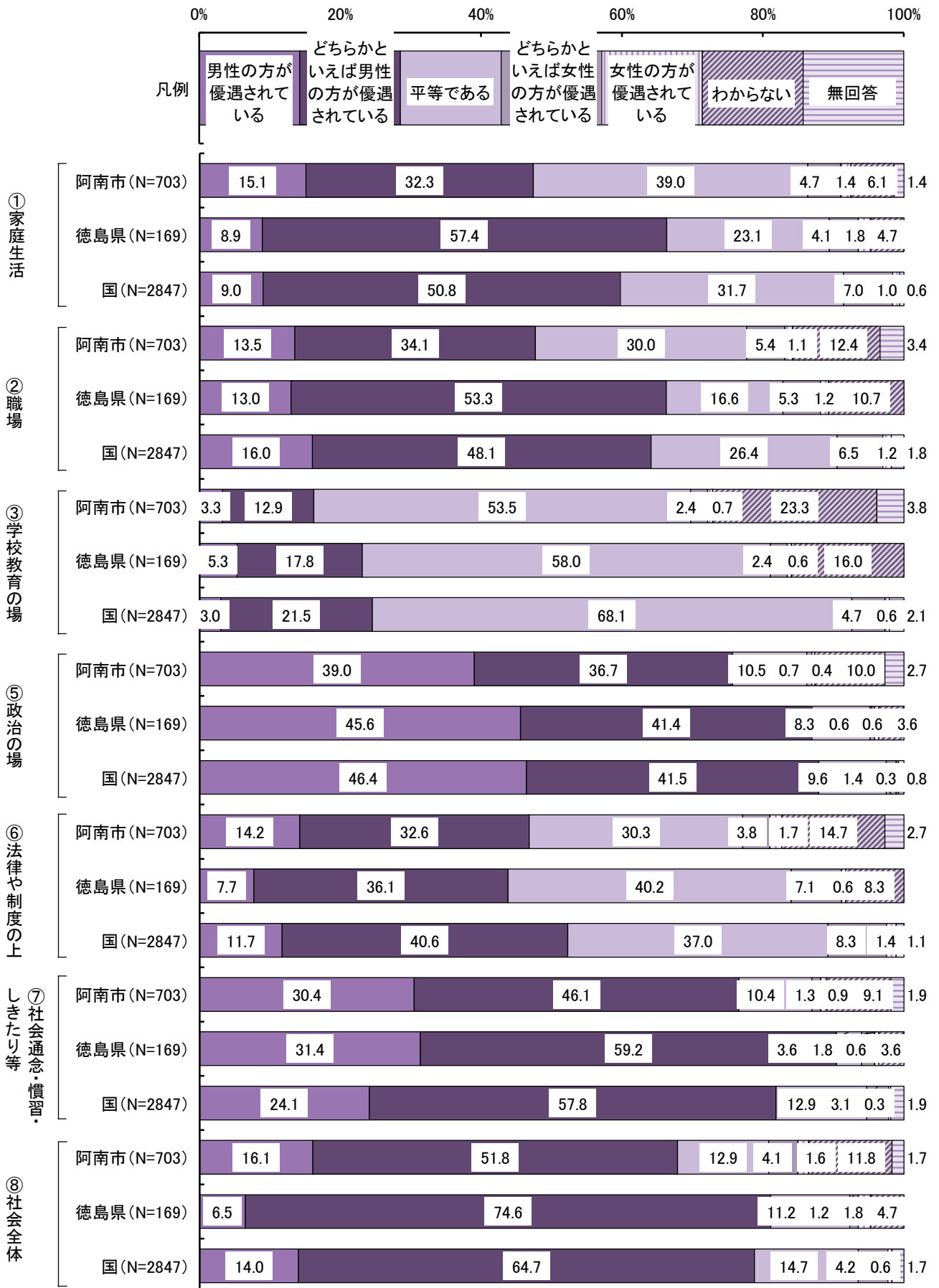


【男性・年齢別】



徳島県、国との比較では、阿南市は、「⑥法律や制度の上」以外のすべての分野で『男性優遇』意識が下回っています。「⑥法律や制度の上」の『男性優遇』では、徳島県を3.0ポイント上回っており、国よりも5.5ポイント下回っています。

【徳島県・国との比較】



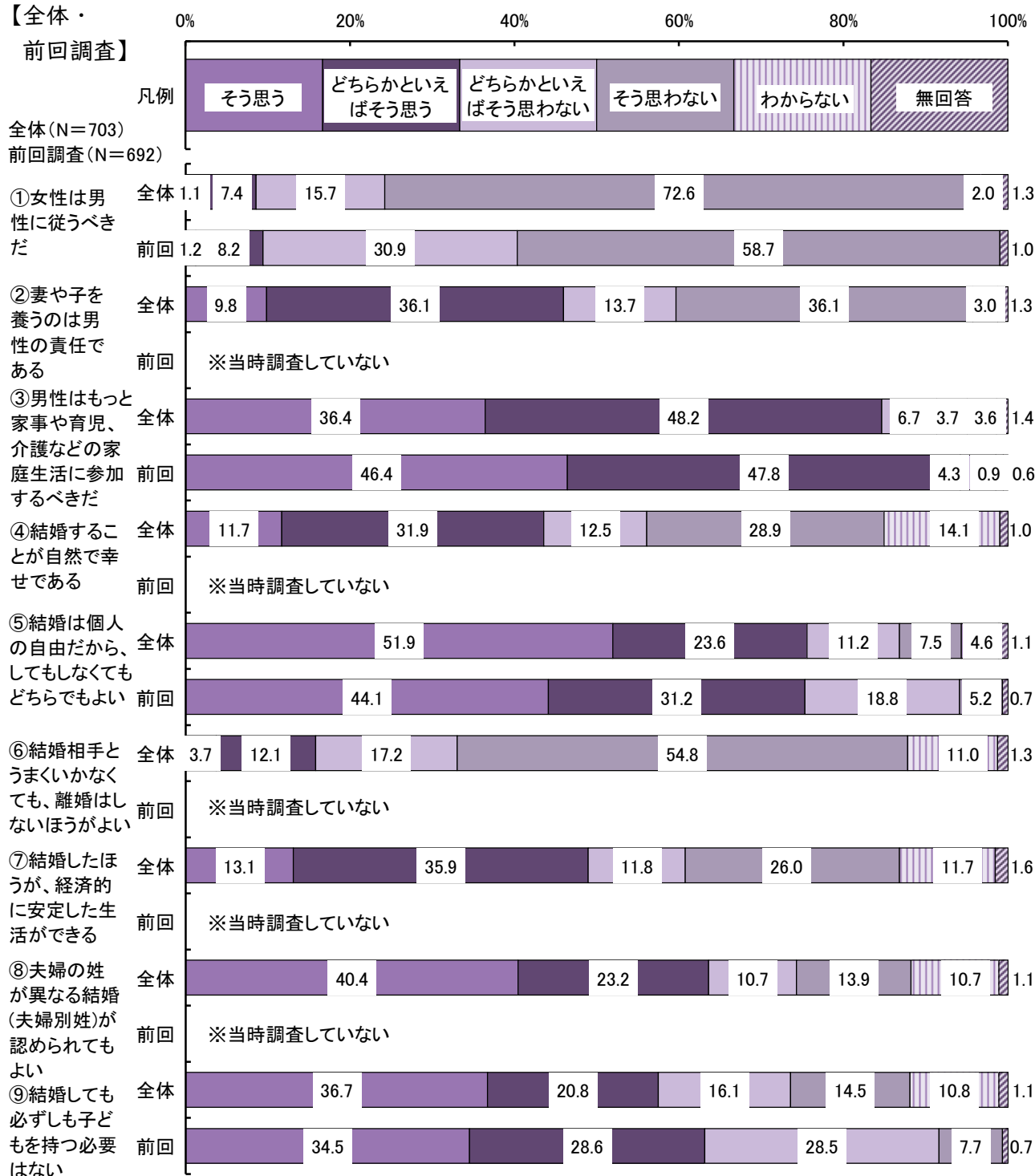
問2 次の①～⑨の項目についてあなたはどのように考えますか。

【①～⑨ごとに、それぞれ1つに○印】

男女の役割意識では、「③男性はもっと家事や育児、介護などの家庭生活に参加すべきだ」の『肯定意識』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）の割合が84.6%と最も高く、次いで「⑤結婚は個人の自由だから、してもしなくてもどちらでもよい」75.5%、「⑧夫婦の姓が異なる結婚（夫婦別姓）が認められてもよい」63.6%、「⑨結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」57.5%となっています。

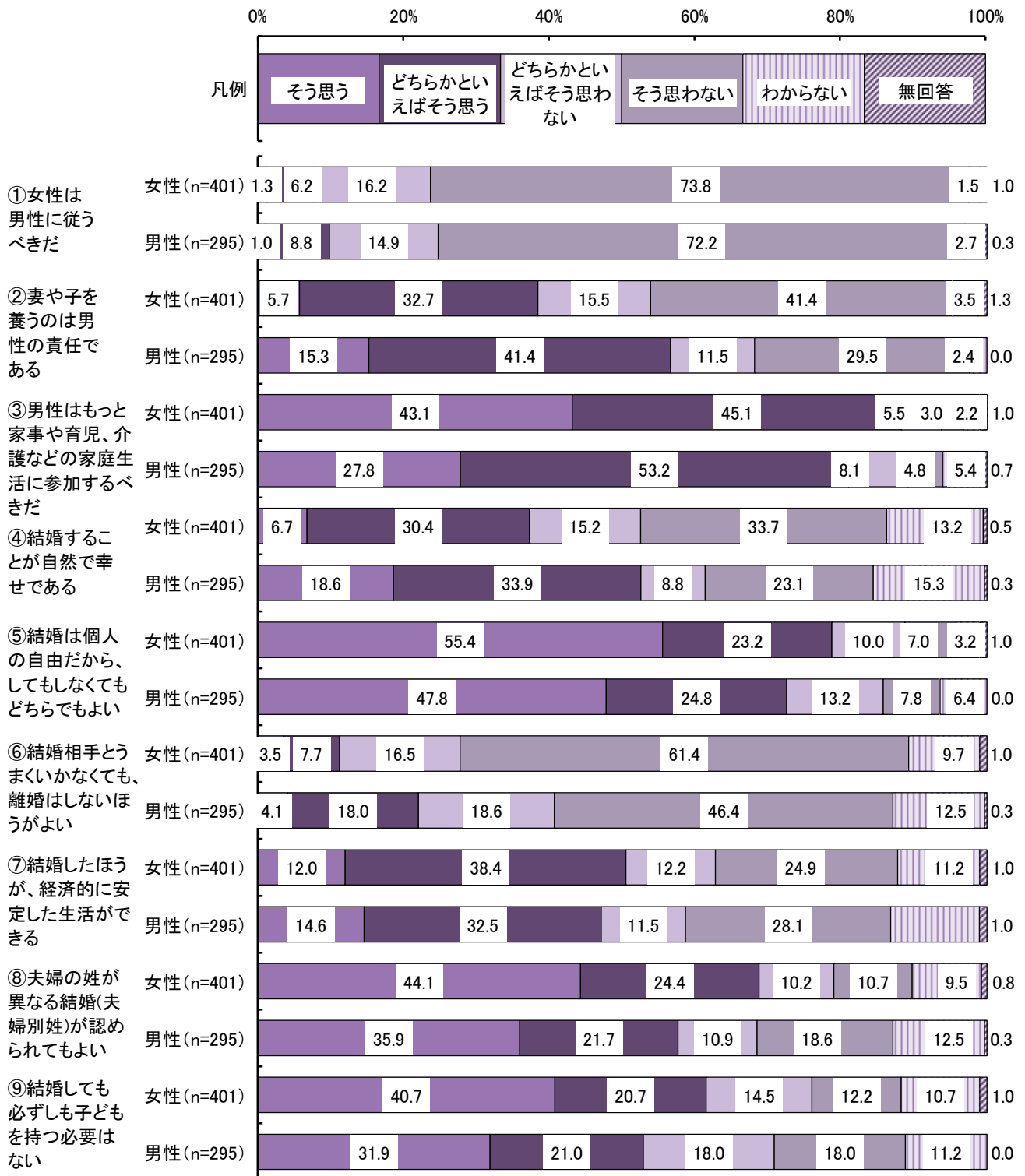
一方、『否定意識』（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計）では、「①女性は男性に従うべきだ」の割合が88.3%と最も高く、次いで「⑥結婚相手とうまくいかなくても、離婚はしないほうがよい」72.0%となっています。

【全体・前回調査】



性別でみる男女の役割意識では、「①女性は男性に従うべきだ」は男女ともに概ね同様な傾向となっています。『肯定意識』では、「③男性はもっと家事や育児、介護などの家庭生活に参加するべきだ」「⑤結婚は個人の自由だから、してもしなくてもどちらでもよい」「⑦結婚したほうが、経済的に安定した生活ができる」「⑧夫婦の姓が異なる結婚(夫婦別姓)が認められてもよい」「⑨結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」は女性が上回っています。「②妻や子を養うのは男性の責任である」「④結婚することが自然で幸せである」「⑥結婚相手とうまくいかなくても、離婚はしないほうがよい」は男性が上回っています。

【性別】



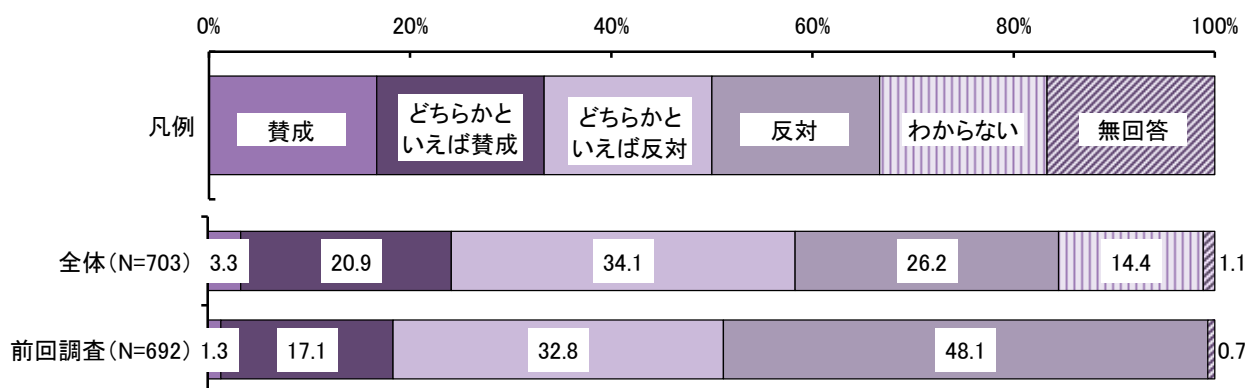
問3 あなたは、「男性は外で働き、女性は家庭で家事や育児を担うべきだ」という考え方についてどのように思いますか。【いずれか1つに○印】

男性は外、女性は家庭という考え方では、『否定意識』（「反対」と「どちらかといえば反対」の合計）の割合が60.3%と、『肯定意識』（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計、以下同じ）割合24.2%よりも高くなっています。

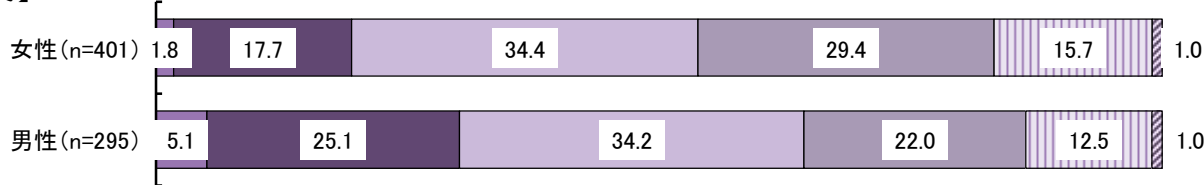
性別では、男性の『肯定意識』の割合が30.2%と、女性の19.5%よりも10.7ポイント高くなっています。

徳島県・国との比較では、阿南市の『肯定意識』は、徳島県、国よりも下回っています。阿南市の『否定意識』は、徳島県よりも4.7ポイント上回っており、国よりも4.0ポイント下回っています。

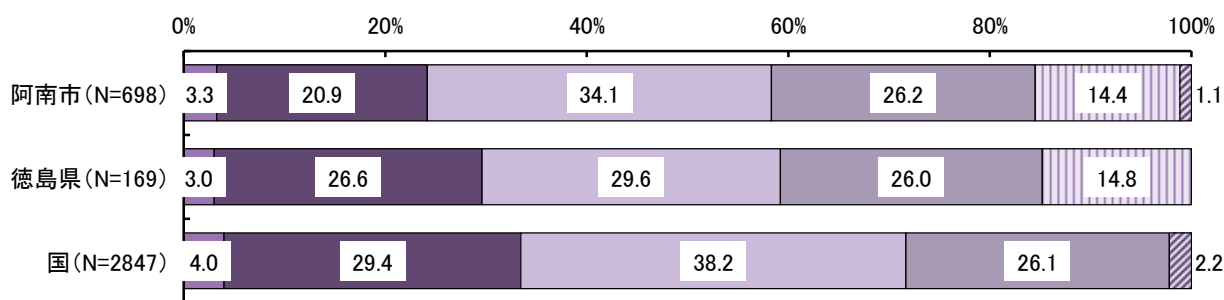
【全体・前回調査】



【性別】



【徳島県・国との比較】

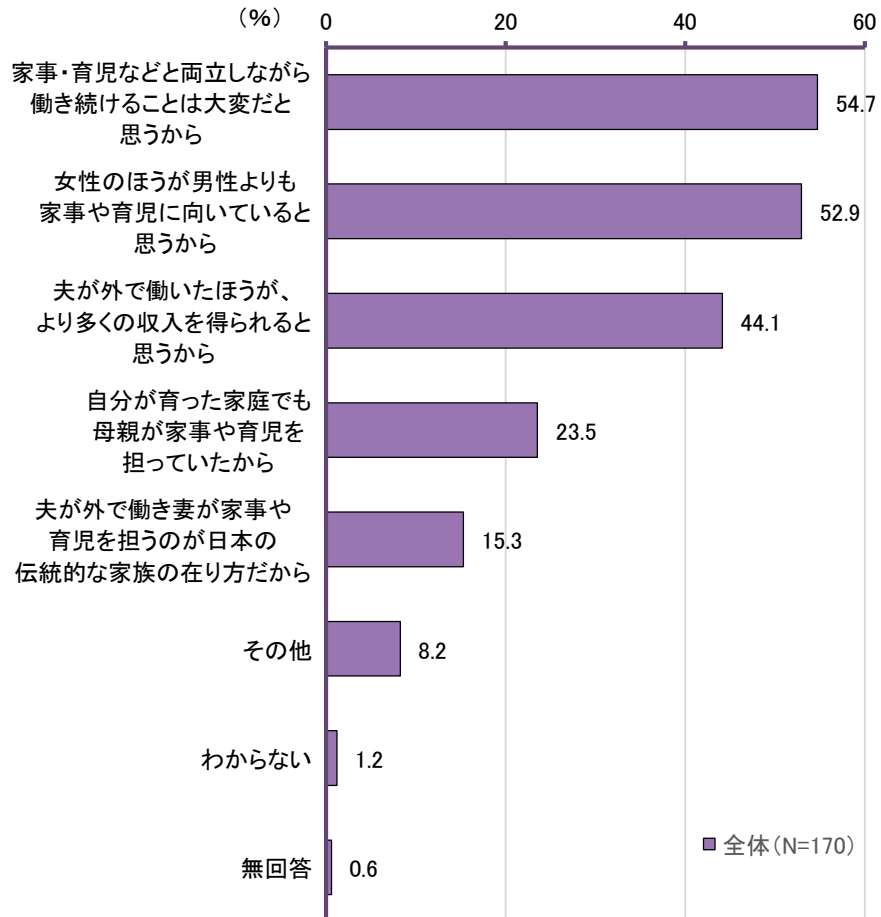


出典：徳島県データ…第7回男女共同参画に関する意識調査（令和2年8月）
 国のデータ…男女共同参画社会に関する世論調査（令和4年11月）

<問3-①は、問3で「1.賛成」、「2.どちらかといえば賛成」を選択した方のみお答えください>
問3-① あなたがそう思う理由を選んでください。【あてはまるものすべてに○印】

『肯定意識』の理由では、「家事・育児などと両立しながら働き続けることは大変だと思うから」が54.7%と最も高く、次いで「女性のほうが男性よりも家事や育児に向いていると思うから」52.9%、「夫が外で働いたほうが、より多くの収入を得られると思うから」44.1%、「自分が育って家庭でも母親が家事や育児を担っていたから」23.5%となっています。

【全体】



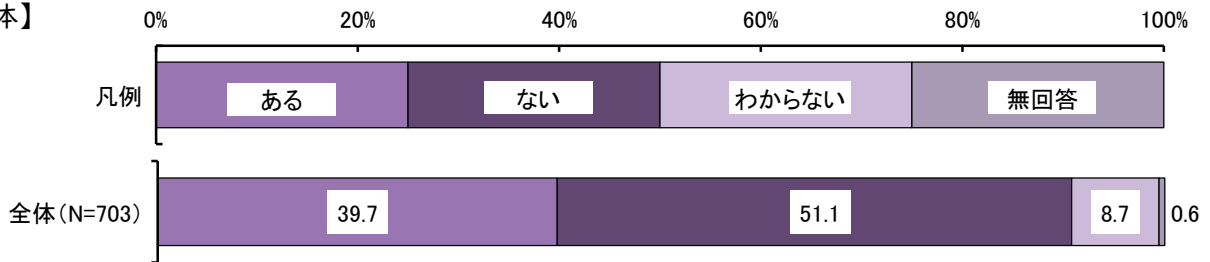
<すべての方がお答えください>

問4 あなたは、「女性であること」又は「男性であること」によって、負担感や生きづらさを感じたことがありますか。【いずれか1つに○印】

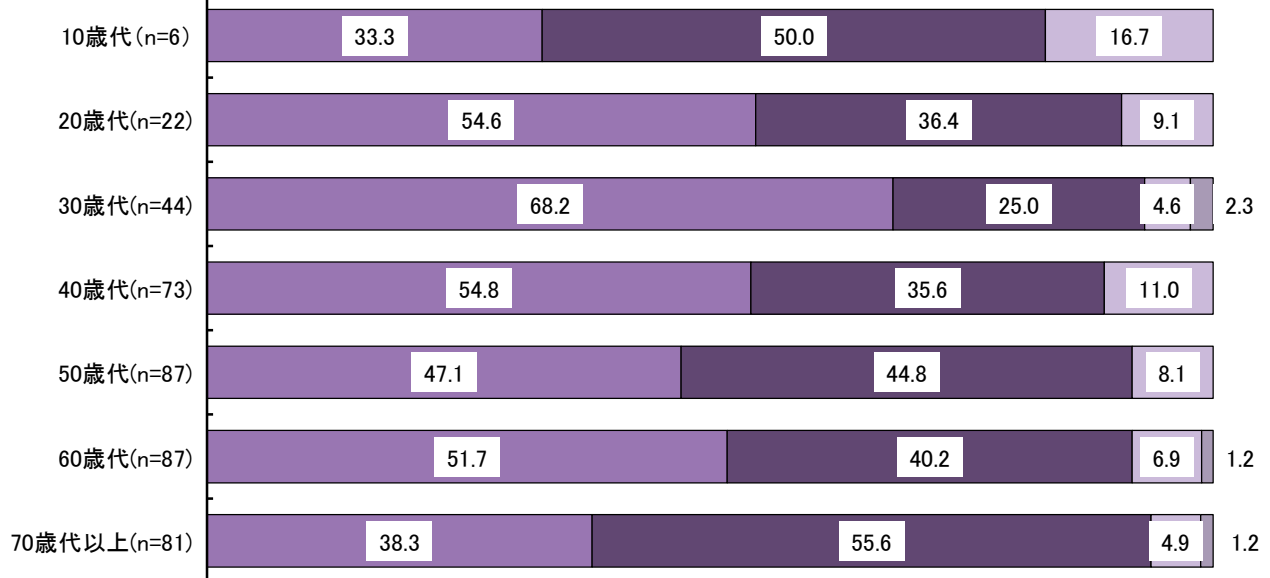
性による負担や生きづらさでは、「ある」の割合が39.7%、「ない」が51.1%、「わからない」8.7%となっています。

性別・年齢別では、女性は30歳代の「ある」の割合が68.2%と最も高くなっています。男性は30歳代の「ある」の割合が35.5%となっていますが、すべての年代で「ある」の割合が女性よりも低くなっています。

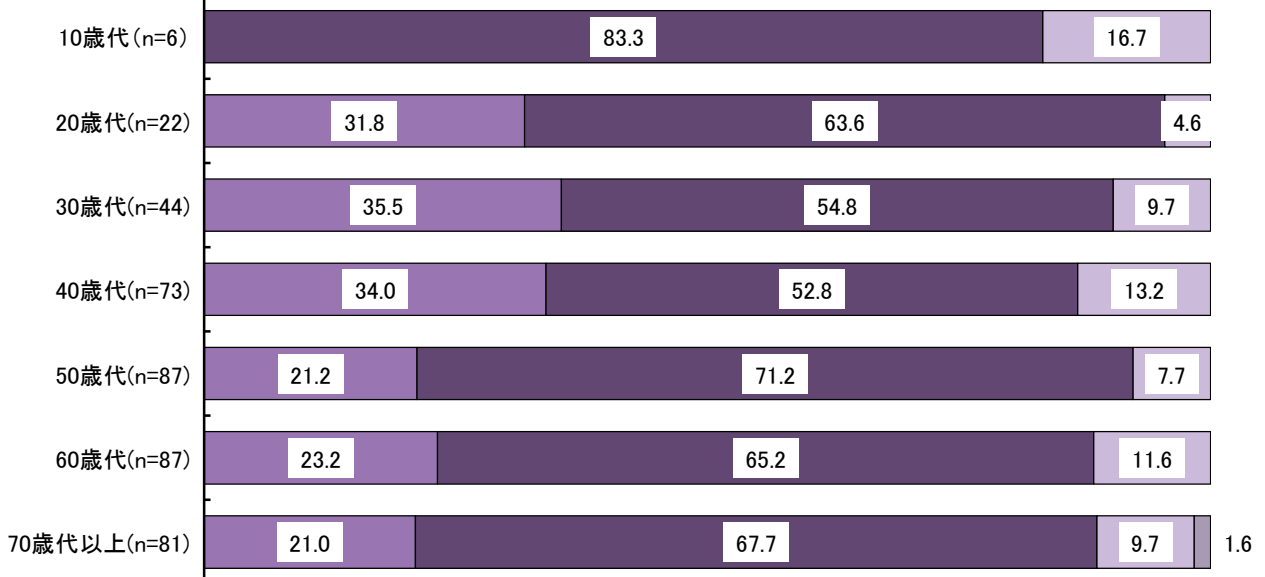
【全体】



【女性・年齢別】



【男性・年齢別】

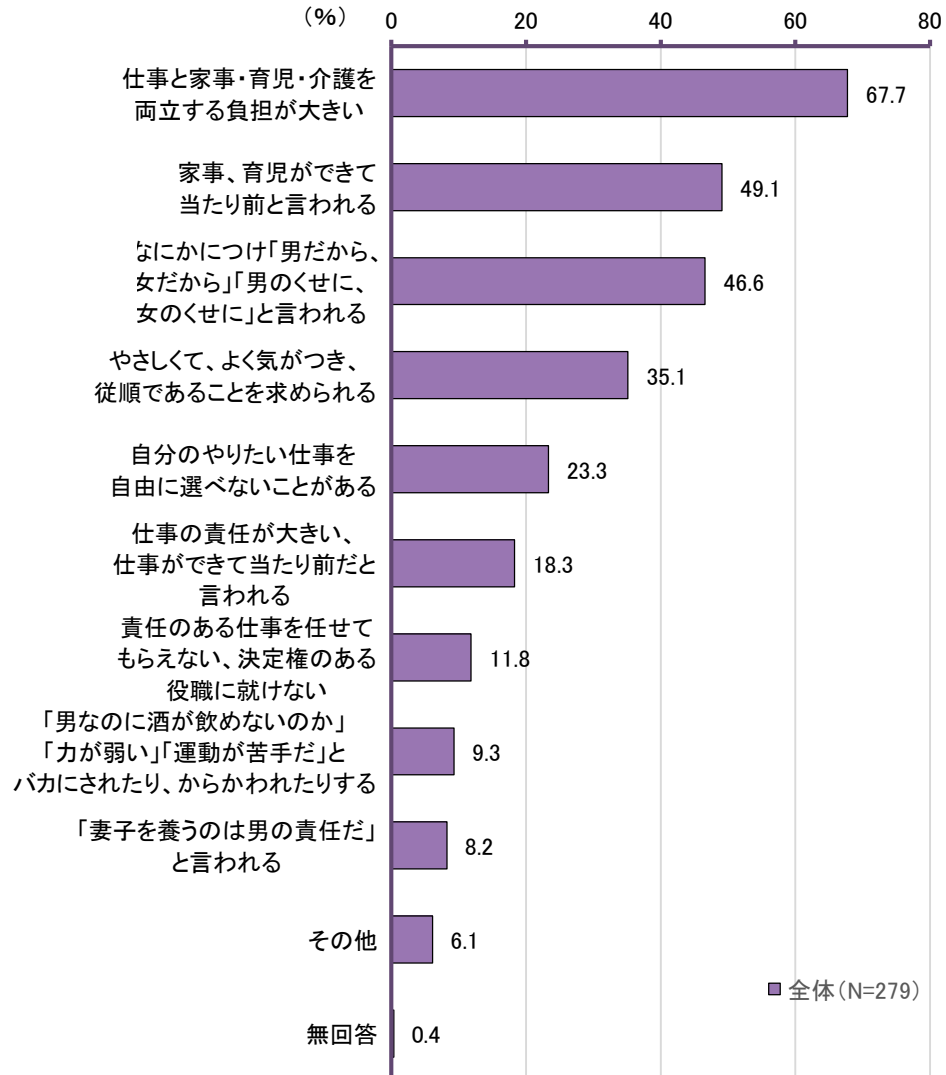


<問4-①は、問4で「1.ある」を選択した方のみお答えください>

問4-① あなたがそう思う理由を選んでください。【あてはまるものすべてに○印】

「ある」と思う理由では、「仕事と家事・育児・介護を両立する負担が大きい」が67.7%と最も高く、次いで「家事・育児ができて当たり前と言われる」49.1%、「なにかにつけ「男だから、女だから」「男のくせに、女のくせに」と言われる」46.6%、「優しく、よく気がつき、従順であることを求められる」35.1%となっています。

【全体】



3. 家庭や地域における活動・役割分担についておたずねします。

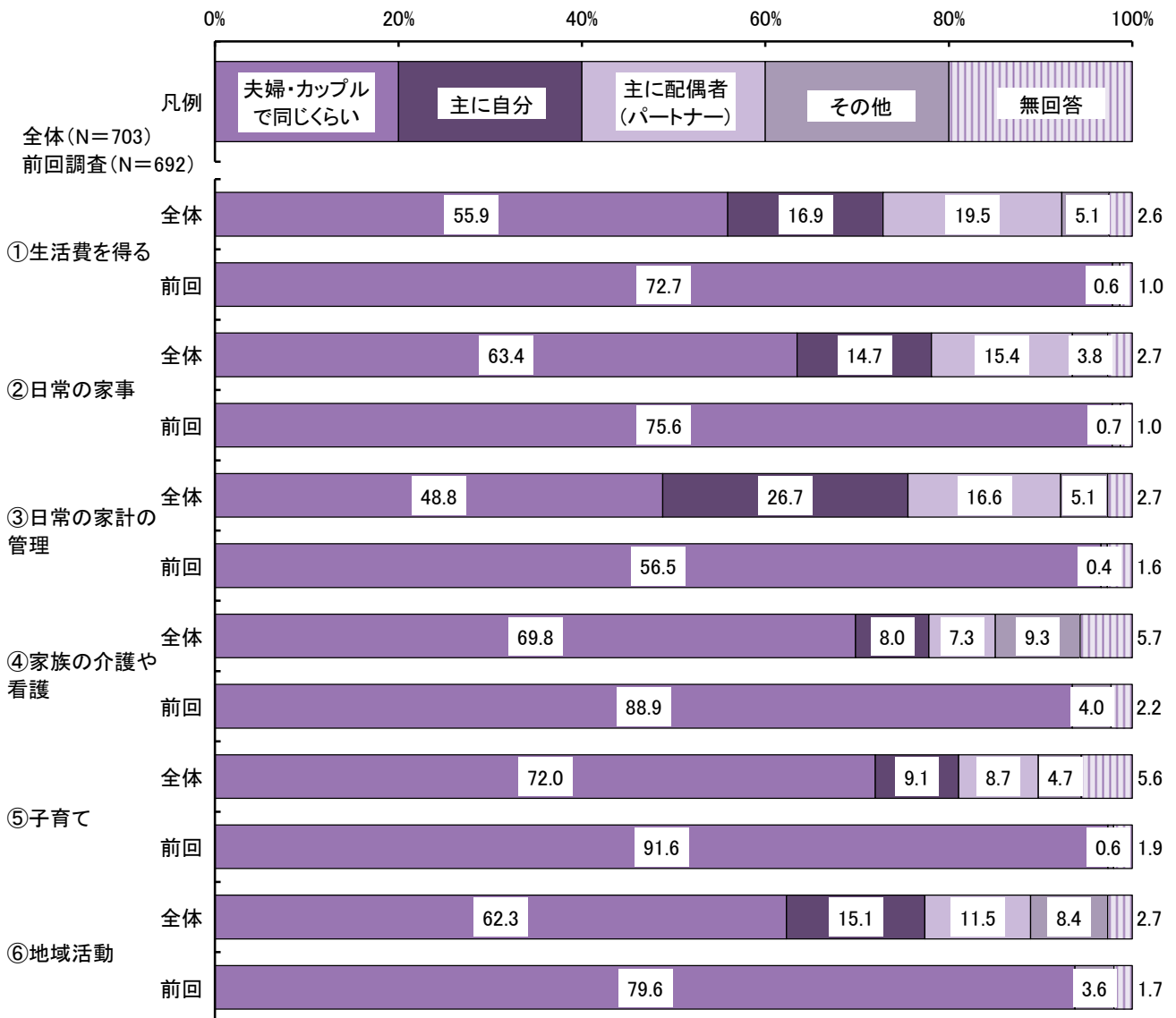
問5 あなたは、次にあげるような家庭でのことがらは、夫婦やパートナーでどのようにするのが望ましいと思いますか。また、実際にあなたの家庭では、どのように分担していますか。

【①～⑥ごとに、理想と現実それぞれ1つに○印】

理想的な活動・役割分担では、「夫婦・カップルで同じくらい」の割合が高い項目は、「⑤子育て」が72.0%と最も高く、次いで「④家族の介護や看護」69.8%、「②日常の家事」63.4%、「地域活動」62.3%となっています。

前回調査との比較では、すべての項目で「夫婦・カップルで同じくらい」の割合が減少しています。

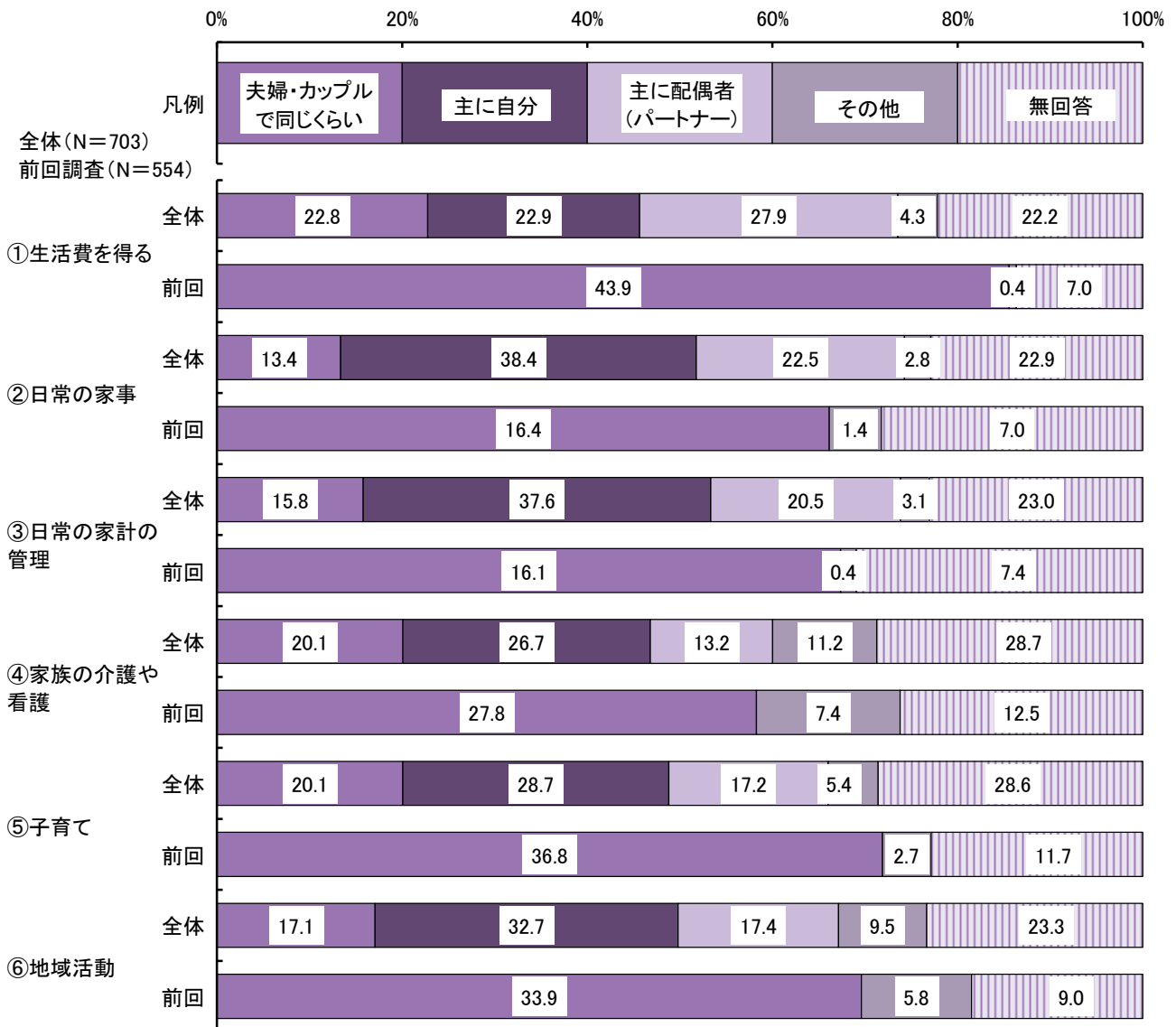
【理想-全体・前回調査】



活動・役割分担の現実では、「主に自分」の割合が高い項目は、「②日常の家事」が38.4%と最も高く、次いで「③日常の家計の管理」37.6%、「⑥地域活動」32.7%、「⑤子育て」28.7%となっており、「①生活費を得る」以外は「主に自分」が「主に配偶者（パートナー）」よりも高くなっています。

前回調査と比較では、「夫婦・カップルで同じくらい」の割合が、すべての項目で前回よりも減少しています。

【現実-全体・前回調査】

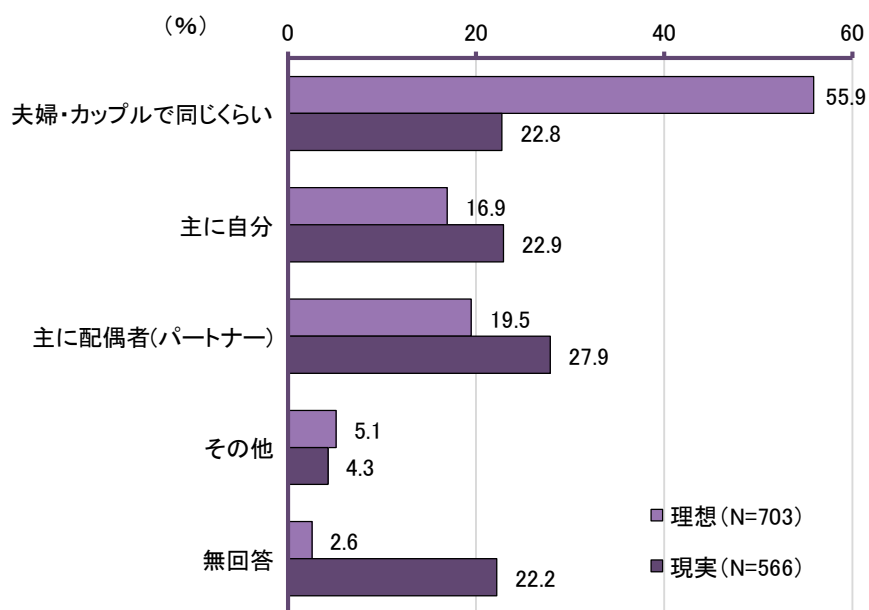


活動・役割分担の理想と現実の比較では、「夫婦・カップルで同じくらい」の割合は、「⑤子育て」の「理想」72.0%、「現実」20.1%とその差が51.9ポイントと最も大きくなっており、次いで「②日常の家事」の差が50.0ポイント、「④家族の介護や看護」の差が49.7ポイント、「⑥地域活動」の差が45.2ポイントとなっています。

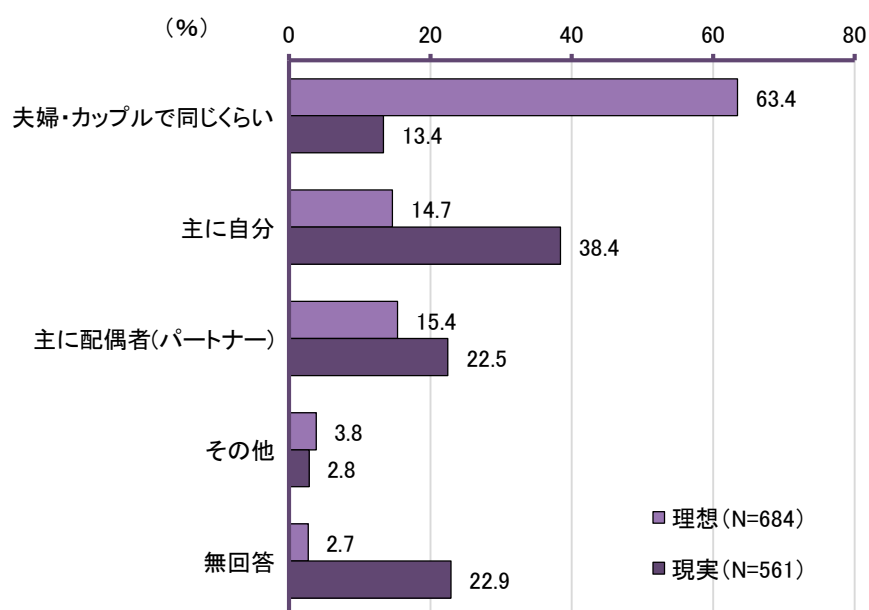
「主に自分」の割合は、「②日常の家事」の「理想」14.7%、「現実」38.4%とその差が23.7ポイントと最も大きくなっています。次いで「⑤子育て」の差が19.6ポイント、「④家族の介護や看護」の差が18.7ポイント、「⑥地域活動」の差が17.6ポイントとなっています。

【全体】

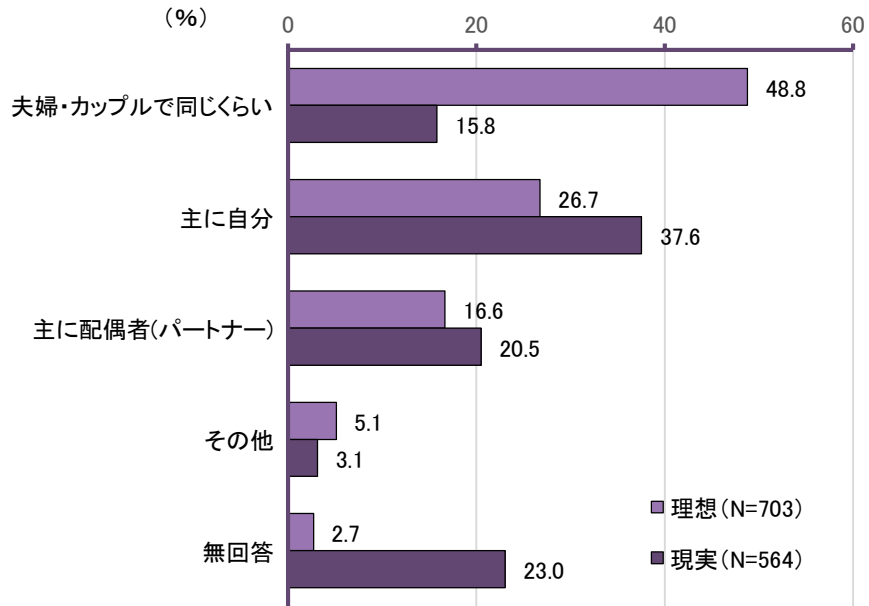
①生活費を得る



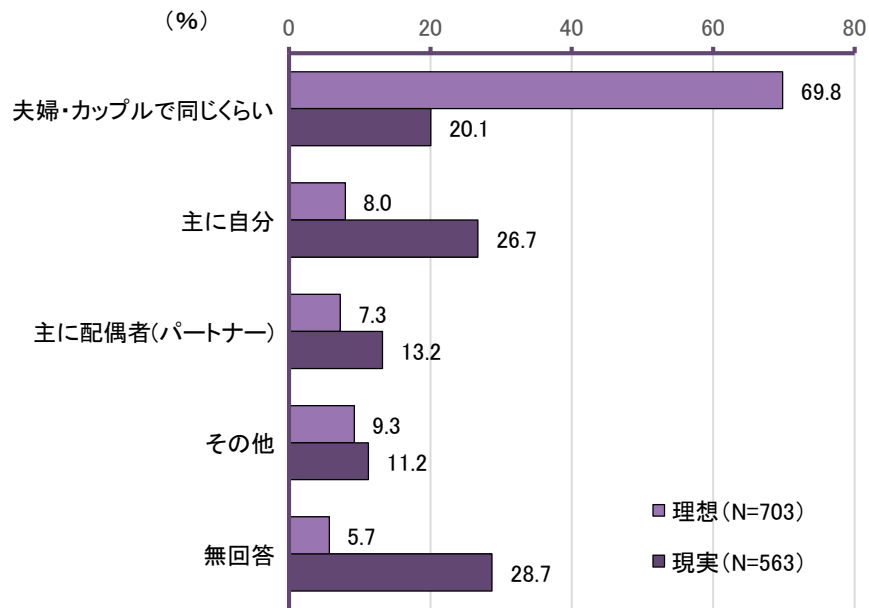
②日常の家事（食事・掃除・洗濯）



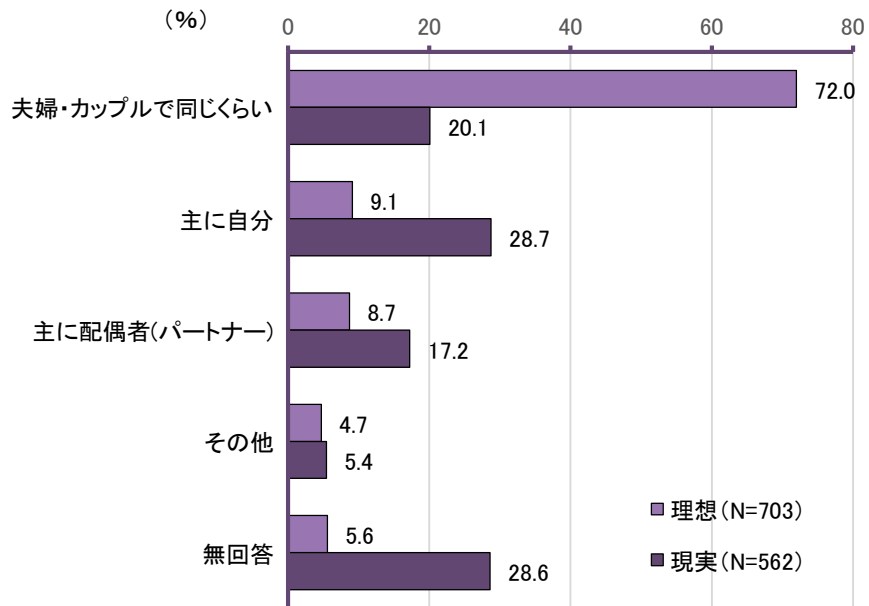
③日常の家計の管理



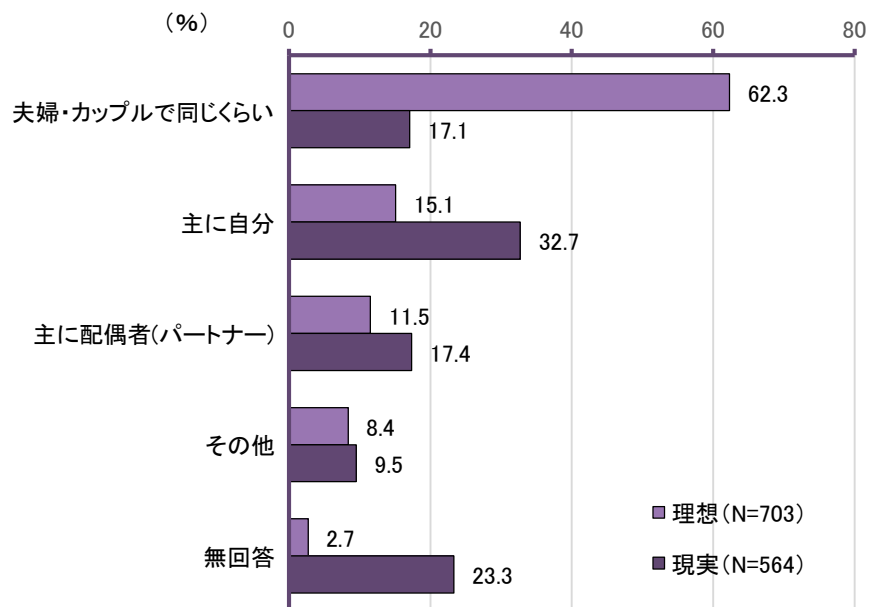
④家族の介護や看護



⑤子育て（育児・しつけなど）



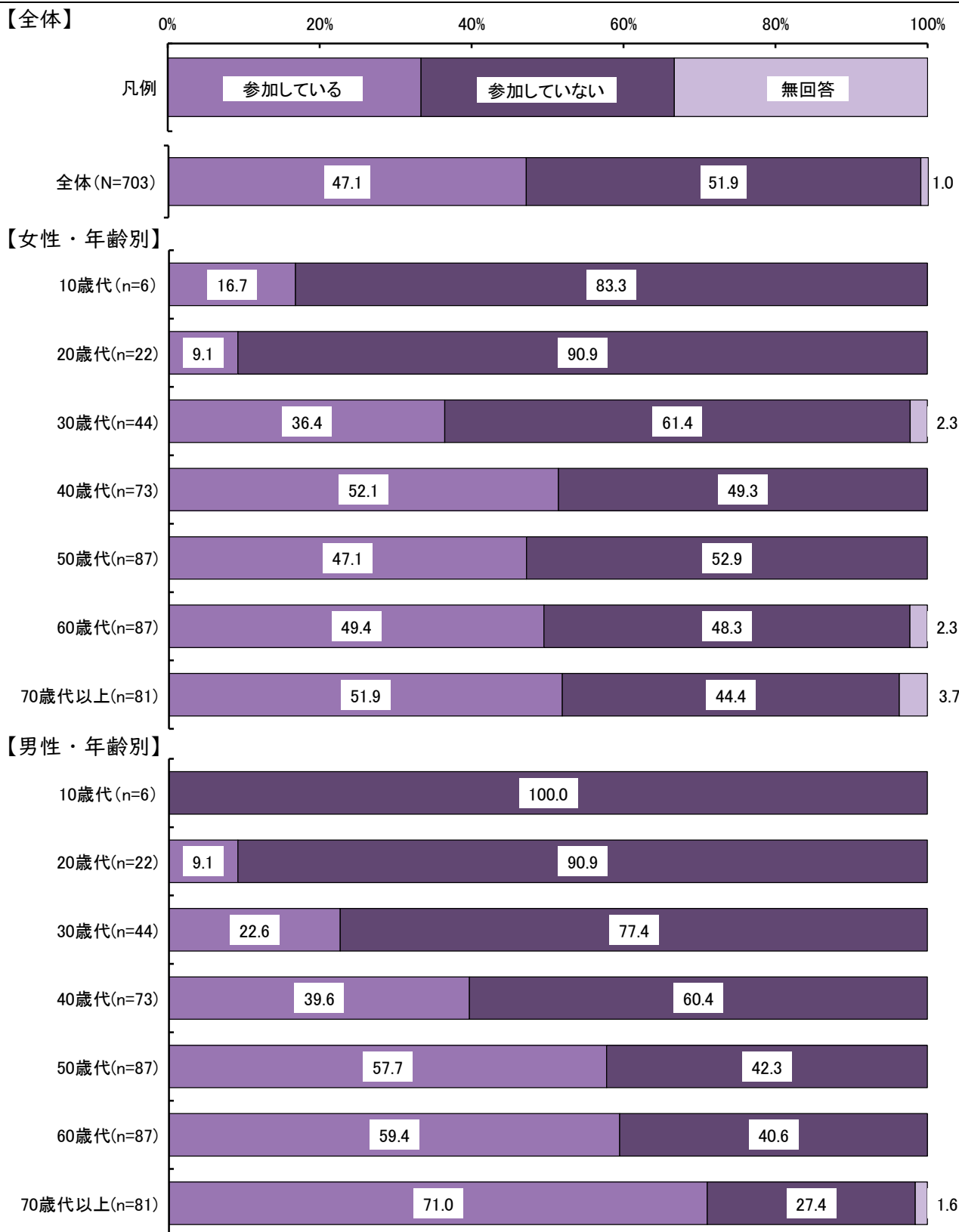
⑥地域活動（自治会など）



問6 あなたは、地域活動等に現在参加していますか。【いずれか1つに○印】

地域活動等への参加では、「参加している」の割合が47.1%、「参加していない」の割合が51.9%となっています。

性別・年齢別では、女性は40歳代の「参加している」の割合が52.1%と最も高く、40歳以上で約50%前後となっています。男性は年齢が上がるほど、「参加している」の割合が高くなり、70歳以上で71.0%と最も高くなっています。



<問 6—①、問 6—②は、問 6 で「1.参加している」を選択した方のみお答えください>

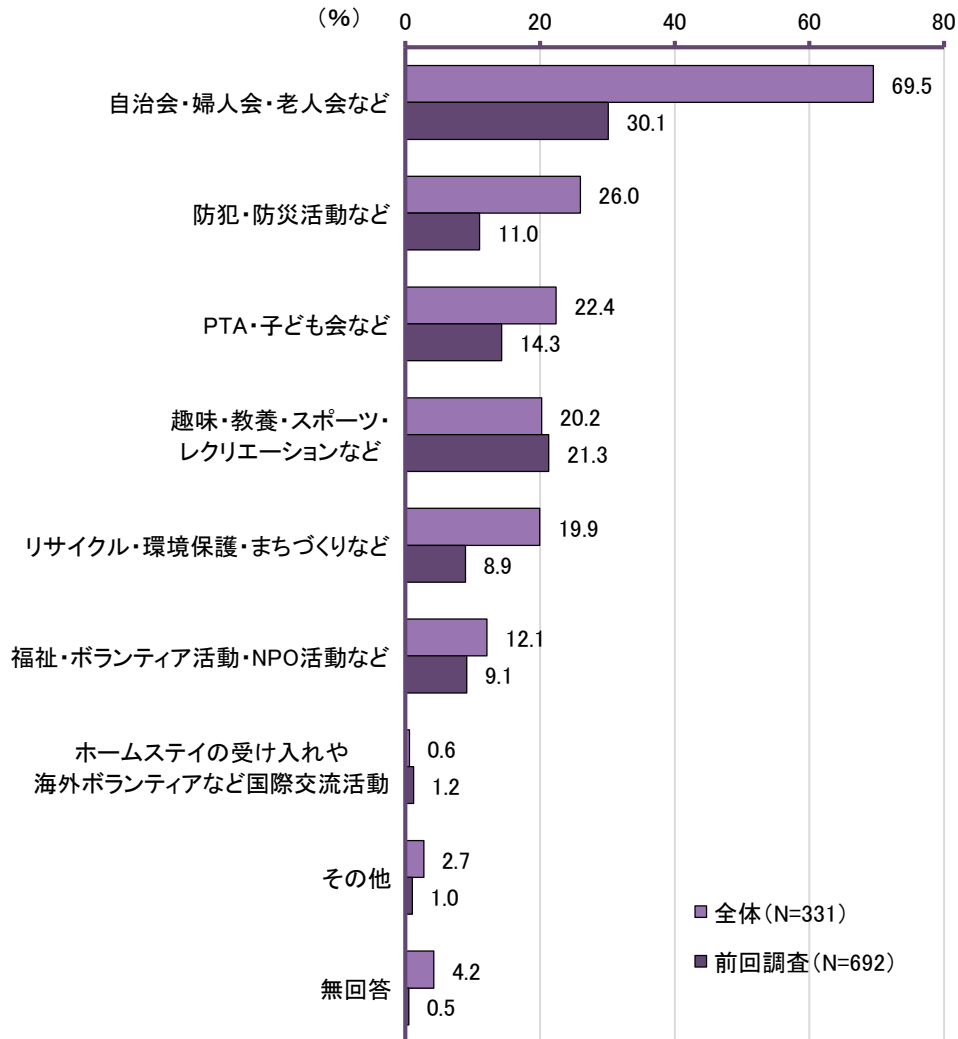
問 6—① あなたが参加している地域活動等はどうのような活動ですか。

【あてはまるものすべてに○印】

参加している地域活動等では、「自治会・婦人会・老人会など」の割合が69.5%と最も高く、次いで「防犯・防災活動など」26.0%、「PTA・子ども会など」22.4%、「趣味・教養・スポーツ・レクリエーションなど」20.2%となっています。

前回調査との比較では、「自治会・婦人会・老人会など」が前回調査よりも39.4ポイントと最も大きく増加しています。

【全体・前回調査】

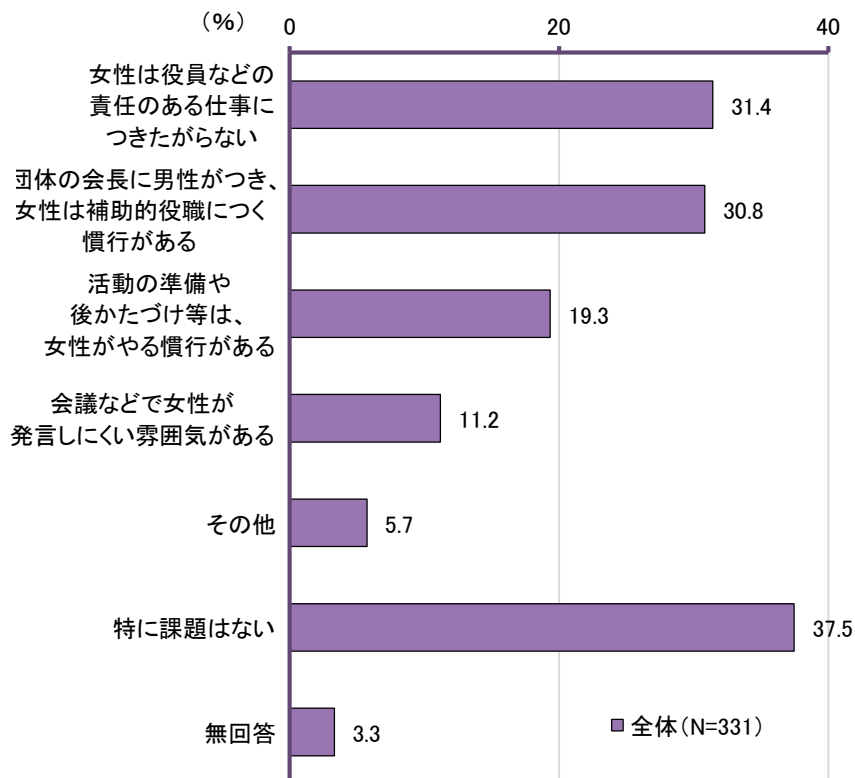


問 6—② あなたが参加している地域活動等について、どのようなことが課題だと思いますか。

【あてはまるものすべてに○印】

地域活動等の課題では、「特に課題はない」が37.5%と最も高く、次いで「女性は役員などの責任ある仕事につきたがらない」31.4%、「団体の会長に男性がつき、女性は補助的役職につく傾向がある」30.8%、「活動の準備や後かたづけ等は、女性がやる慣行がある」19.3%となっています。

【全体・前回調査】



<すべての方がお答えください>

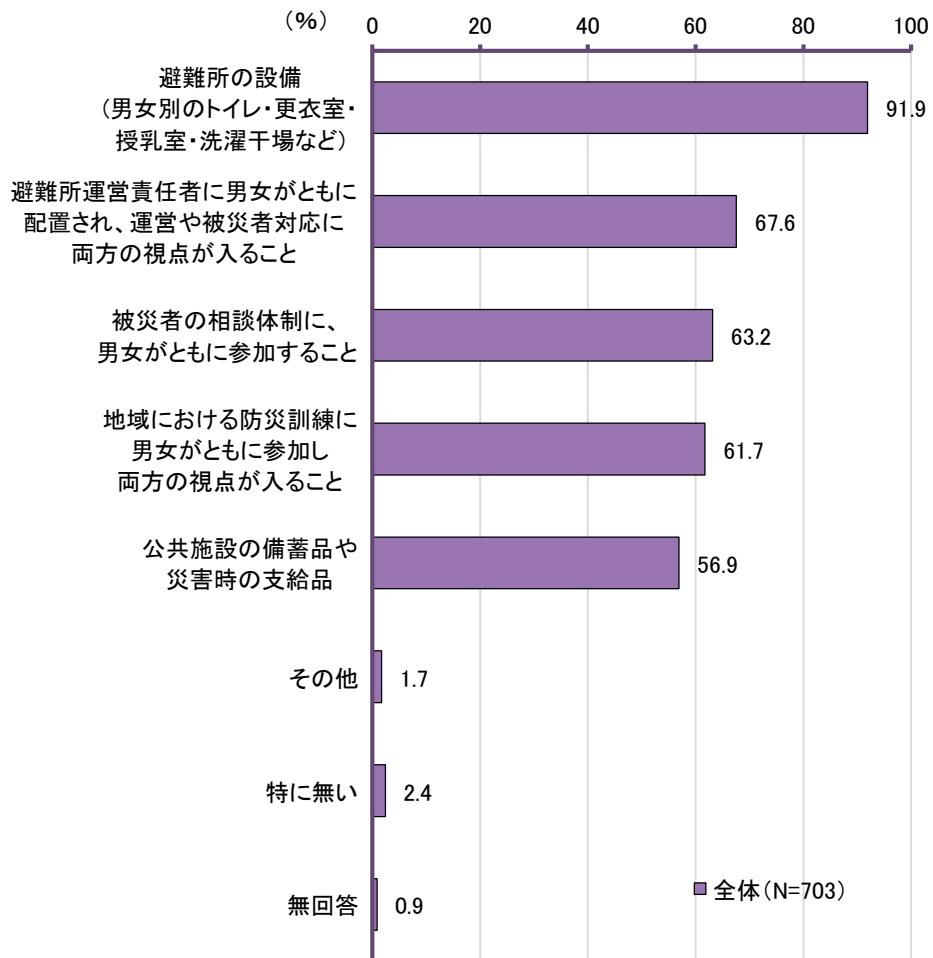
問7 地域の防災・災害対応において、性別に配慮した対応が必要だと思うものを選んでください。

【あてはまるものすべてに○印】

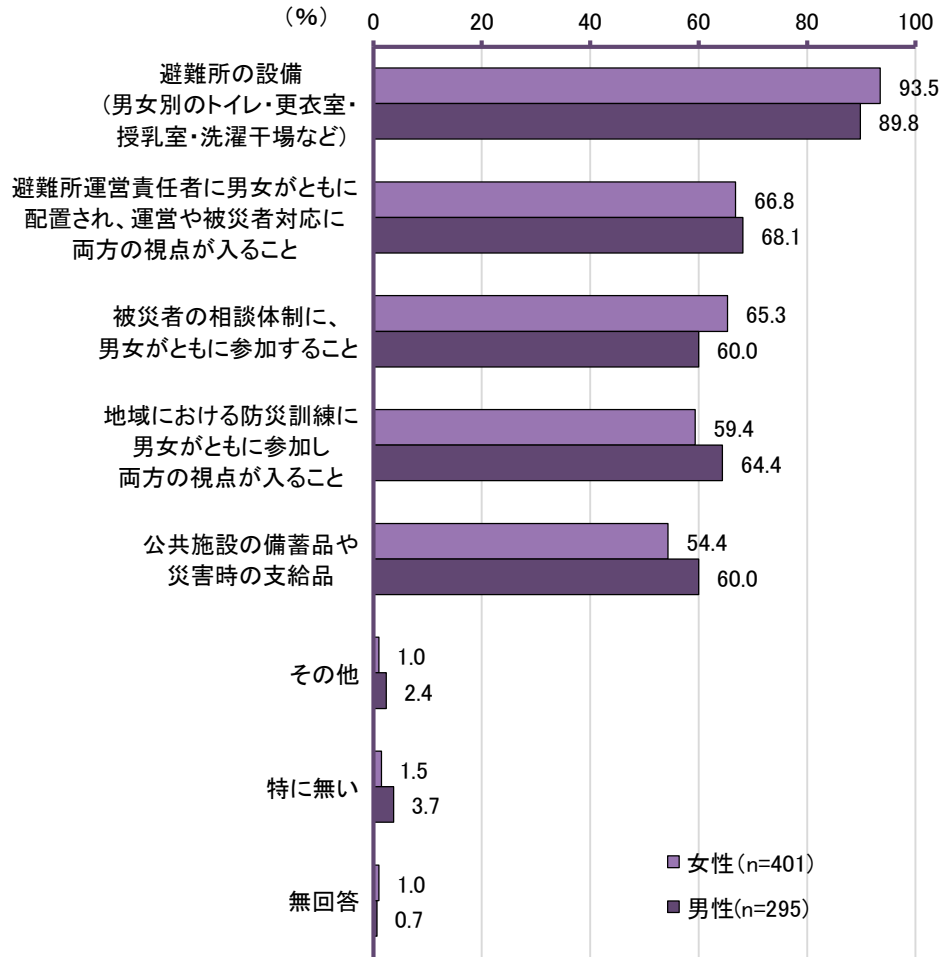
地域防災・災害対策における性別に配慮した対応では、「避難所の設備（男女別のトイレ・更衣室・授乳室・洗濯干場など）」の割合が91.9%と最も高くなっており、次いで「避難所運営責任者に男女がともに配置され、運営や被災者対応に両方の視点が入ること」67.6%、「被災者の相談体制に、男女がともに参加すること」63.2%、「地域における防災訓練に男女がともに参加し、両方の視点が入ること」61.7%となっています。

性別では、概ね同じ傾向となっています。

【全体】



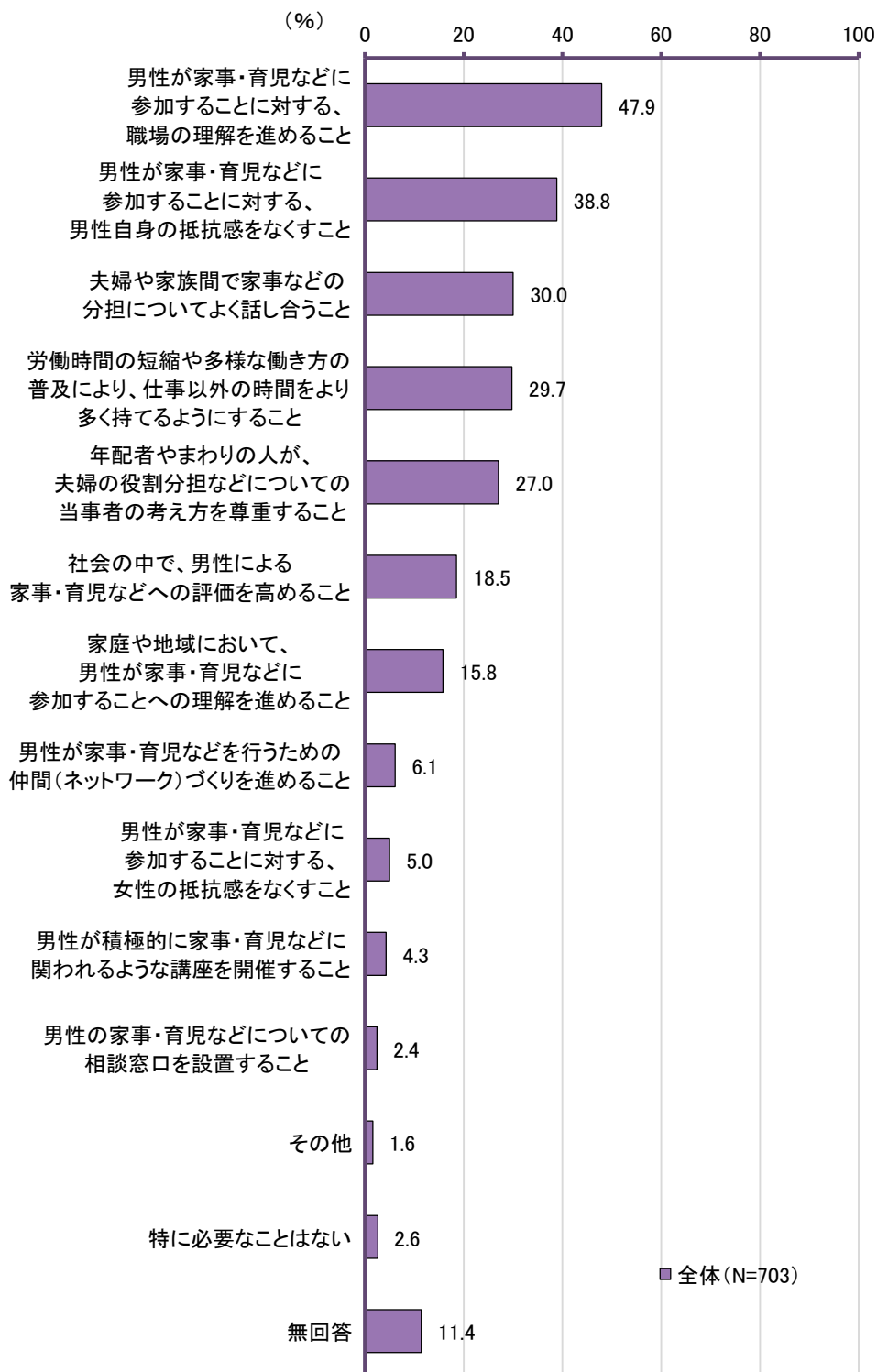
【性別】



問 8 仕事中心の生活を求められることが多かった男性が、家庭生活や地域活動に関わることについては、まだ多くの課題があります。あなたは、今後男性が女性とともに、家事・子育て・介護に関わり、地域活動などに積極的に参加していくには、どのようなことが必要だと思いますか。【○印3つまで】

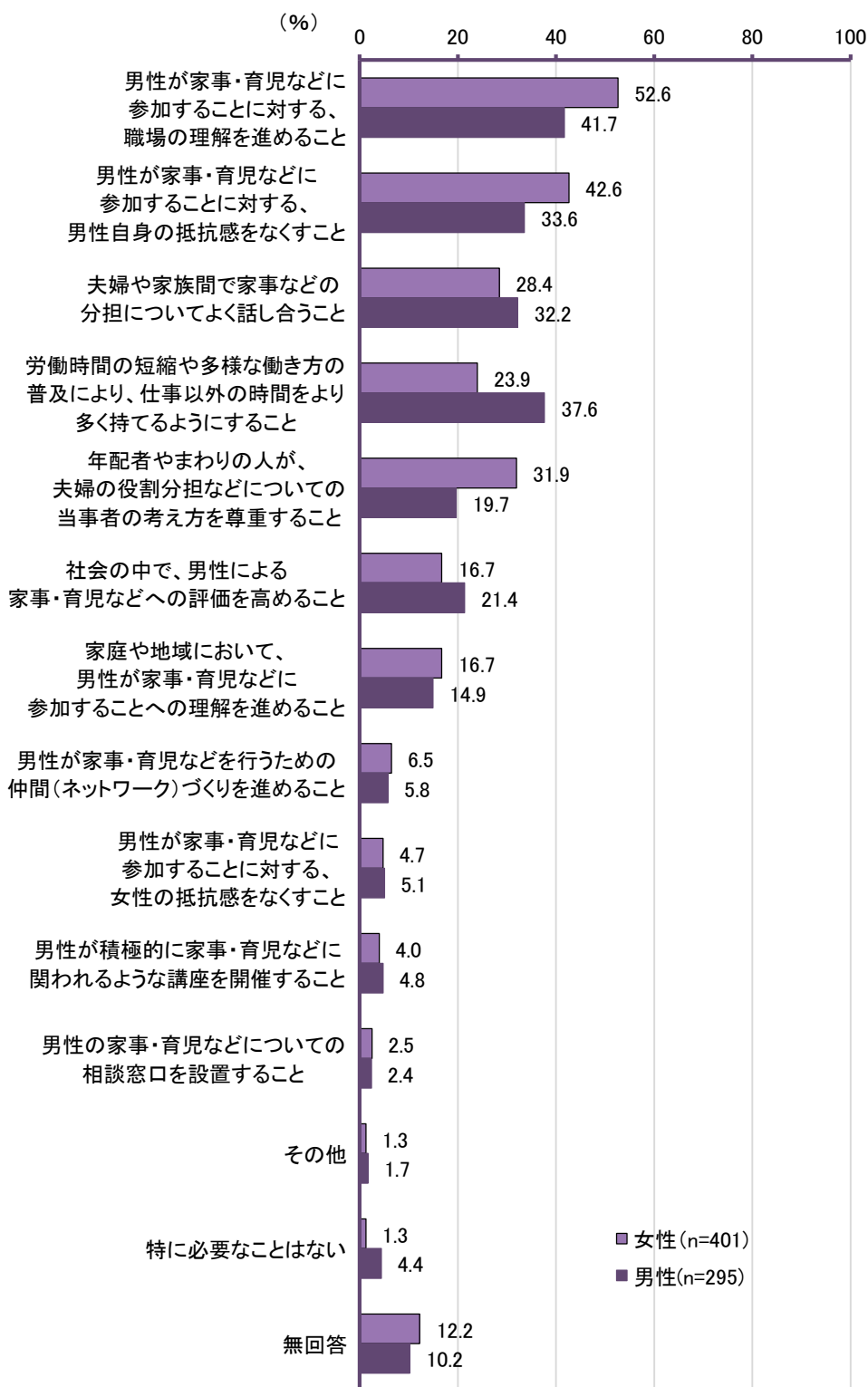
男性の家庭生活・地域活動等への積極的な参加では、「男性が家事・育児などに参加することに対する、職場の理解を進めること」の割合が47.9%と最も高く、次いで「男性が家事・育児などに参加することに対する、男性自身の抵抗感をなくすこと」38.8%、「夫婦や家庭間で家事などの分担についてよく話し合うこと」30.0%、「労働時間の短縮や多様な働き方の普及により、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」29.7%となっています。

【全体】



性別では、「労働時間の短縮や多様な働き方の普及により、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」の割合が男性（37.6%）の方が女性（23.9%）よりも13.7ポイント高く、最も差が大きくなっています。次いで「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること」の割合が女性（31.9%）の方が男性（19.7%）よりも12.2ポイント高くなっています。

【性別】



4. 就業や仕事についておたずねします。

問9 女性の働き方に関して、あなた自身やあなたのパートナー、もしくは身近な人のことに「(1) 理想」と「(2) 現実」をお答えください。【(1) (2) ごとに、それぞれ1つに○印】

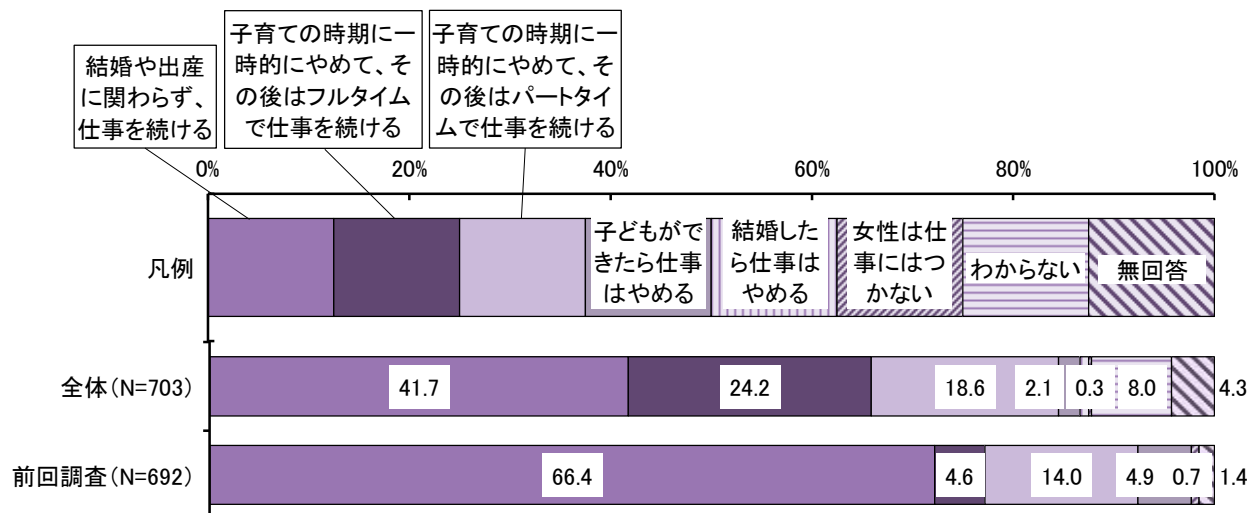
(1) 女性の働き方の理想

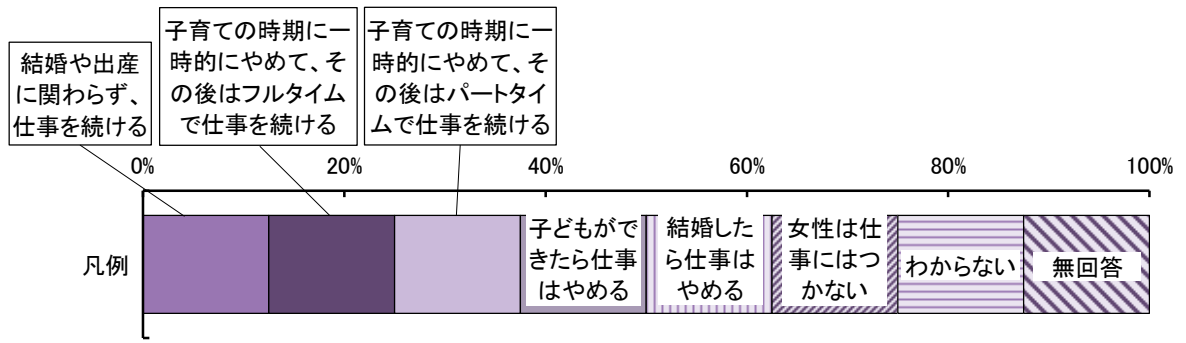
女性の働き方の理想では、「結婚や出産に関わらず、仕事を続ける」の割合が41.7%と最も高く、次いで「子育ての時期に一時的にやめて、その後はフルタイムで仕事を続ける」24.2%、「子育ての時期に一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事を続ける」18.6%となっています。

前回調査との比較では、「結婚や出産に関わらず、仕事を続ける」の割合が、前回(66.4%)から比べて24.7ポイントと大きく減少しています。一方「子育ての時期に一時的にやめて、その後はフルタイムで仕事を続ける」の割合が、前回(4.6%)よりも19.6ポイント増加しています。

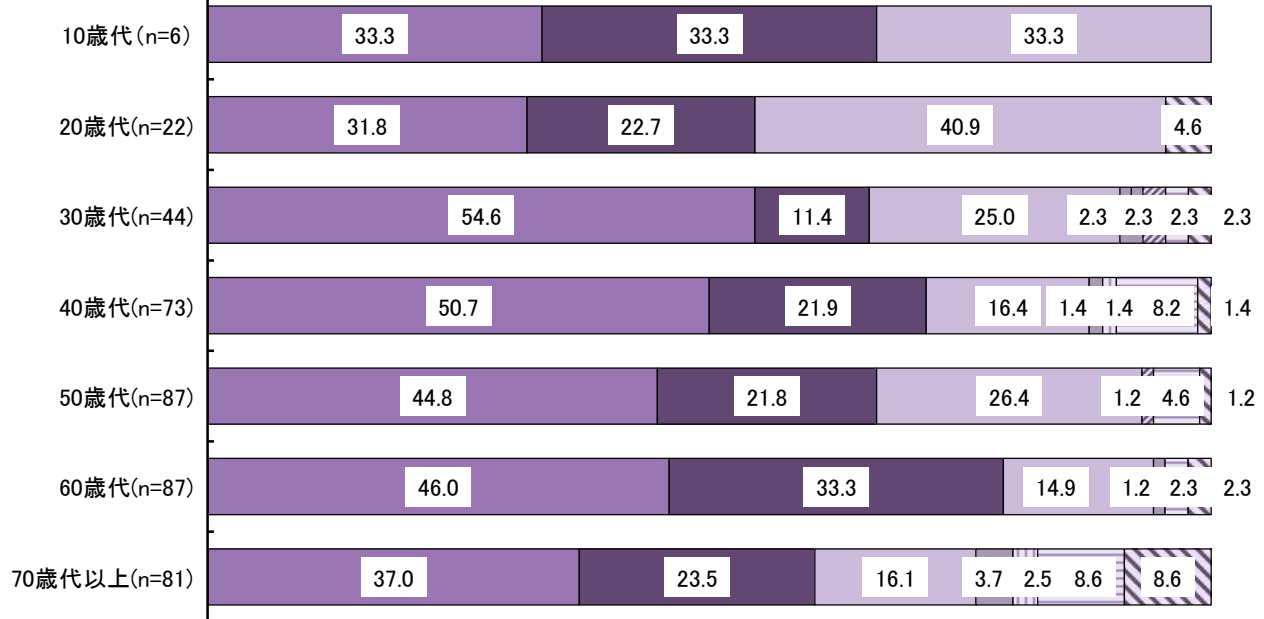
性別・年齢別では、女性は30歳代で「結婚や出産に関わらず、仕事を続ける」の割合が54.6%と最も高く、それ以降で概ね減少傾向となっています。男性は40歳代で「結婚や出産に関わらず、仕事を続ける」の割合が45.3%と最も高く、それ以降で減少傾向となっています。

【全体・前回調査】

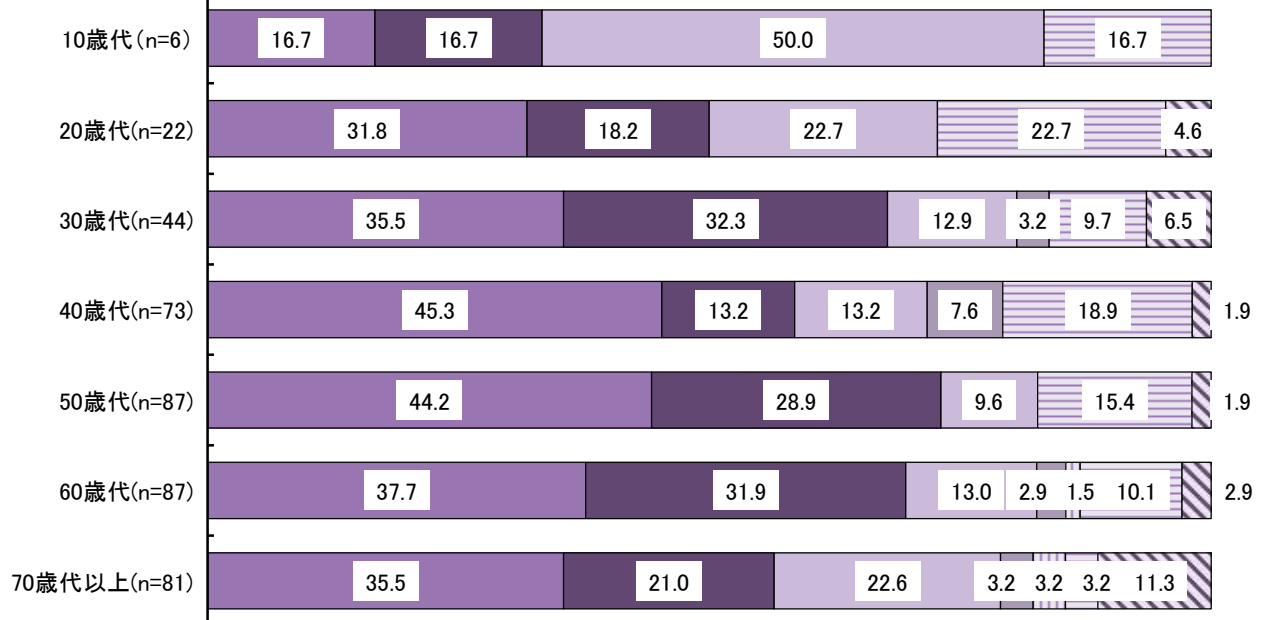




【女性・年齢別】



【男性・年齢別】



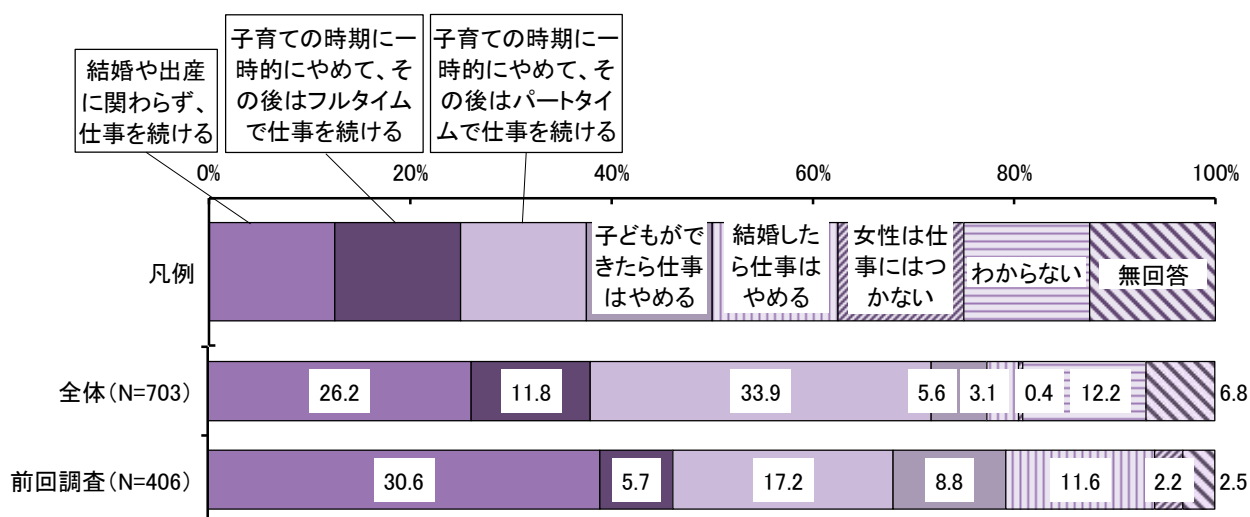
(2) 女性の働き方の現実

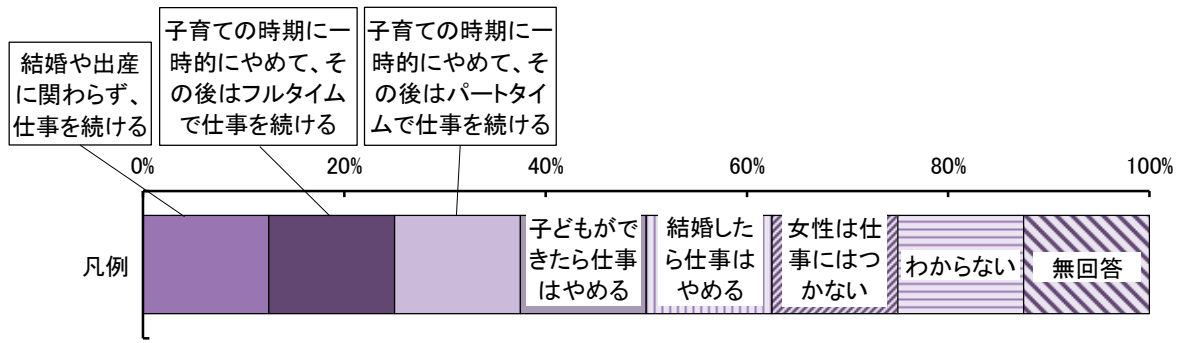
女性の働き方の現実では、「子育ての時期に一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事続ける」の割合が33.9%と最も高く、次いで「結婚や出産に関わらず、仕事続ける」26.2%、「わからない」12.2%となっています。

前回調査との比較では、「子育ての時期に一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事続ける」の割合が、前回調査（17.2%）よりも今回調査（33.9%）の方が16.7ポイント増加し、最も差が大きくなっています。

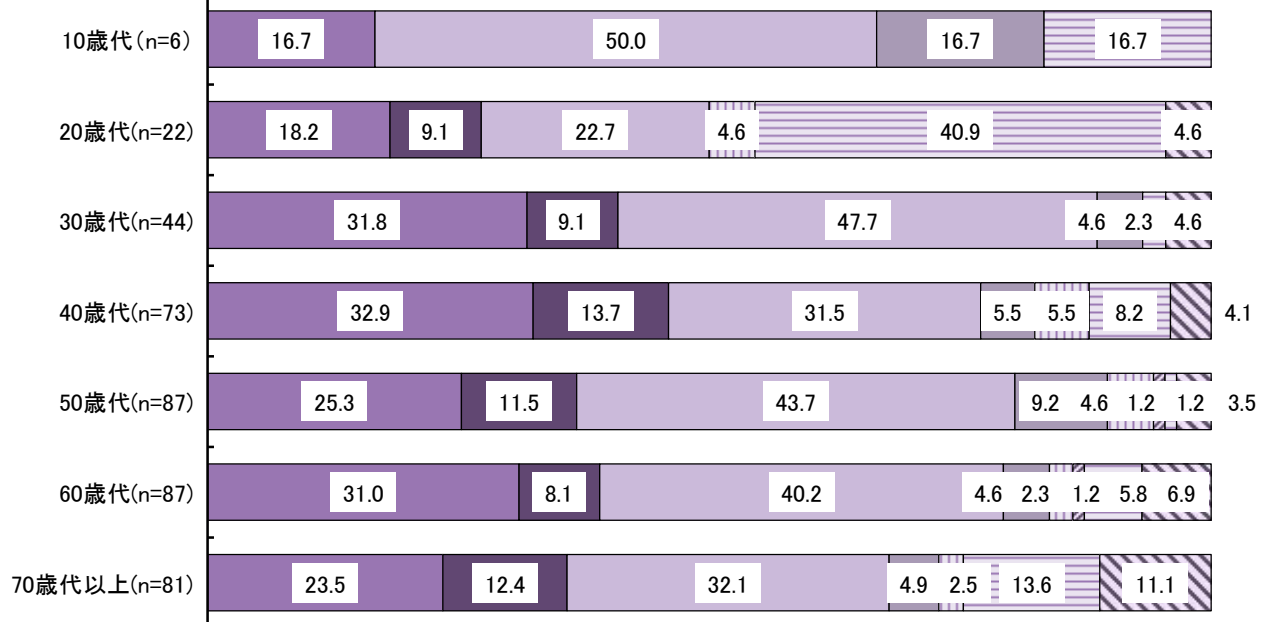
性別・年齢別では、男性10歳代の「子育ての時期に一時的にやめて、その後はフルタイムで仕事続ける」の割合50.0%を除いて、女性、男性ともに概ねほとんどの年代で「結婚や出産に関わらず、仕事続ける」よりも「子育ての時期に一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事続ける」の割合が高い傾向にあります。

【全体・前回調査】

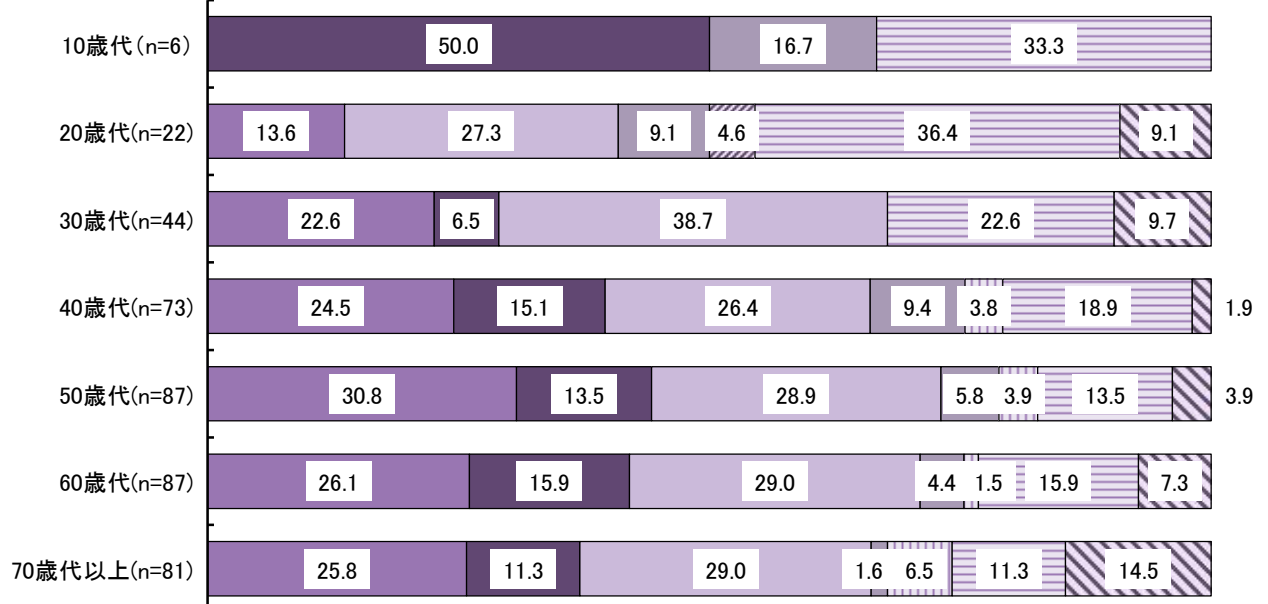




【女性・年齢別】



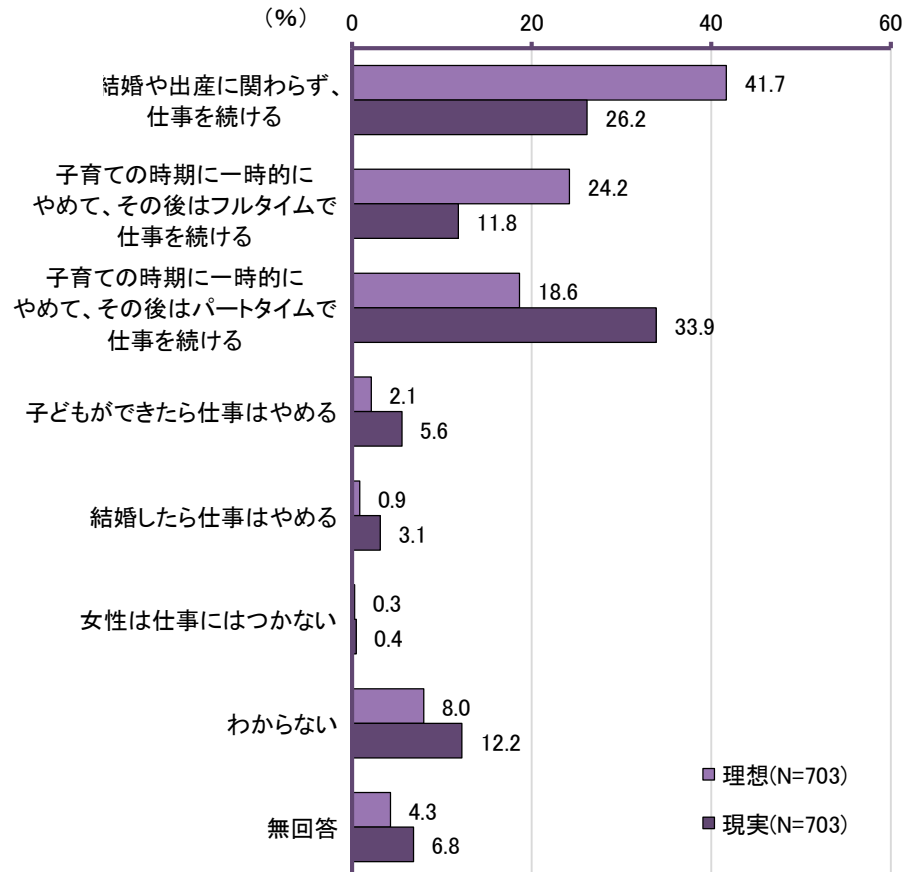
【男性・年齢別】



女性の働き方の理想と現実では、「結婚や出産に関わらず、仕事を続ける」の割合で、理想（41.7%）の方が現実（26.2%）よりも15.5ポイント大きくなっており、その差が他よりも最も大きくなっています。次いで「子育ての時期に一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事を続ける」の割合では現実（33.9%）の方が理想（18.6%）よりも15.3ポイント大きくなっています。

【全体】

【理想と現実】

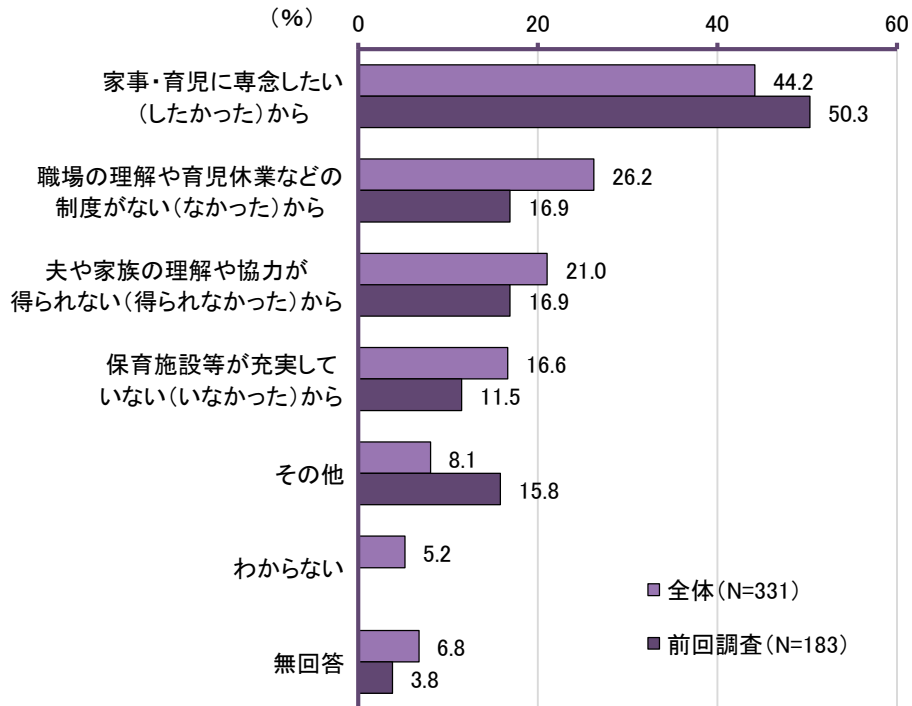


<問9-①は、問9(2)女性の働き方の現実で「2～6」を選択した方のみお答えください>

問9-① その理由は何ですか。【あてはまるものすべてに○印】

現実の女性の働き方の理由では、「家事・育児に専念したい(したかった)から」の割合が44.2%と最も高く、次いで「職場の理解や育児休業などの制度がない(なかった)から」26.2%、「夫や家族の理解や協力が得られない(得られなかった)から」21.0%、「保育施設等が充実していない(いなかった)から」16.6%となっています。

【全体・前回調査】



<すべての方がお答えください>

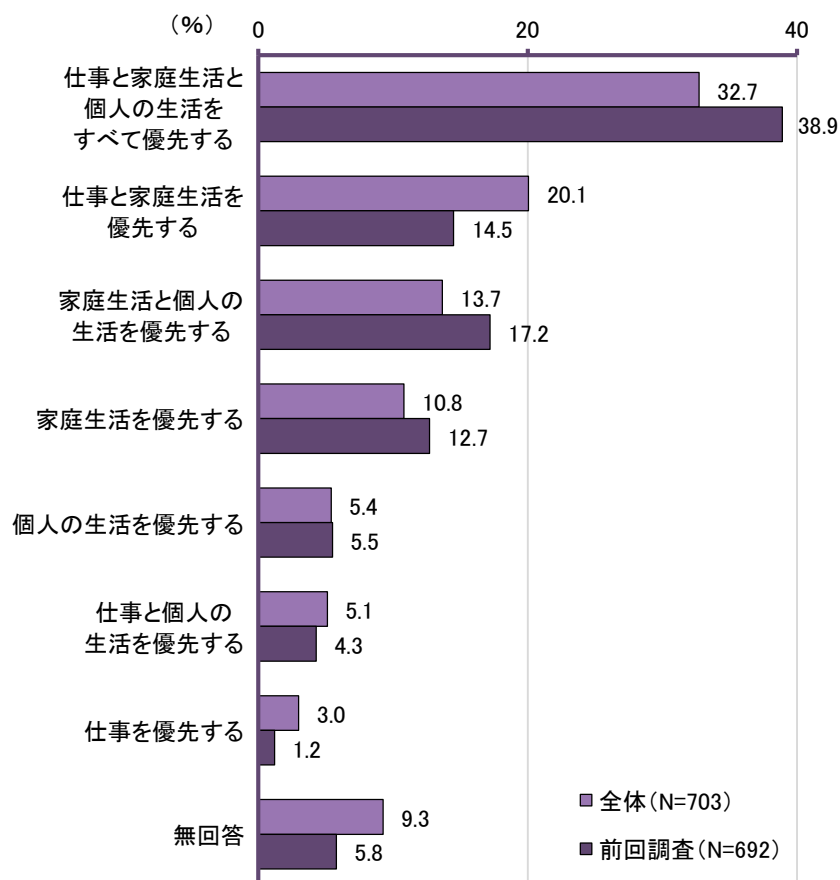
問10 日常生活における「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」(地域活動・学習・趣味・付き合い等)の優先度について、「①あなたの希望(理想)に最も近いもの」と、「②あなたの現実(現状)に最も近いもの」をお答えください。【① ②ごとに、それぞれ1つに○印】

日常生活の優先度の希望(理想)では、「仕事と家庭生活と個人の生活を全て優先する」の割合が32.7%と最も高く、次いで「仕事と家庭生活を優先する」20.1%、「家庭生活と個人の生活を優先する」13.7%、「家庭生活を優先する」10.8%となっています。

前回調査との比較では、「仕事と家庭生活と個人の生活を全て優先する」が前回よりも6.2ポイント減少し、最も差が大きく、「仕事と家庭生活を優先する」が前回よりも5.6ポイント増加しています。

【全体・前回調査】

【①希望(理想)】

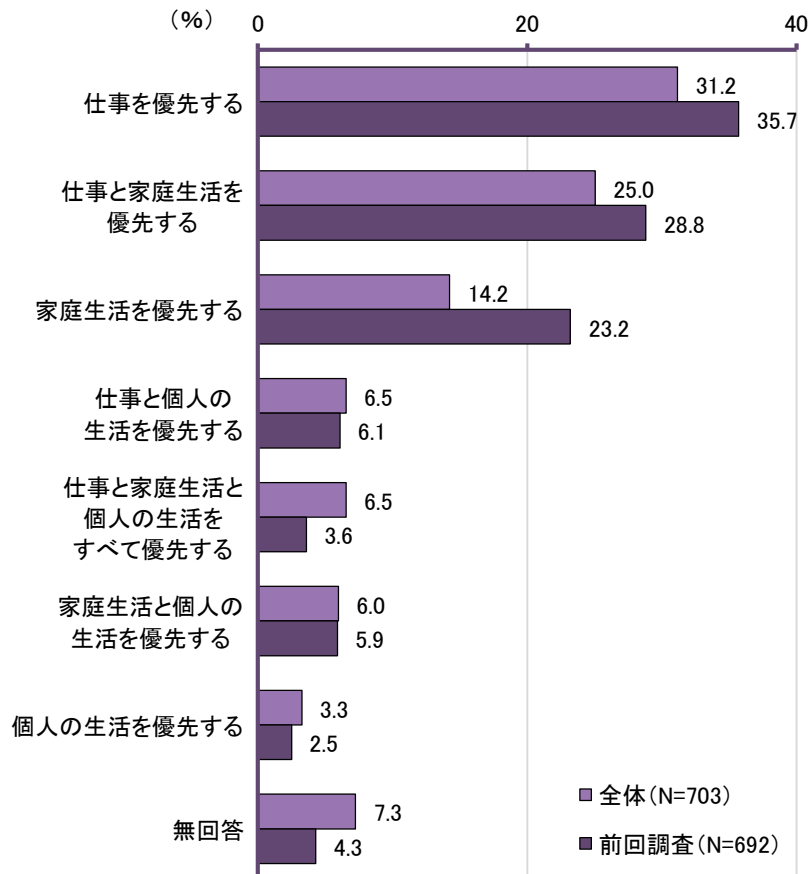


日常生活の優先度の現実（現状）では、「仕事を優先する」の割合が31.2%と最も高く、次いで「仕事と家庭生活を優先する」25.0%、「家庭生活を優先する」14.2%、「仕事と個人の生活を優先する」と「仕事と家庭生活と個人の生活をすべて優先する」がともに6.5%となっています。

前回調査との比較では、「家庭生活を優先する」が前回から9.0ポイント減少し、最も差が大きくなっています。また高い割合の「仕事を優先する」と「仕事と家庭生活を優先する」も前回から減少しています。

【全体・前回調査】

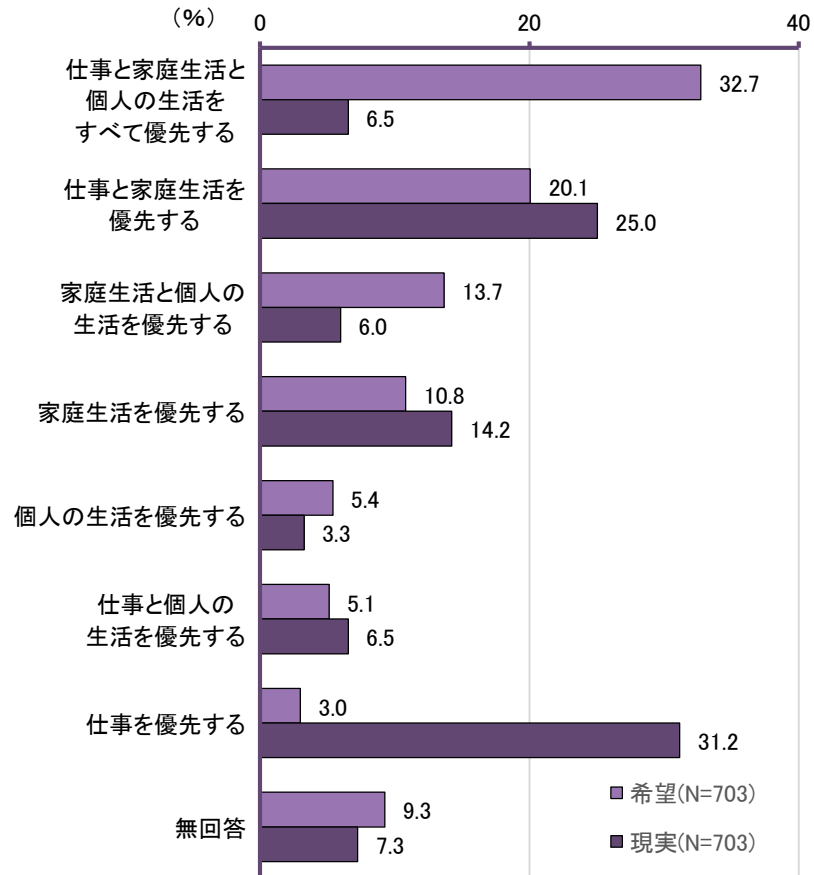
【②現実（現状）】



日常生活の優先度の希望と現実では、「仕事を優先する」の希望（3.0％）と現実（31.2％）の割合の差が最も大きく 28.2 ポイントとなっており、次いで「仕事と家庭生活と個人の生活をすべて優先する」の希望（32.7％）と現実（6.5％）の差が 26.2 ポイントとなっています。

【全体】

【希望と現実】



問 11 あなたは、社会全体として女性が働きやすい状況にあると思いますか。

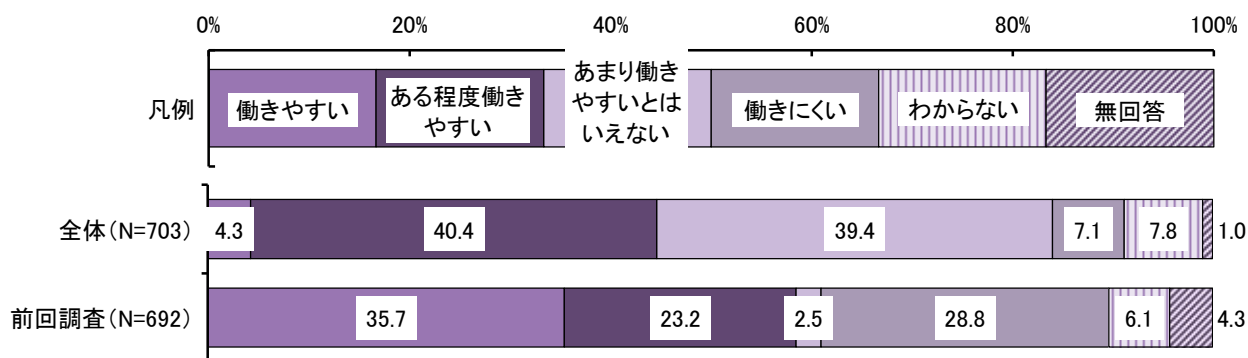
【いずれか1つに○印】

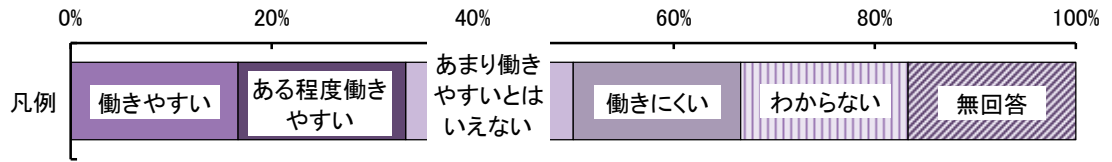
社会全体としての女性の働きやすさでは、「ある程度働きやすい」の割合が40.4%と最も高く、次いで「あまり働きやすいとはいえない」39.4%、「わからない」7.8%、「働きにくい」7.1%となっています。『働きやすい』（「働きやすい」と「ある程度働きやすい」の合計、以下同じ）の割合が44.7%、『働きにくい』（「働きにくい」と「あまり働きやすいとはいえない」の合計、以下同じ）の割合が46.5%と概ね同じ割合となっています。

前回調査との比較では、前回よりも『働きやすい』が14.2ポイント減少し、『働きにくい』が15.2ポイント増加しています。

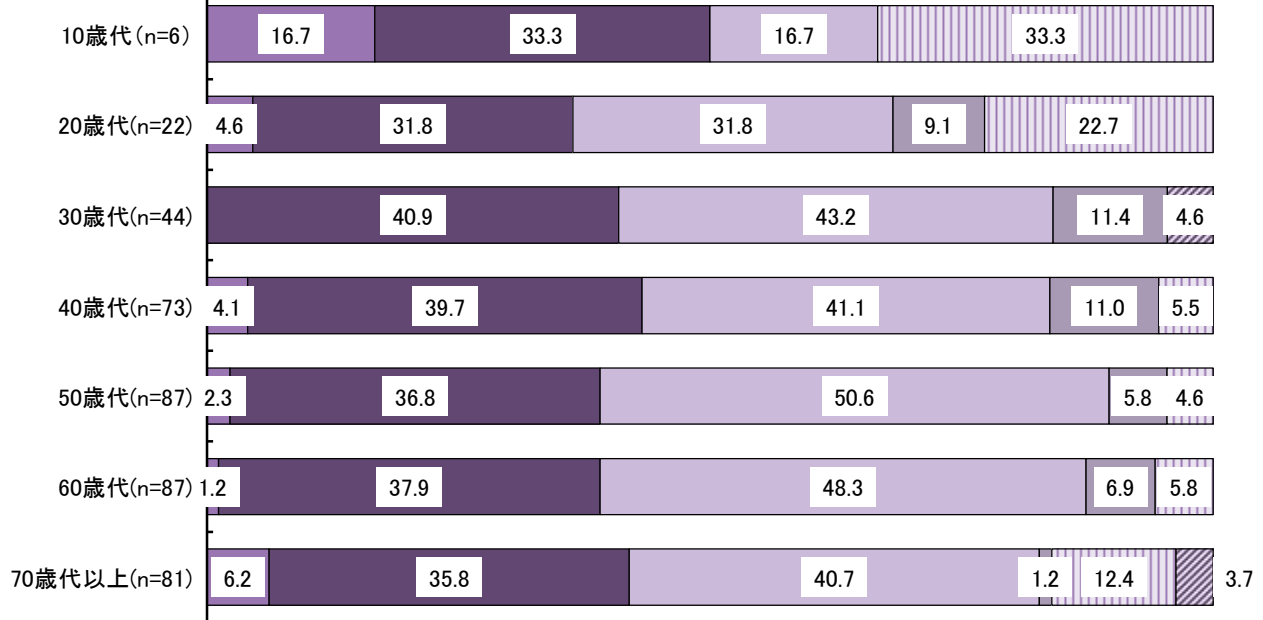
性別・年齢別では、女性は10歳代の『働きやすい』の割合が50.0%と他の年代よりも高くなっており、他の年代では『働きやすい』の割合が概ね40%前後となっています。男性は10歳代と20歳代の『働きやすい』の割合がそれぞれ66.7%と63.7%と高くなっています。男性の他の年代でも約45%から50%を超えており、すべての年代で女性よりも高くなっています。

【全体・前回調査】

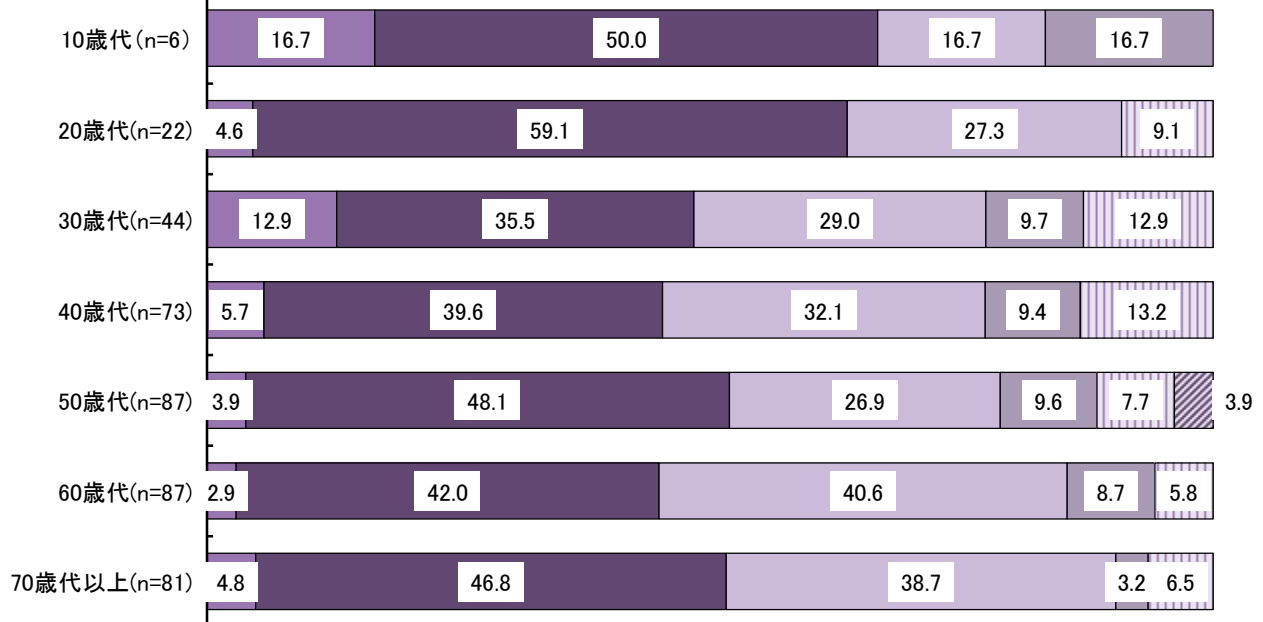




【女性・年齢別】



【男性・年齢別】

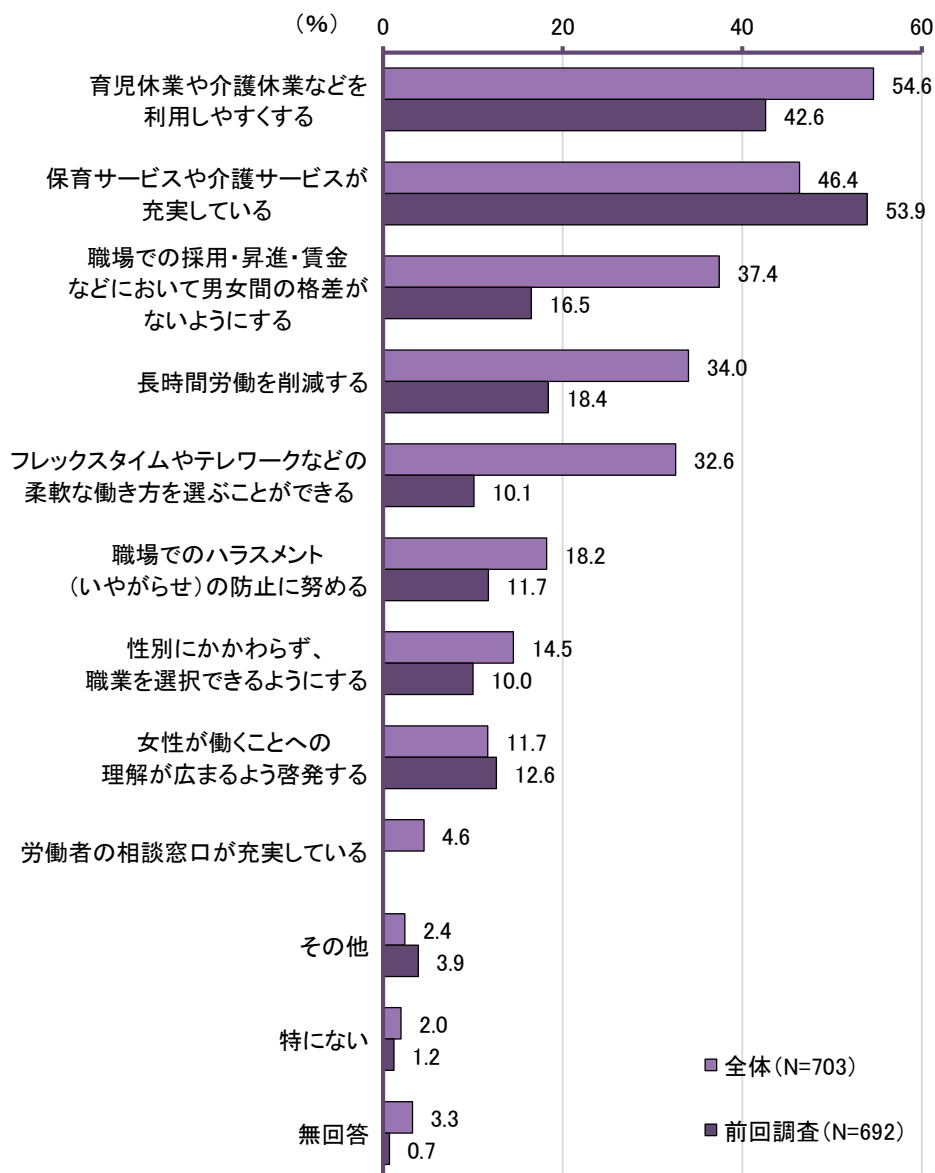


問12 あなたは、男女がともに働きやすい社会環境をつくるためには、どのようなことが大切だと思いますか。【いずれか1つに○印】

大切だと思う働きやすい社会環境では、「育児休業や介護休業などを利用しやすくする」の割合が54.6%と最も高く、次いで「保育サービスや介護サービスが充実している」46.4%、「職場での採用・昇進・賃金などにおいて男女間の格差がないようにする」37.4%、「長時間労働を削減する」34.0%となっています。

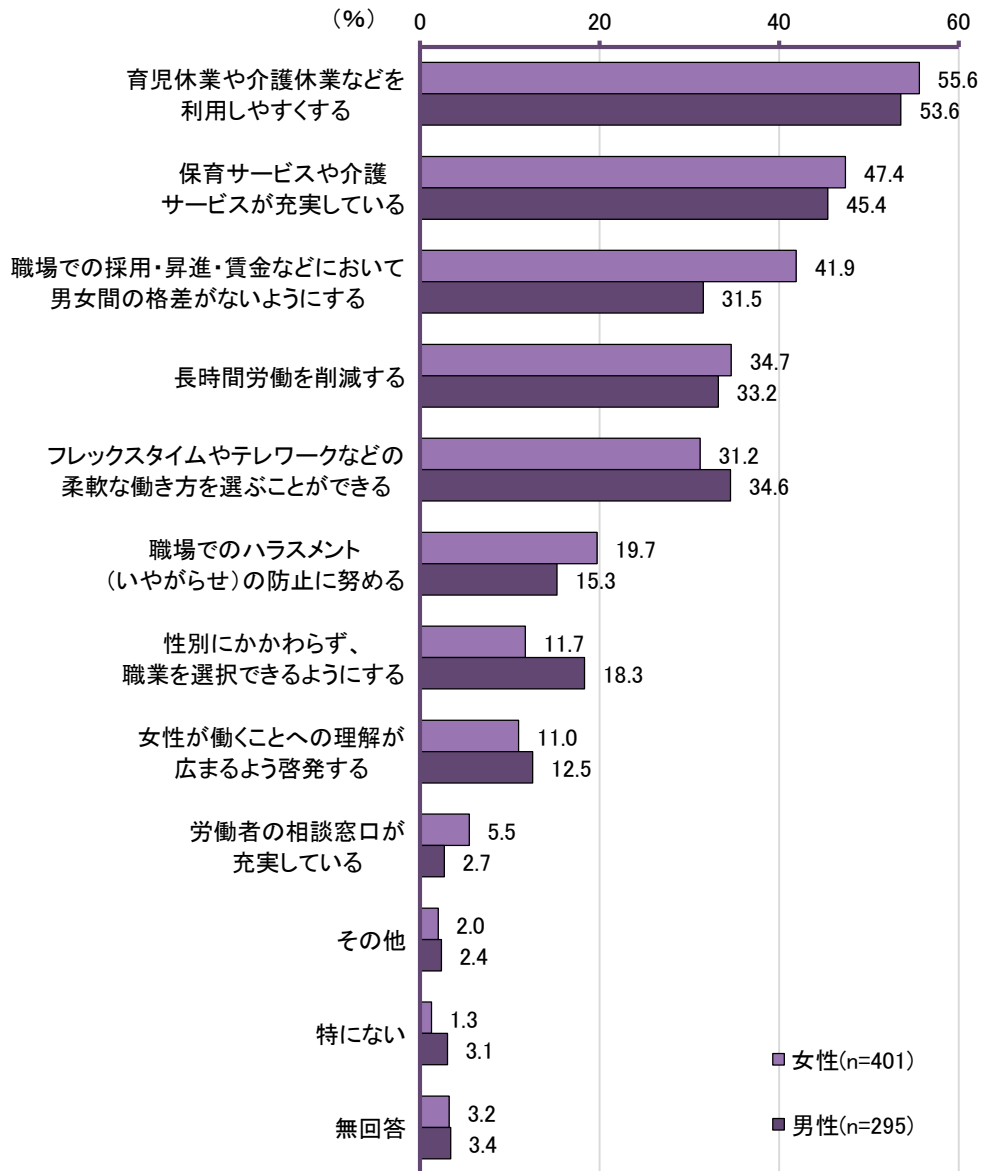
前回調査との比較では、「フレックスタイムやテレワークなどの柔軟な働き方を選ぶことができる」の割合が前回よりも22.5ポイント増加し、前回との差が最も大きくなっており、次いで「職場での採用・昇進・賃金などにおいて男女間の格差がないようにする」の割合が前回よりも20.9ポイント増加し、「長時間労働を削減する」の割合が前回よりも15.6ポイント増加しています。

【全体・前回調査】



大切だと思う働きやすい社会環境の性別では、概ね同様な傾向となっておりますが、「職場での採用・昇進・賃金などにおいて男女間の格差がないようにする」では、女性(41.9%)が男性(31.5%)を10.4ポイント上回っており、最も差が大きくなっています。一方、「性別にかかわらず職業を選択できるようにする」では男性(18.3%)が女性(11.7%)を6.6ポイント上回っています。

【性別】

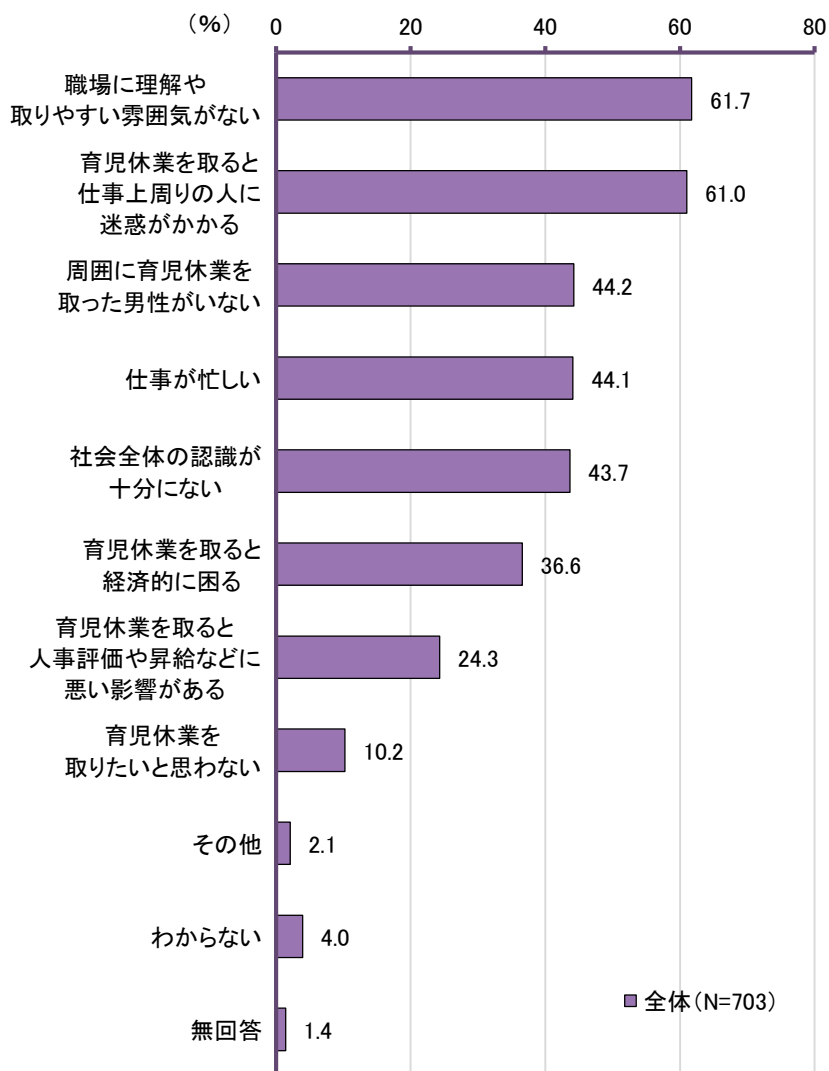


問 13 男性の育児休業取得率は上昇傾向にあるものの、依然として女性に比べ低い水準にあります。男性が育児休業を利用する妨げとなっているものは何だと思いませんか。

【あてはまるものすべてに○印】

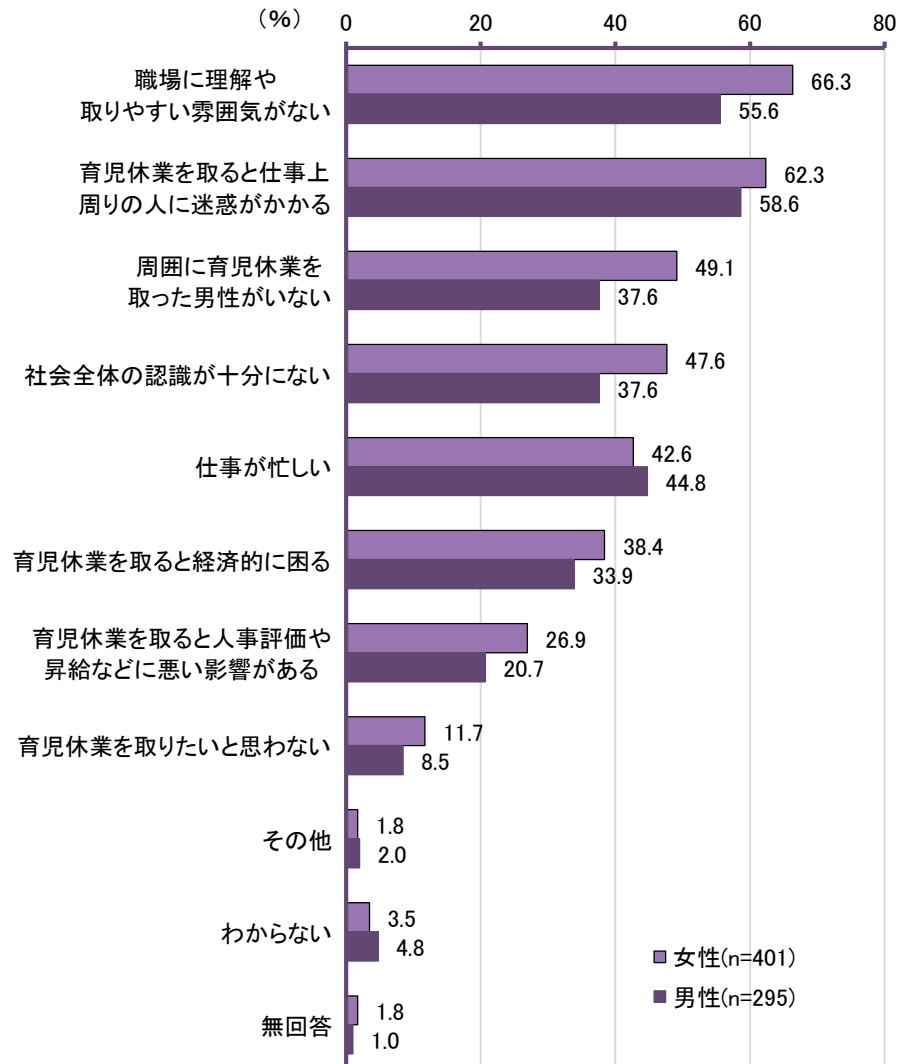
男性の育児休業利用の妨げでは、「職場に理解や取りやすい雰囲気がない」の割合が61.7%と最も高く、次いで「育児休業を取ると仕事上周りの人に迷惑がかかる」61.0%、「周囲に育児休業を取った男性がいない」44.2%、「仕事が忙しい」44.1%となっています。

【全体】



性別による男性の育児休業利用の妨げでは、女性は「職場に理解や取りやすい雰囲気がない」が66.3%と最も高く、男性は「育児休業を取ると仕事上周りの人に迷惑がかかる」が58.6%と最も高くなっています。「周囲に育児休業を取った男性はいない」では女性(49.1%)が男性(37.6%)を11.5ポイント上回っており、差が最も大きくなっています。

【性別】



5 子育て・教育についておたずねします。

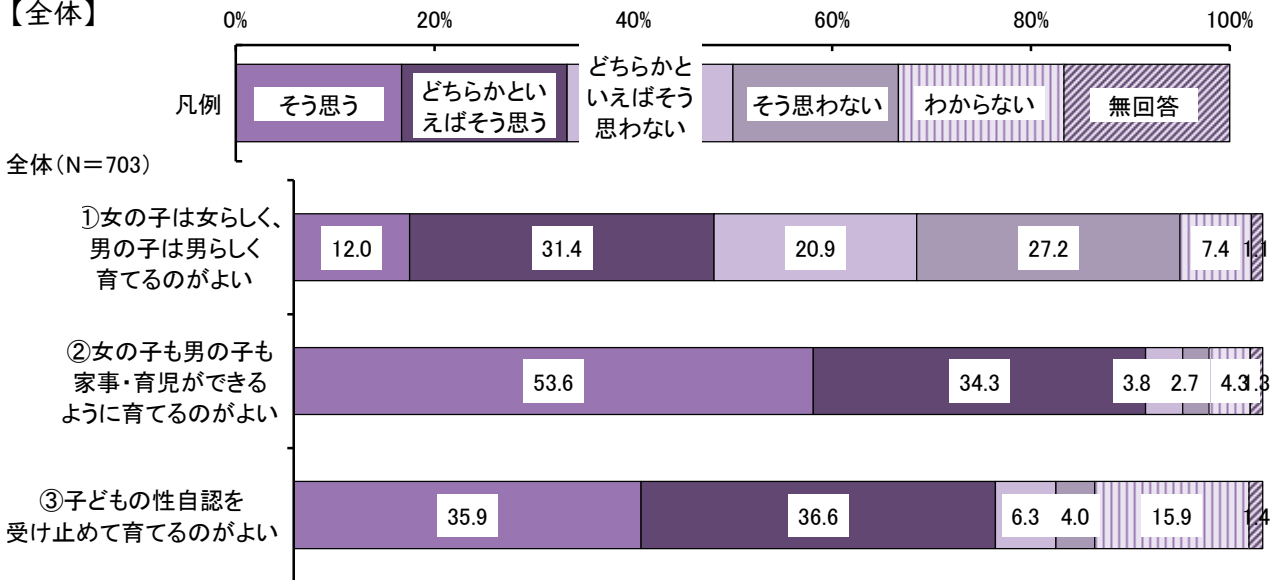
問14 あなたは、子どもの育て方に関する次の①～③のような考え方について、どのように思いますか。【①～③ごとに、それぞれ1つに○印】

子どもの育て方では、「①女の子は女らしく、男の子は男らしく育てるのがよい」は『肯定意識』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計、以下同じ）の割合が43.4%、『否定意識』（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計、以下同じ）の割合が48.1%と概ね同じ割合となっています。

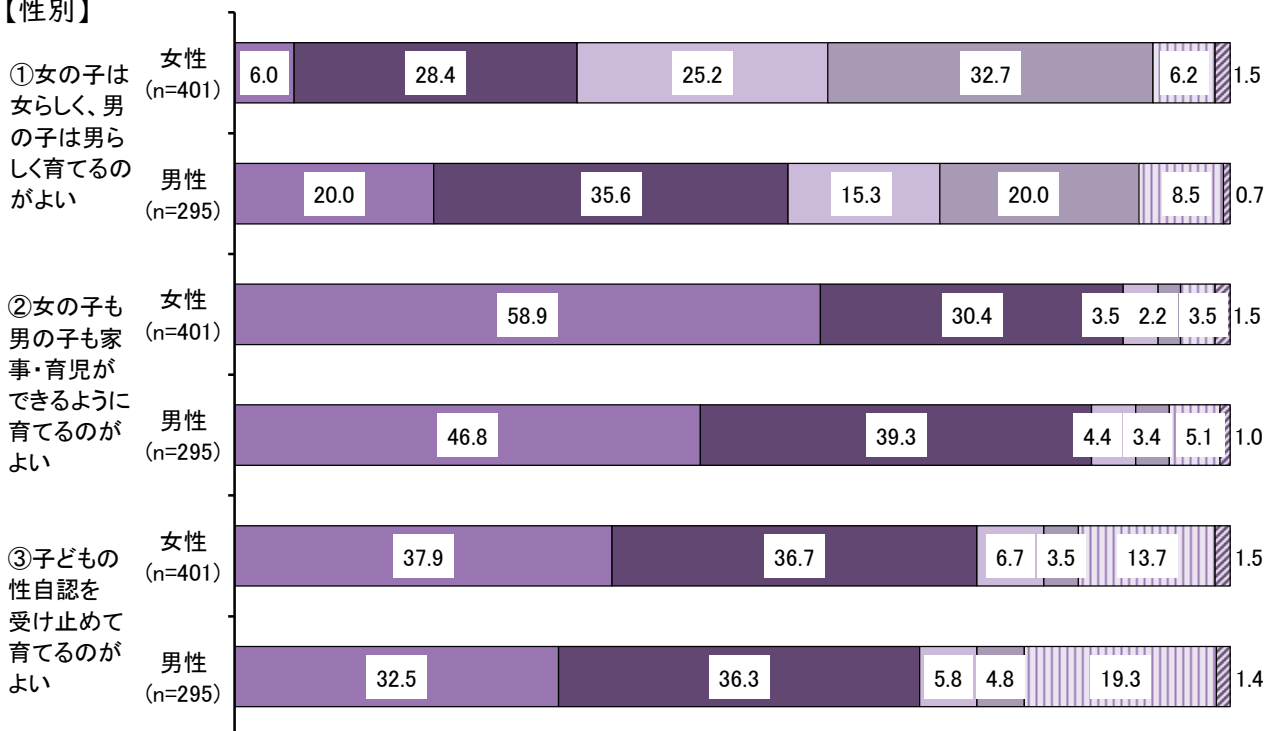
「②女の子も男の子も家事・育児ができるように育てるのがよい」は『肯定意識』の割合が87.9%となっています。「③子どもの性自認を受け止めて育てるのがよい」は『肯定意識』の割合が72.5%となっています。

性別では、「①女の子は女らしく、男の子は男らしく育てるのがよい」は、女性の『否定意識』（58.3%）が男性（35.3%）よりも23.0ポイント高くなっています。

【全体】



【性別】

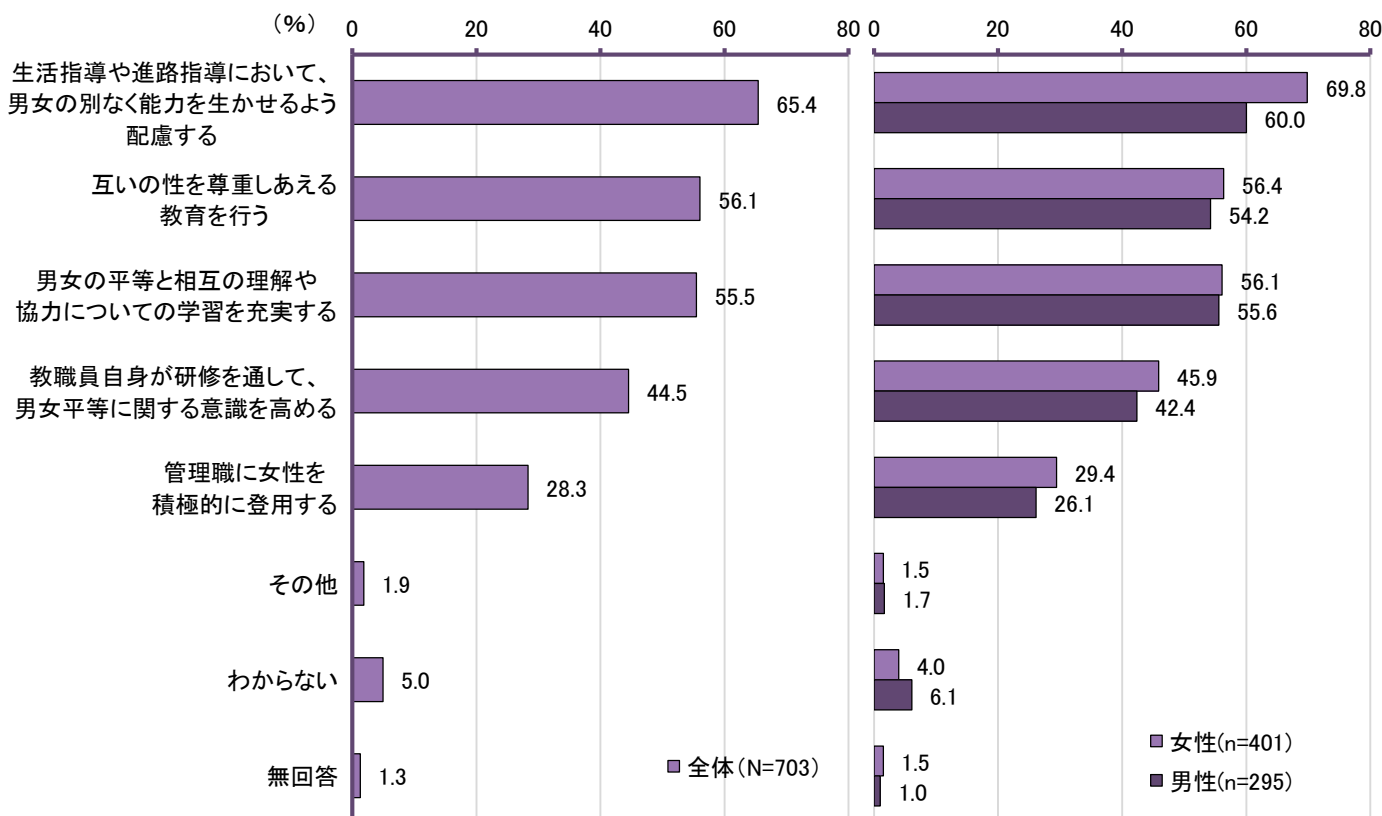


問15 あなたは、男女共同参画社会を形成していくために、学校教育の場でどのようなことが重要だと思いますか。【あてはまるものすべてに○印】

学校教育の場で重要なことでは、「生徒指導や進路指導において男女の別なく能力を生かせるよう配慮する」の割合が65.4%と最も高く、次いで「互いの性を尊重しあえる教育を行う」56.1%、「男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」55.5%、「教職員自身が研修を通して、男女平等に関する意識を高める」44.5%となっています。

性別では、「生徒指導や進路指導において男女の別なく能力を生かせるよう配慮する」は、女性(69.8%)が男性(60.0%)を9.8ポイント上回っており、差が最も大きくなっています。

【全体・性別】



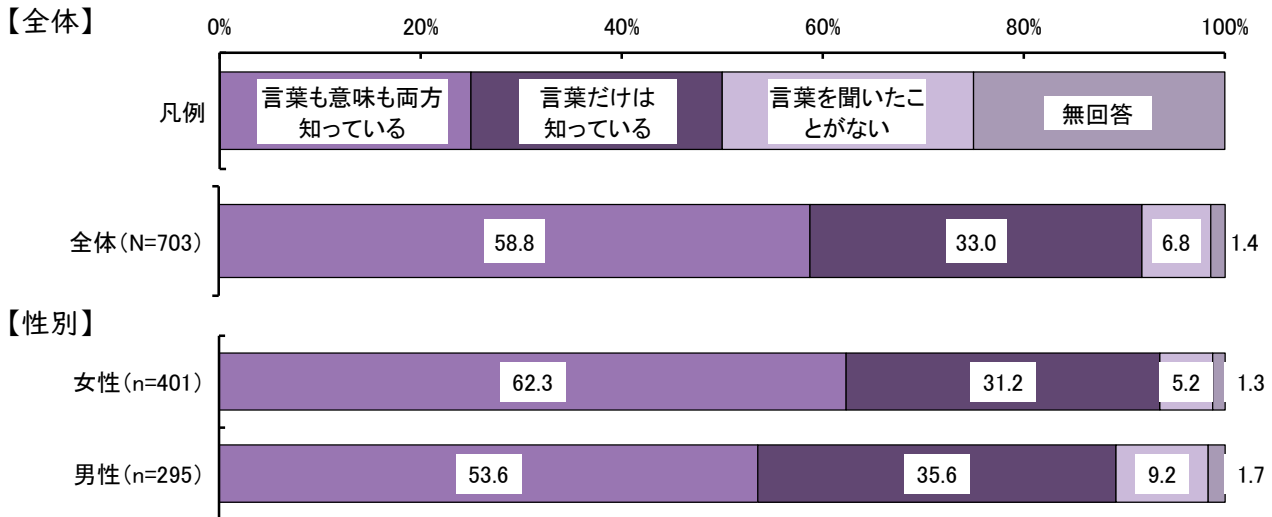
6. 性の多様性についておたずねします。

問 16 性的マイノリティ（又はLGBT）について、どの程度知っていますか。

【いずれか1つに○印】

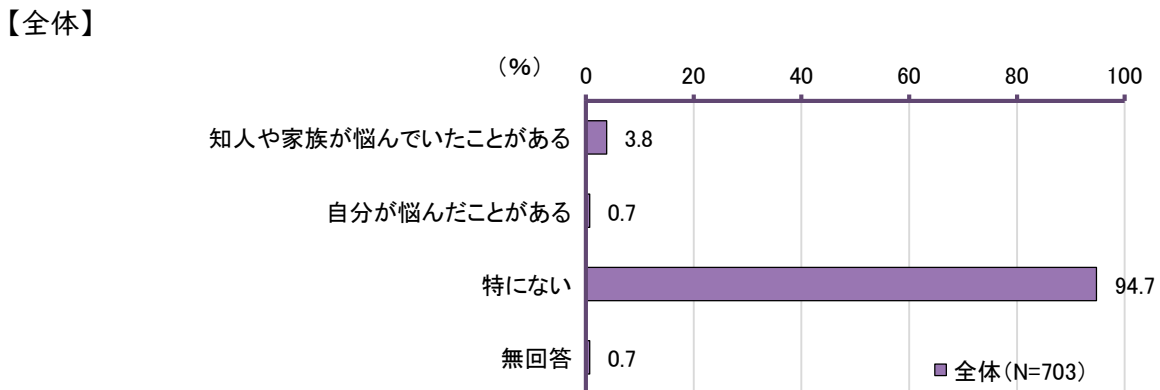
性的マイノリティの認知度では、「言葉も意味も両方知っている」の割合が58.8%、「言葉だけは知っている」の割合が33.0%、「言葉を聞いたことがない」6.8%となっています。

性別では、女性の「言葉も意味も両方知っている」の割合が62.3%と男性（53.6%）よりも8.7ポイント高くなっています。



問 17 あなたは今までに自分の身体の性、心の性又は性的志向（同性愛など）に悩んだことがありますか。あるいは身近で悩んでいる人がいましたか。【あてはまるものすべてに○印】

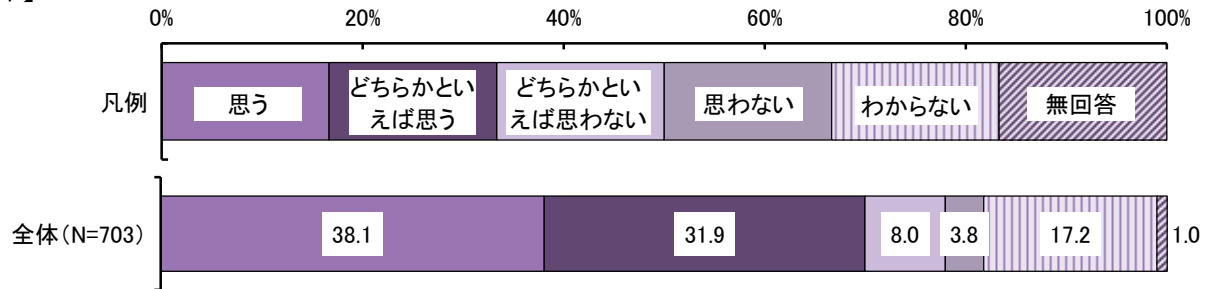
性への悩みでは、「知人や家族が悩んでいたことがある」の割合が3.8%、「自分が悩んだことがある」の割合が0.7%、「特にない」の割合が94.7%となっています。



問 18 性的マイノリティ（又は LGBT）の人にとって、現在の社会環境は、偏見や差別などにより生活しづらさがあると思いますか。【いずれか 1 つに○印】

性的マイノリティの生活のしづらさでは、「思う」の割合が 38.1%と最も高く、次いで「どちらかといえば思う」31.9%、「わからない」17.2%、「どちらかといえば思わない」8.0%となっています。『肯定意識』（「思う」と「どちらかといえば思う」の合計）の割合は 70.0%となっています。

【全体】

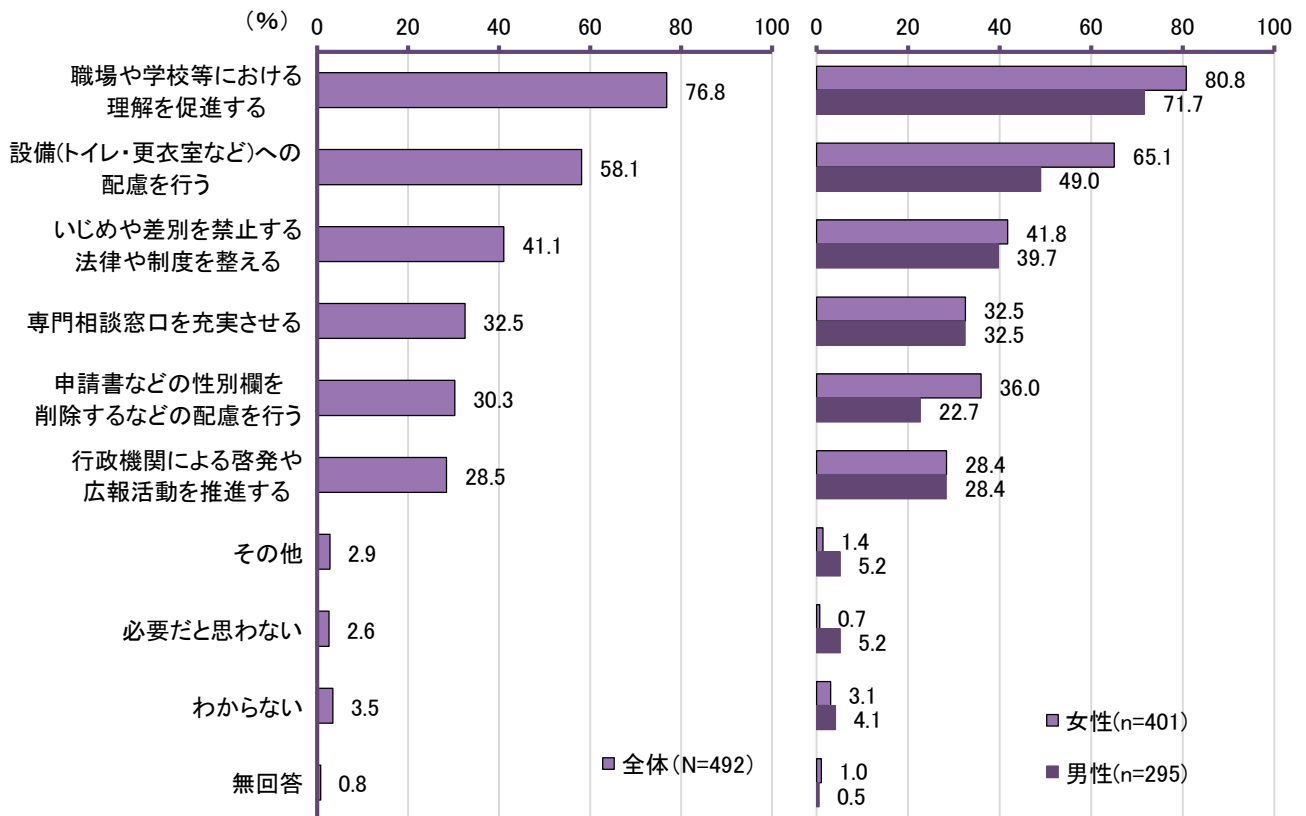


<問18-①は、問18で「1.思う」又は「2.どちらかといえば思う」を選択した方のみお答えください。>
 問18-① あなたは、性的マイノリティ（又はLGBT）の人に対する理解の促進や支援にはどのようなことが必要だと思いますか。【あてはまるものすべてに○印】

性的マイノリティへの理解促進や支援では、「職場や学校等における理解を促進する」の割合が76.8%と最も高く、次いで「設備（トイレ・更衣室など）への配慮を行う」58.1%、「いじめや差別を禁止する法律や制度を整える」41.1%、「専門相談窓口を充実させる」32.5%となっています。

性別では、「設備（トイレ・更衣室など）への配慮を行う」は女性（65.1%）が男性（49.0%）を16.1ポイント上回っており、差が最も大きくなっています。

【全体・性別】



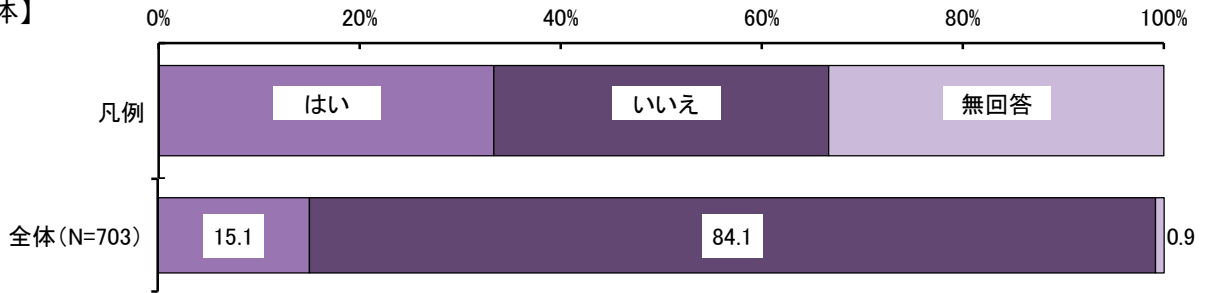
<すべての方がお答えください>

問19 阿南市において令和4年度よりパートナーシップ・ファミリーシップ制度が導入されたことについて、あなたは知っていますか。【いずれか1つに○印】

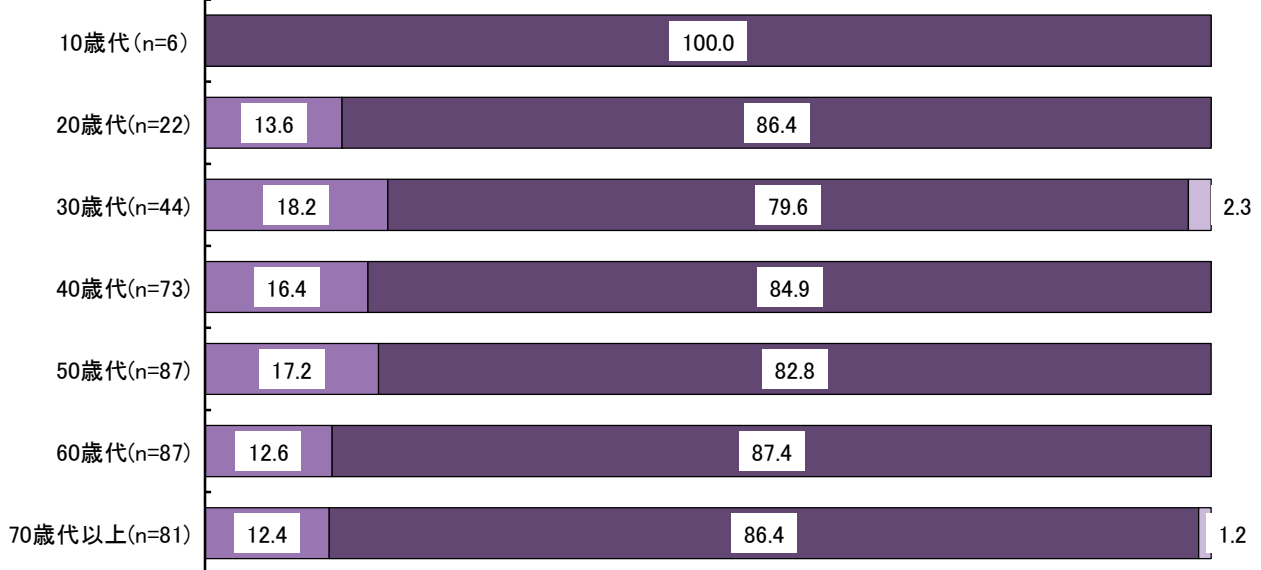
パートナーシップ・ファミリーシップ制度の認知度では、「はい」の割合が15.1%、「いいえ」の割合が84.1%となっています。

性別・年齢別では、女性、男性ともに10歳代は「いいえ」の割合が100%となっています。女性は30歳代の「はい」の割合が18.2%と最も高く、次いで50歳代17.2%となっています。男性は50歳代の「はい」の割合が25.0%と最も高く、次いで20歳代18.2%となっています。

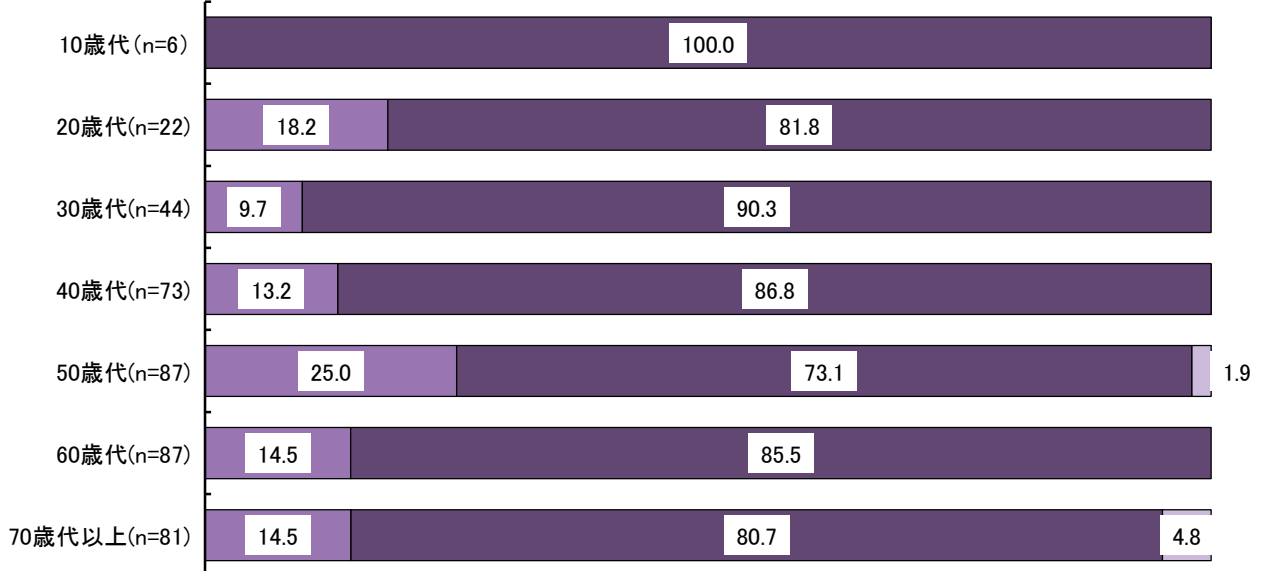
【全体】



【女性・年齢別】



【男性・年齢別】



7 人権に関する問題についておたずねします。

問 20 あなたは、次の①～④の項目について経験したり、相談を受けたりしたことがありますか。

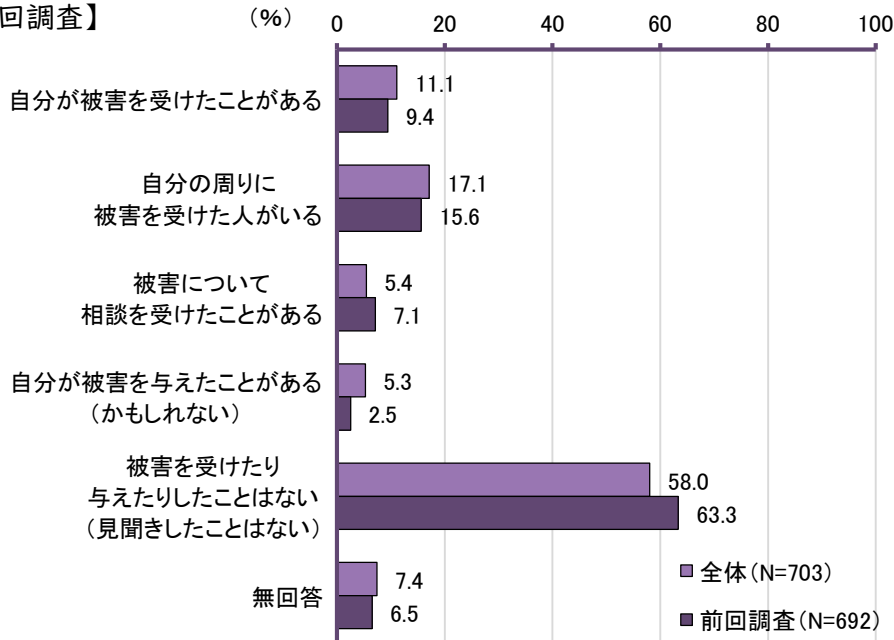
【①～④ごとに、あてはまるものすべてに○印】

セクシャルハラスメントの経験では、「自分の周りに被害を受けた人がある」の割合が17.1%、「自分が被害を受けたことがある」が11.1%となっており、どちらも前回調査よりも高くなっています。

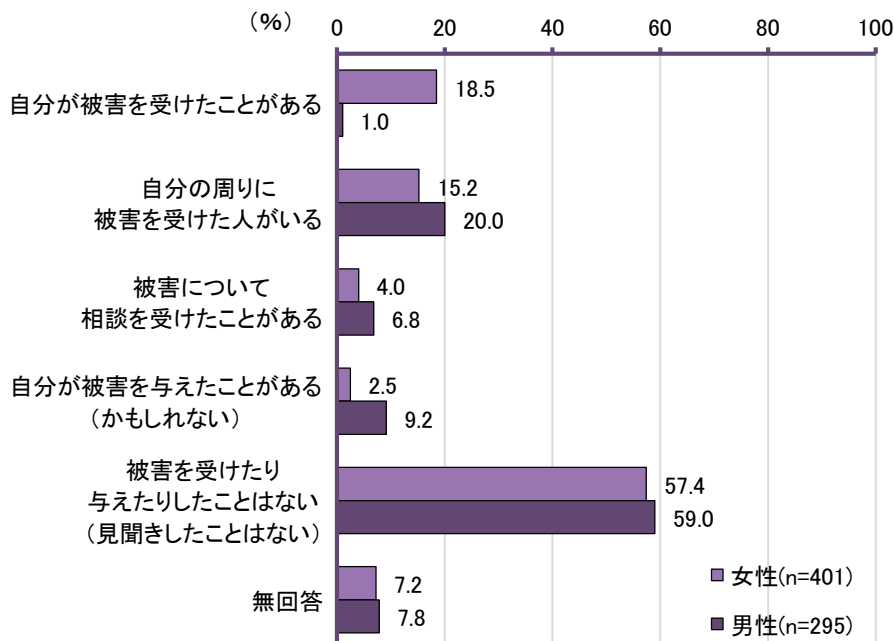
性別では、女性は「自分が被害を受けたことがある」の割合が18.5%と高くなっており、「自分の周りに被害を受けた人がある」が15.2%となっています。男性は「自分の周りに被害を受けた人がある」の割合が20.0%と女性よりも高くなっており、「被害について相談を受けたことがある」が6.8%、「自分が被害を与えたことがある（かもしれない）」が9.2%と女性よりも高くなっています。

<①セクシュアルハラスメント（セクハラ）>

【全体・前回調査】



【性別】

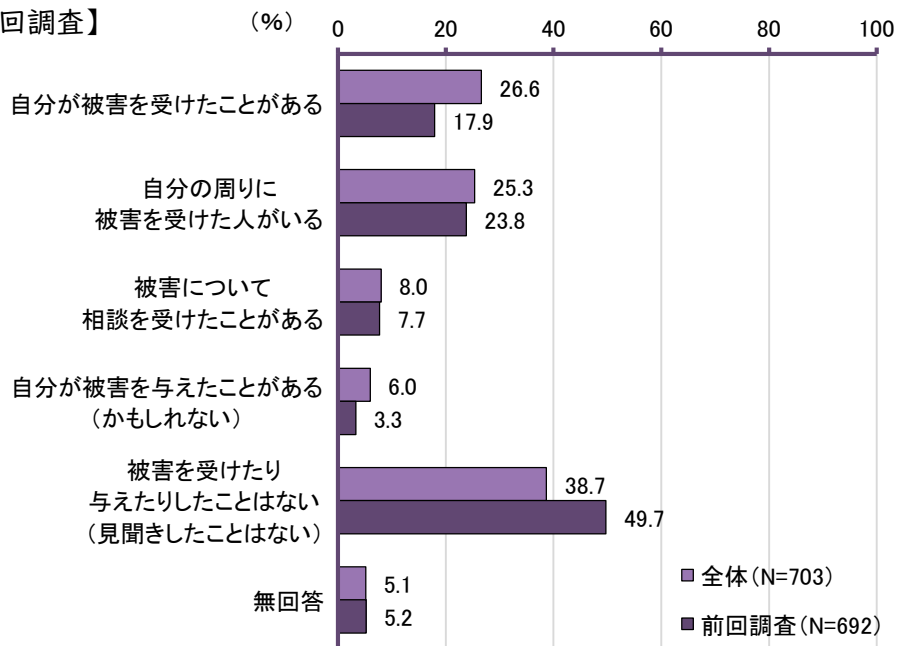


パワーハラスメントの経験では、「自分が被害を受けたことがある」の割合が26.6%、「自分の周りに被害を受けた人がある」が25.3%となっています。どちらも前回調査よりも高くなっています。

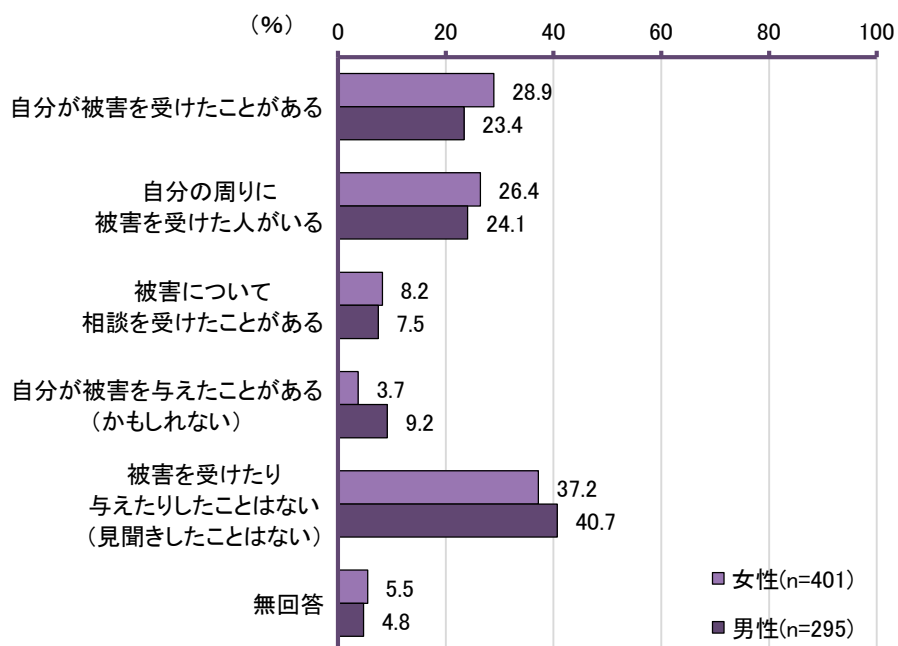
性別では、女性は「自分が被害を受けたことがある」の割合が28.9%、「自分の周りに被害を受けた人がある」が26.4%となっています。男性は「自分が被害を受けたことがある」の割合が23.4%、「自分の周りに被害を受けた人がある」が24.1%となっており、どちらも女性よりも下回っており、「自分が被害を与えたことがある（かもしれない）」が9.2%となっています。

<②パワーハラスメント（パワハラ）>

【全体・前回調査】



【性別】

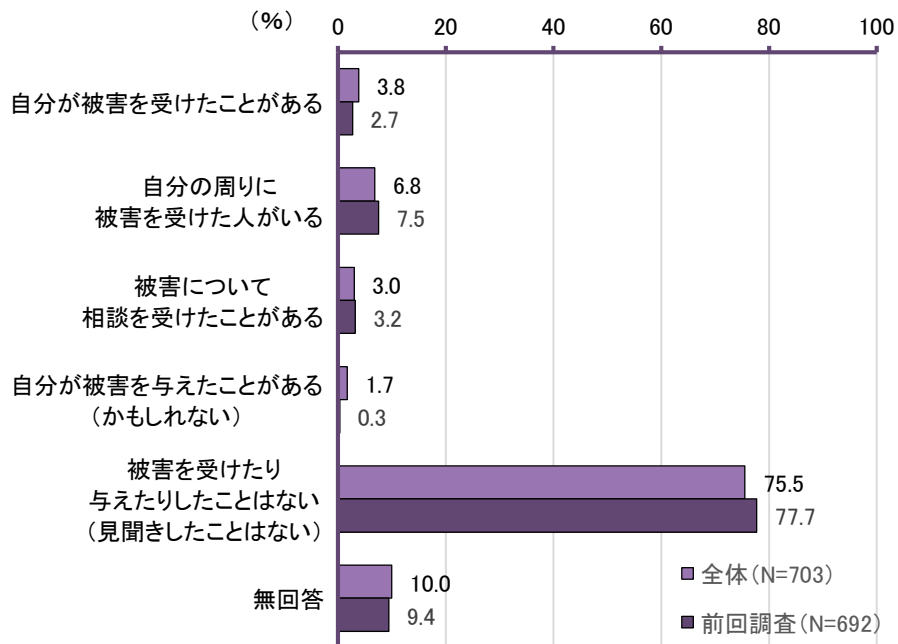


マタニティハラスメントの経験では、「自分の周りに被害を受けた人がいる」の割合が6.8%、「自分が被害を受けたことがある」が3.8%となっています。前回調査との比較では「自分が被害を受けたことがある」が高くなっています。

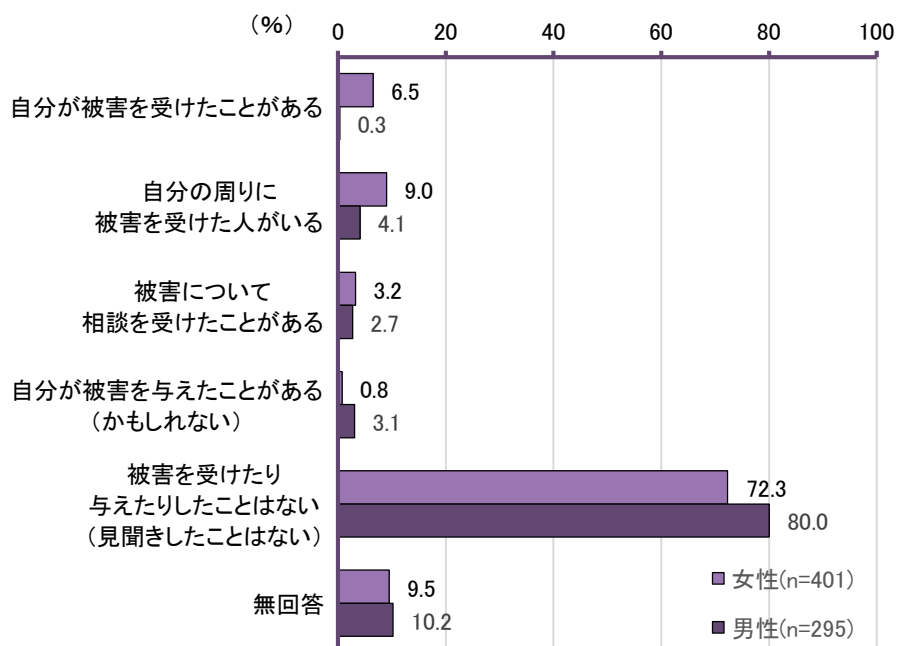
性別では、女性は「自分の周りに被害を受けた人がいる」の割合が9.0%、「自分が被害を受けたことがある」6.5%となっています。男性は「自分の周りに被害を受けた人がいる」の割合が4.1%、「自分が被害を受けたことがある」が0.3%と女性よりも低くなっています。

<③マタニティハラスメント（マタハラ）>

【全体・前回調査】



【性別】

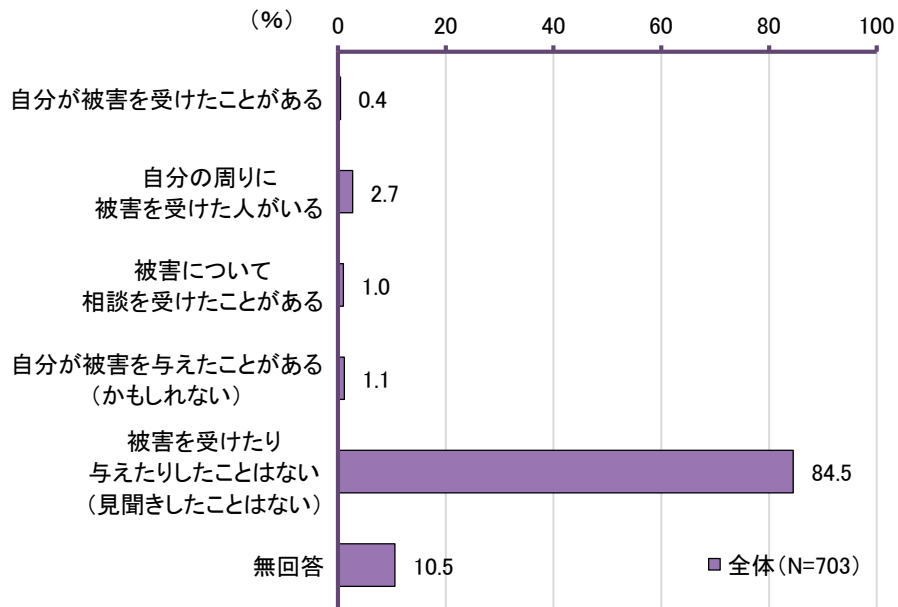


パタニティハラスメントの経験では、「自分の周りに被害を受けた人がいる」の割合が2.7%となっています。

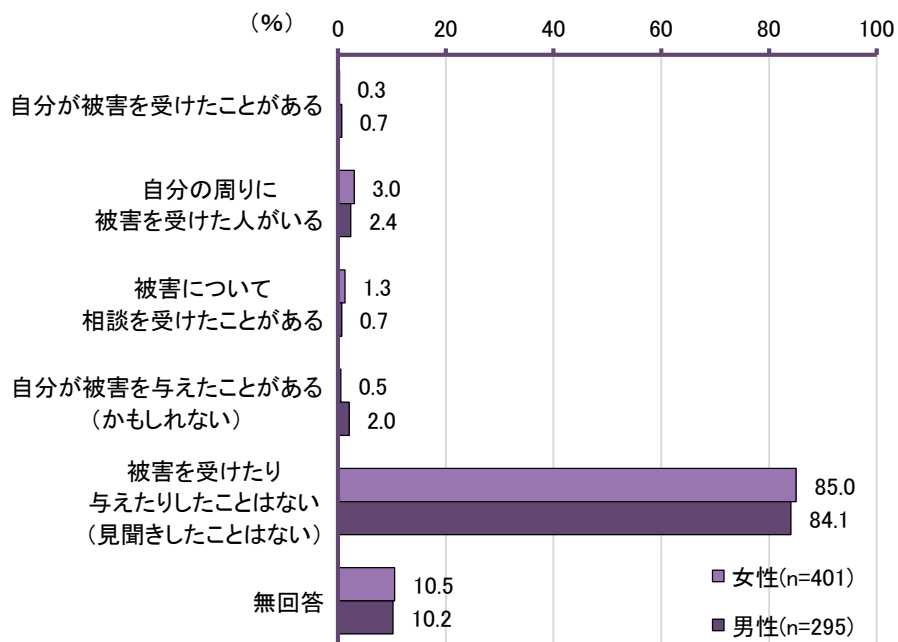
性別では、「自分の周りに被害を受けた人がいる」女性の割合が3.0%、男性の割合が2.4%となっています。

<④パタニティハラスメント（パタハラ）>

【全体】



【性別】



問 2 1 あなたは、次のようなことが夫婦や恋人の間で行われた場合、それを暴力だと思えますか。

【①～⑮ごとに、それぞれ1つに○印】

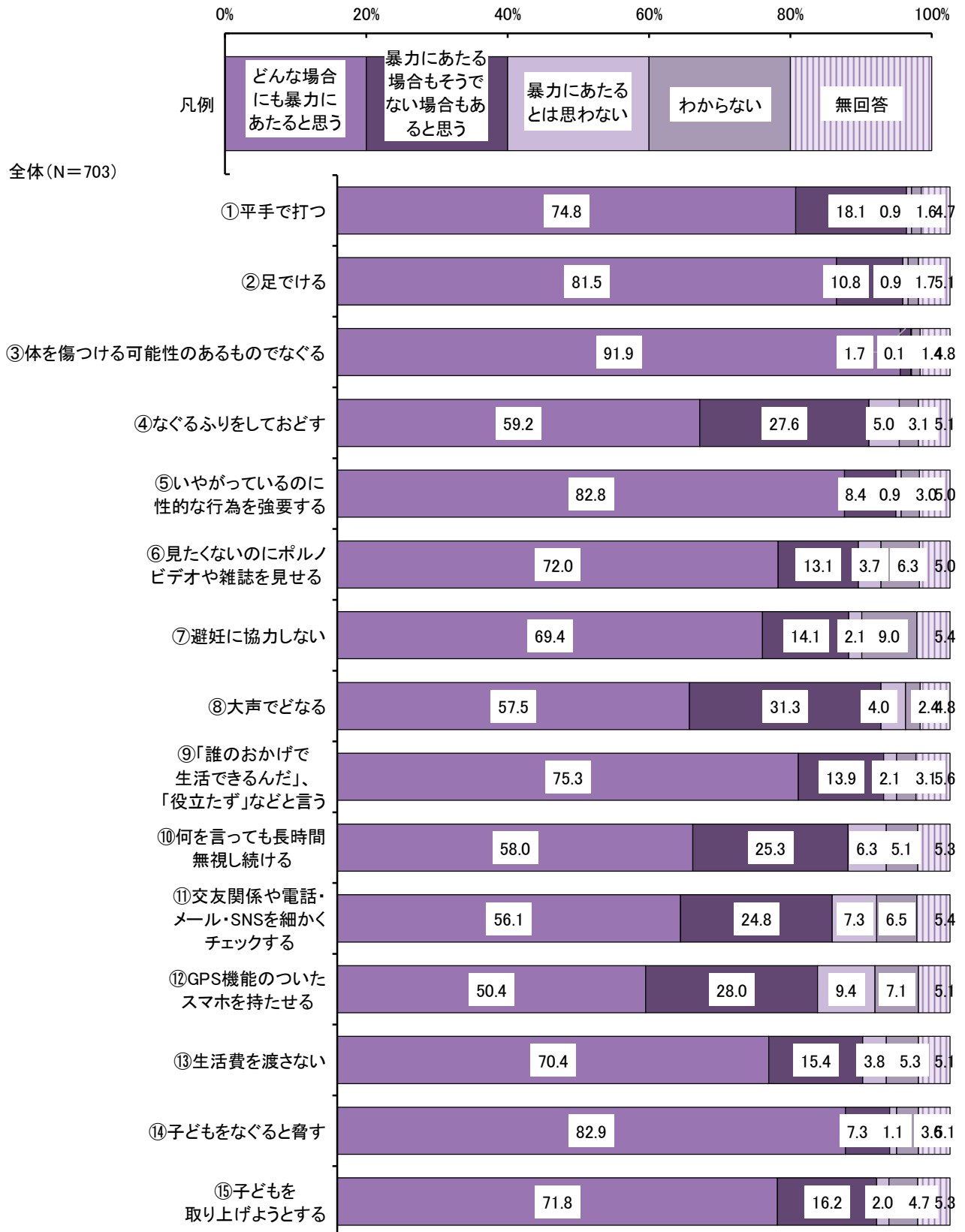
また、あなたが配偶者やパートナー、交際相手からされたことがあるものを、すべてお選びください。【縦方向にあてはまるものすべてに○印】

暴力への認識では、「どんな場合にも暴力にあたると思う」は、「③体を傷つける可能性のあるものでなくる」の割合が91.9%と最も高く、次いで「④子どもをなくると脅す」82.9%、「⑤いやがっているのに性的な行為を強要する」82.8%、「②足でける」81.5%となっています。

自分が受けた暴力では、「大声でどなる」の割合が14.5%と最も高く、次いで「平手で打つ」と「なくるふりをする」がともに6.7%、「何を言っても長時間無視し続ける」5.8%、「誰のおかげで生活できるんだ」、「役立たず」などと言う」5.1%となっています。

【全体】

【暴力だと思うもの】



【全体】

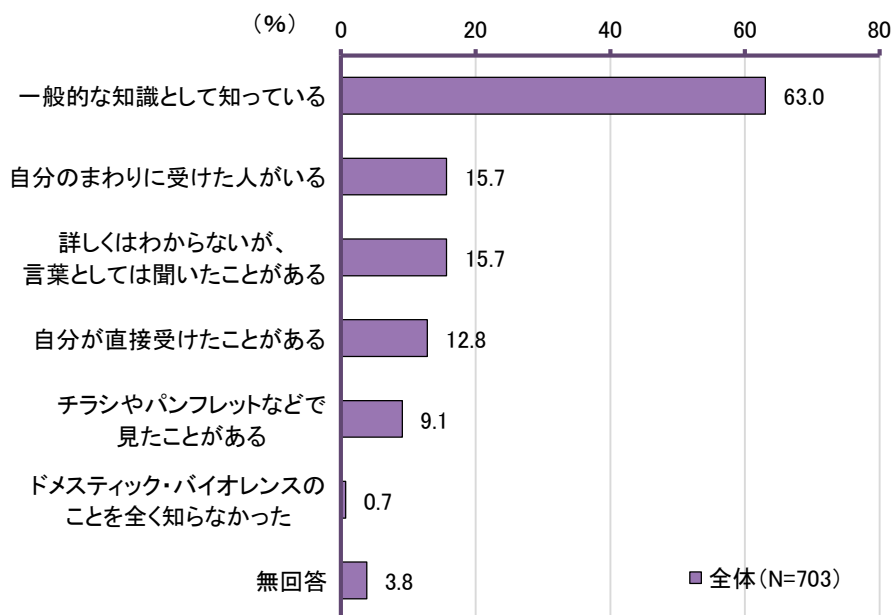
【自分がされたことがあるもの】



問 22 ドメスティック・バイオレンス (DV) は、配偶者や恋人など親密な関係にある、または親密な関係にあった相手からふるわれる暴力のことで、身体的・精神的・経済的暴力など様々な形があり、重大な人権侵害とされています。あなたはこれまでにこのような暴力を受けたり、見聞きしたことがありますか。【あてはまるものすべてに○印】

DV を受けた経験では、「一般的な知識として知っている」の割合が 63.0% と最も高く、次いで「自分のまわりに受けた人がいる」と「詳しくはわからないが、言葉としては聞いたことがある」がともに 15.7%、「自分が直接受けたことがある」12.8%、「チラシやパンフレットなどで見たことがある」9.1%となっています。

【全体】

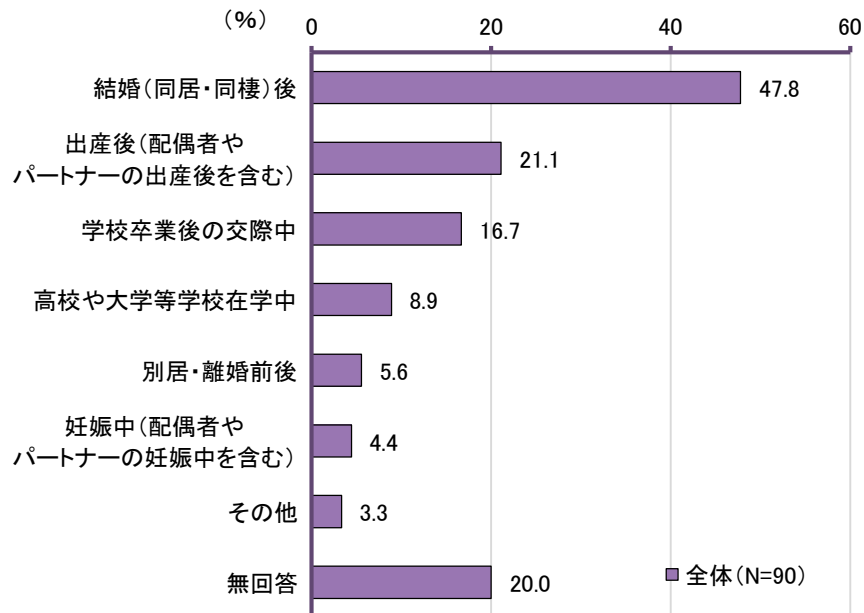


<問 22—①、問 22—②は、問 22 で「1.自分が受けたことがある」を選択した方のみお答えください>

問 22—① あなたがそのような行為を受けたのは、いつですか。【あてはまるものすべてに○印】

DV を受けた時期では、「結婚（同居・同棲）後」の割合が47.8%と最も高く、「出産後（配偶者やパートナーの出産後を含む）」21.1%、「学校卒業後の交際中」16.7%、「高校や大学等学校在学中」8.9%となっています。

【全体】



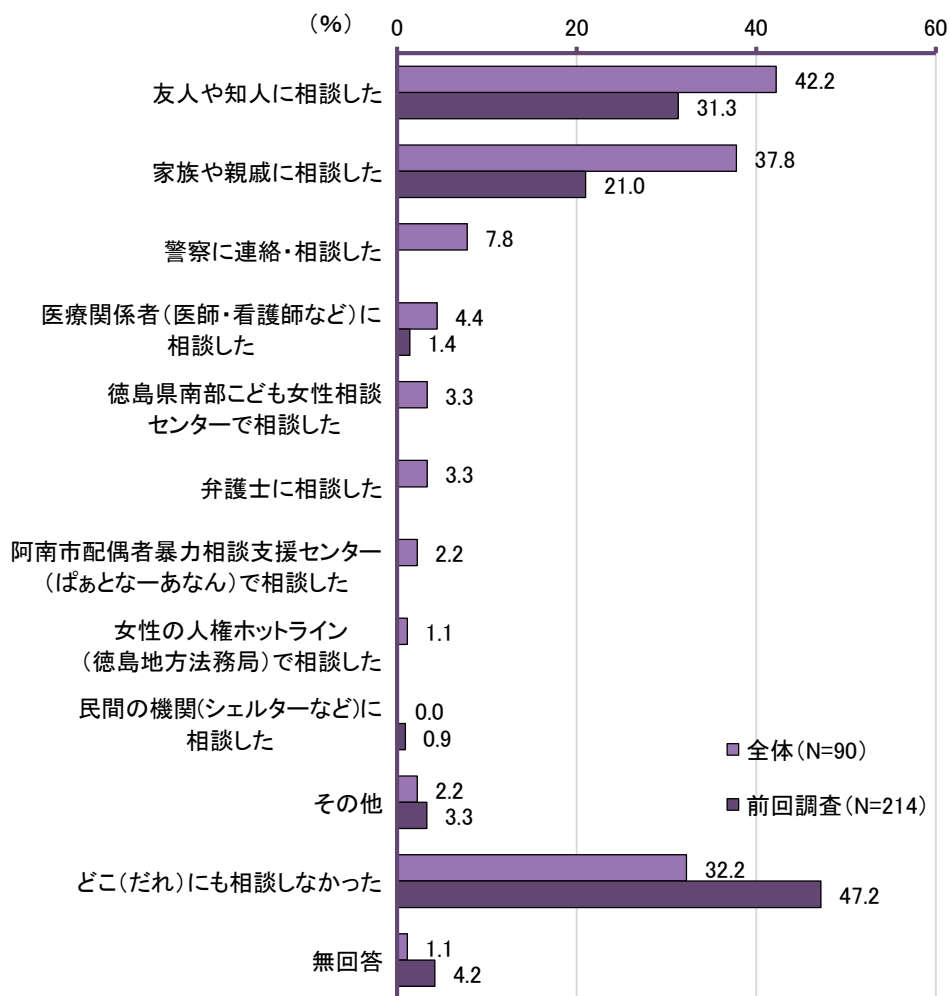
問 22—② あなたは、暴力を受けたことを、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。

【あてはまるものすべてに○印】

DV を経験者の相談状況では、「友人や知人に相談した」の割合が42.2%と最も高く、次いで「家族や親せきに相談した」37.8%、「警察に連絡・相談した」7.8%、「医療関係者（医師・看護師など）に相談した」4.4%となっています。一方「どこ（だれ）にも相談しなかった」が32.2%となっています。

前回調査との比較では、割合が高い「友人や知人に相談した」「家族や親せきに相談した」ともに前回よりも10ポイント以上、上回っています。「どこ（だれ）にも相談しなかった」は前回よりも15ポイント下回っています。

【全体・前回調査】



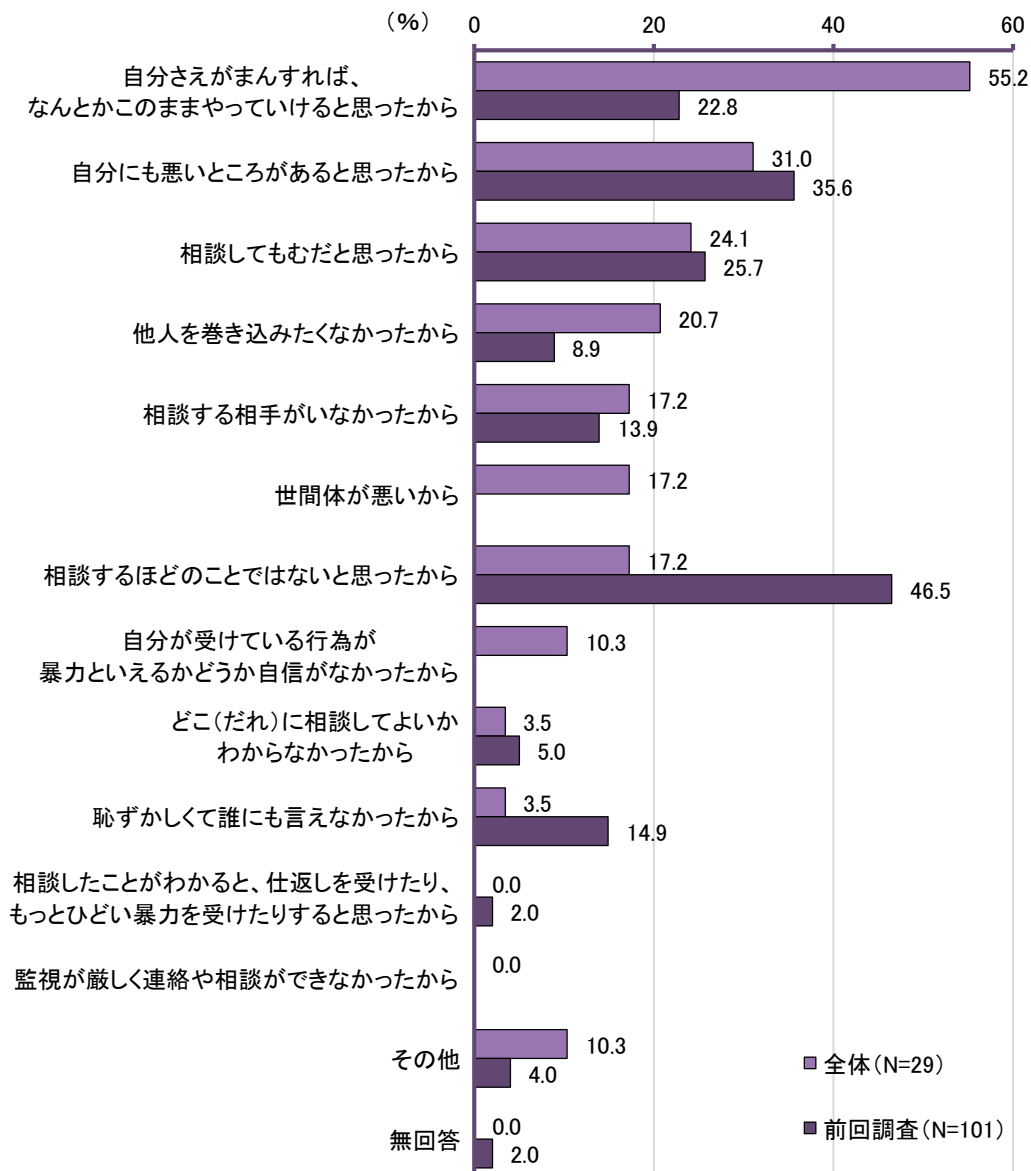
<問 22—③は、問 22—②で「1.どこ（だれ）にも相談しなかった」を選択した方のみお答えください。>
 問 22—③ どこ（だれ）にも相談しなかったのは、どんな理由からですか。

【あてはまるものすべてに○印】

誰にも相談しなかった理由では、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」の割合が55.2%と最も高く、次いで「自分にも悪いところがあったから」31.0%、「相談してもむだと思ったから」24.1%、「他人を巻き込みたくなかったから」20.7%となっています。

前回調査との比較では、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」の割合が32.4ポイントと大きく増加し、「相談するほどのことはないと思ったから」29.3ポイントと大きく減少しています。

【全体・前回調査】



<すべての方がお答えください>

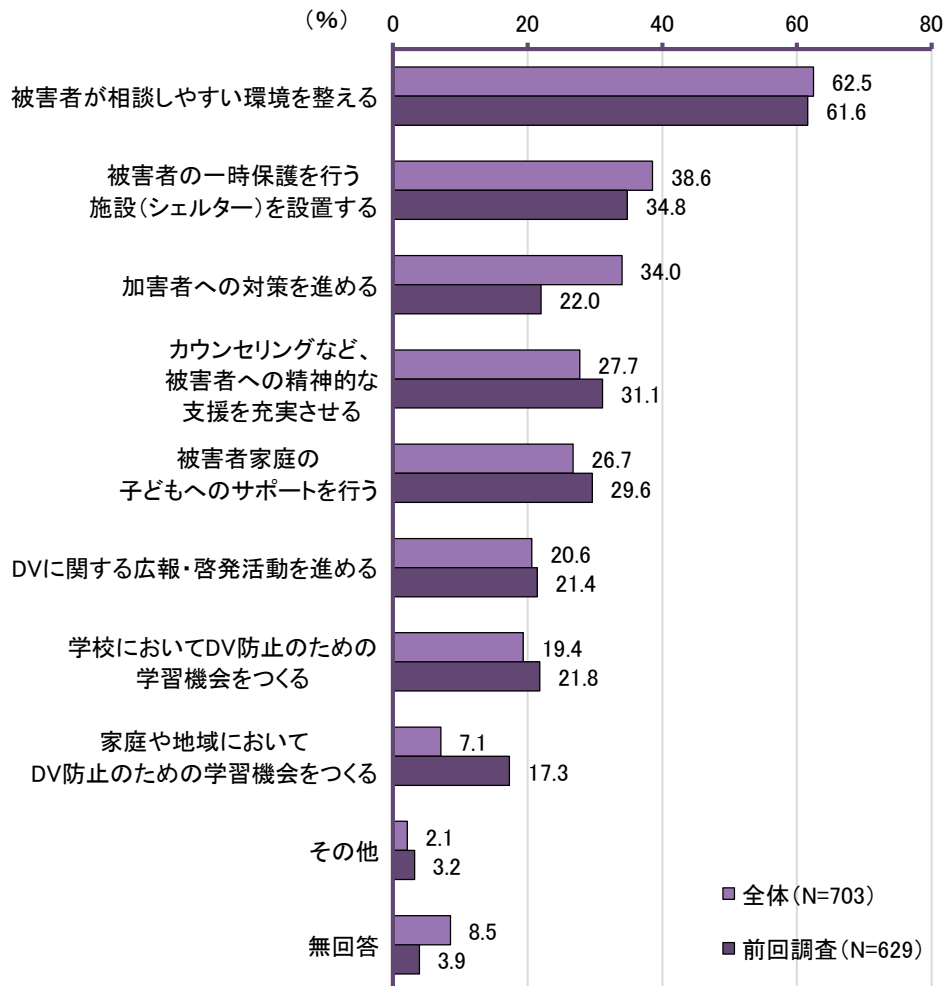
問 23 あなたは、ドメスティック・バイオレンス（DV）の防止や被害者への支援として、どのようなことが必要だと思いますか。【〇印3つまで】

DVに対する必要な取組では、「被害者が相談しやすい環境を整える」の割合が62.5%と最も高く、次いで「被害者の一時保護を行う施設（シェルター）を設置する」38.6%、「加害者への対策を進める」34.0%、「カウンセリングなど、被害者への精神的な支援を充実させる」27.7%となっています。

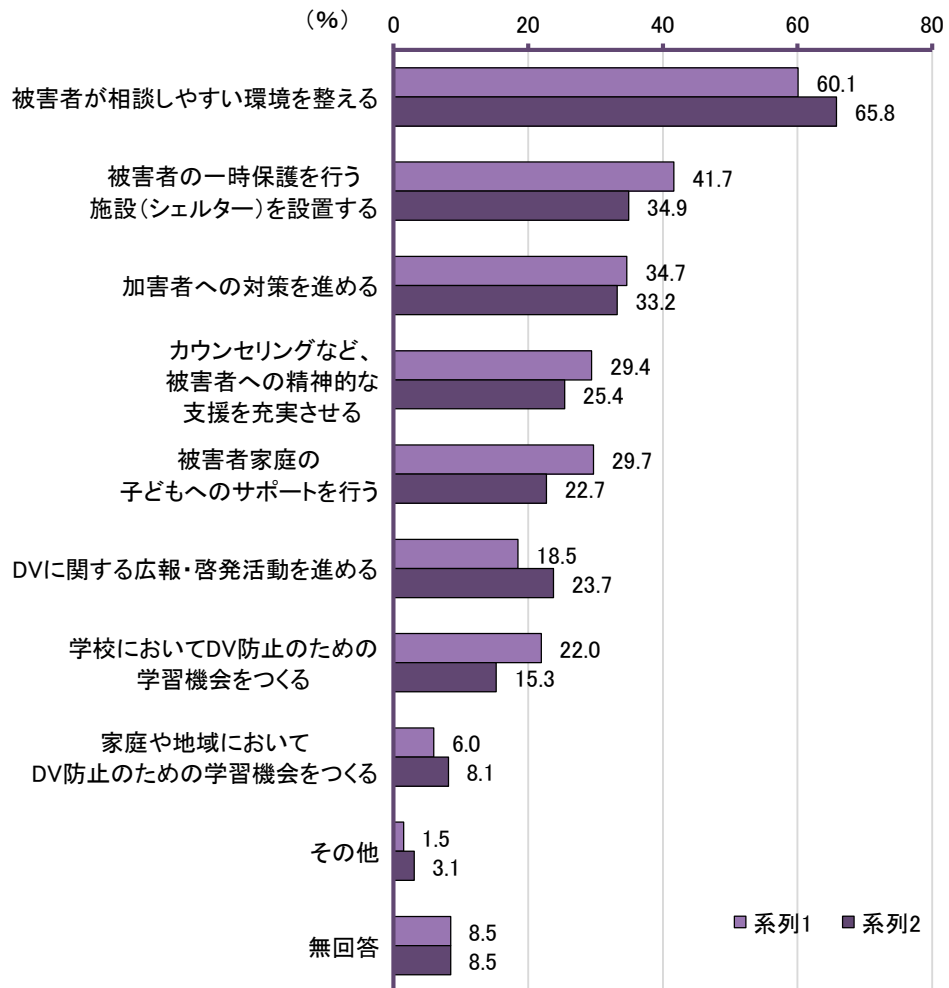
前回調査との比較では、概ね同様な傾向となっていますが、「加害者への対策を進める」の割合が12.0ポイント増加しています。

性別では、概ね同様な傾向となっていますが、「被害者が相談しやすい環境を整える」「DVに関する広報・啓発活動を進める」「家庭や地域においてDV防止のための学習機会をつくる」の割合では男性のほうが高く、他の項目は女性のほうが高くなっています。

【全体・前回調査】



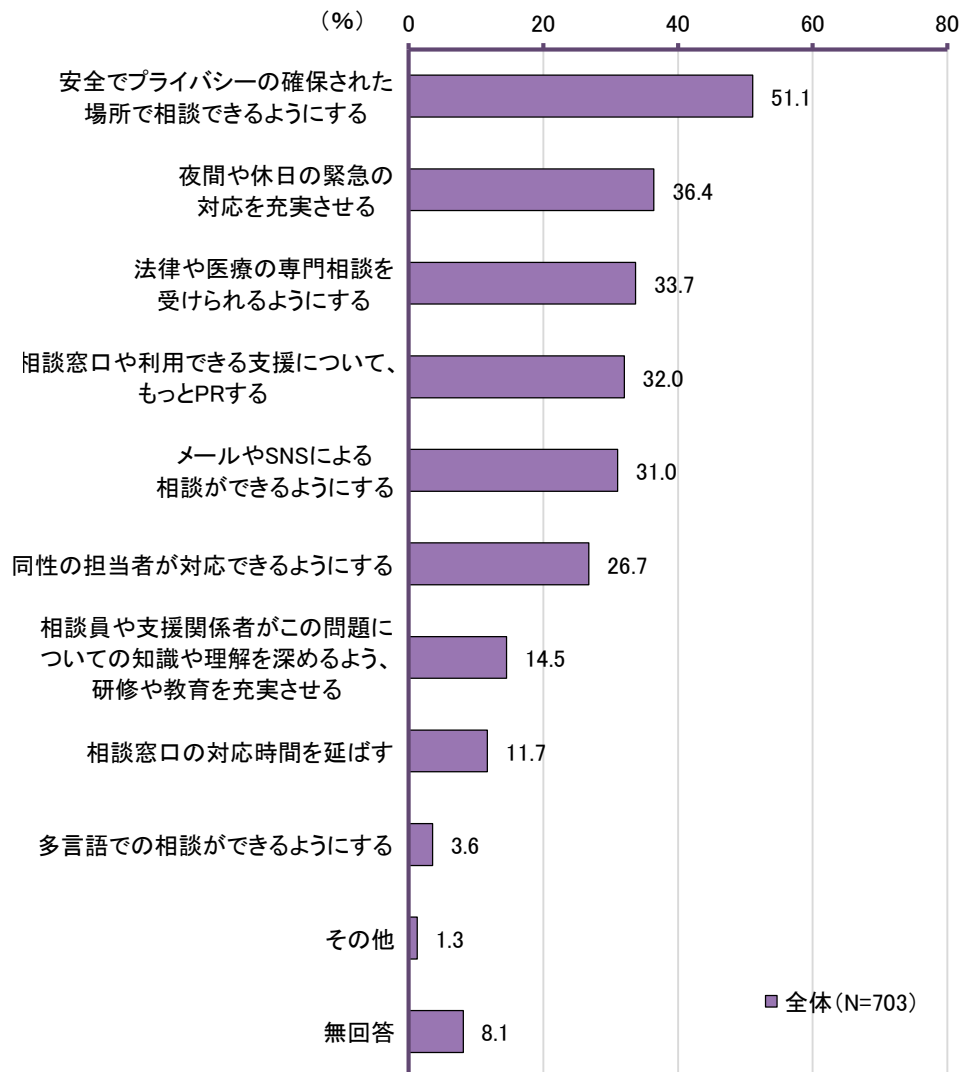
【性別】



問 24 ドメスティック・バイオレンス（DV）などについての相談をしやすくするためには、どのような相談体制が必要だと思いますか。【〇印3つまで】

DV への相談体制では、「安全でプライバシーの確保された場所で相談できるようにする」の割合が51.1%と最も高く、次いで「夜間や休日の緊急の対応を充実させる」36.4%、「法律や医療の専門相談を受けられるようにする」33.7%、「相談窓口や利用できる支援について、もっとPRする」32.0%となっています。

【全体】

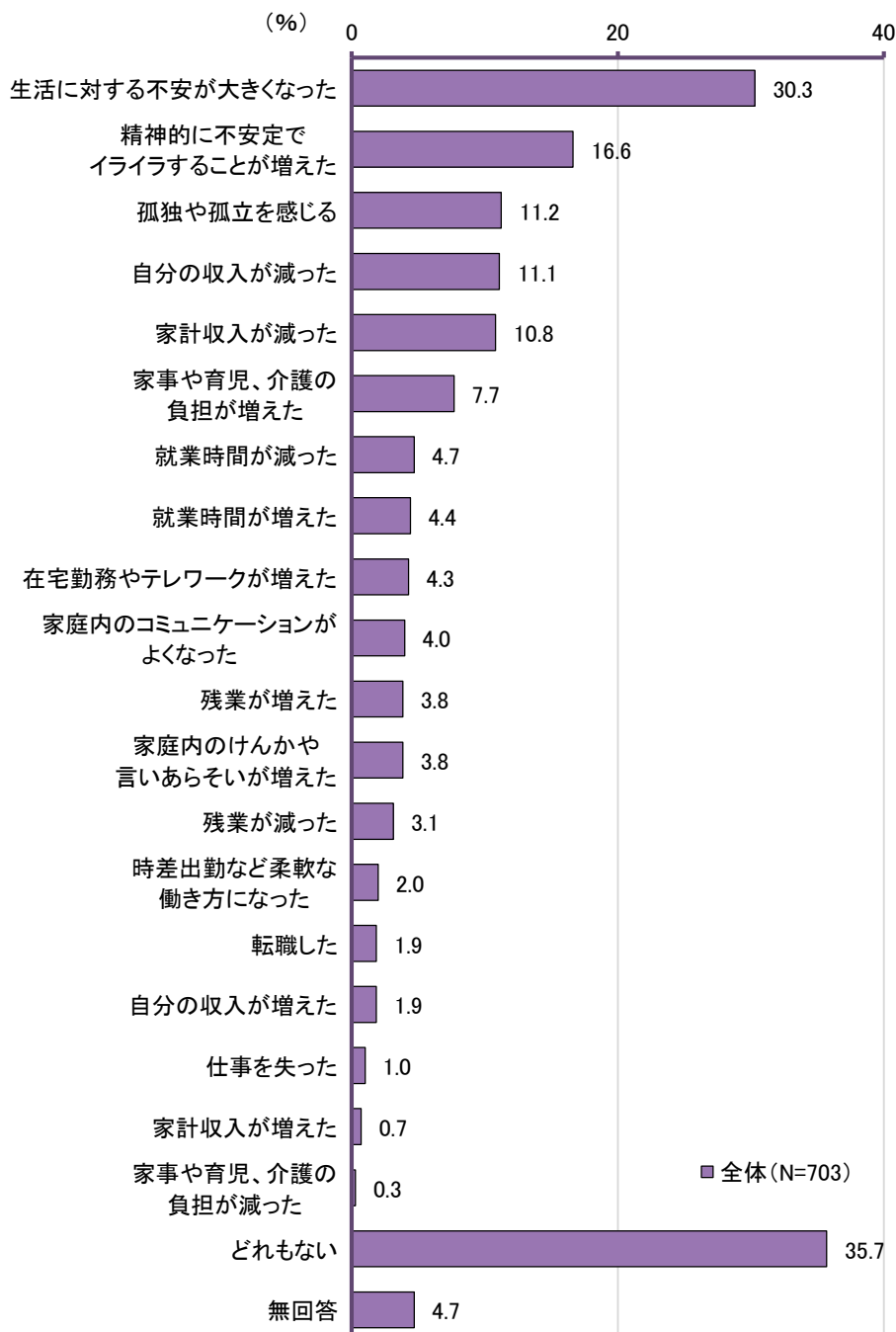


8. 新型コロナウイルス感染症の仕事や生活への影響についておたずねします。

問 25 新型コロナウイルス感染症拡大以前（概ね令和2年4月以前）と、現在の仕事や生活の状況を比べて、次のようなことがありますか。【あてはまるものすべてに○印】

新型コロナ感染症拡大による変化では、「生活に対する不安が大きくなった」の割合が30.3%と最も高く、次いで「精神的に不安定でイライラすることが増えた」16.6%、「孤独や孤立を感じる」11.2%、「自分の収入が減った」11.1%となっています。

【全体】



9. 男女共同参画社会実現のための施策についておたずねします。

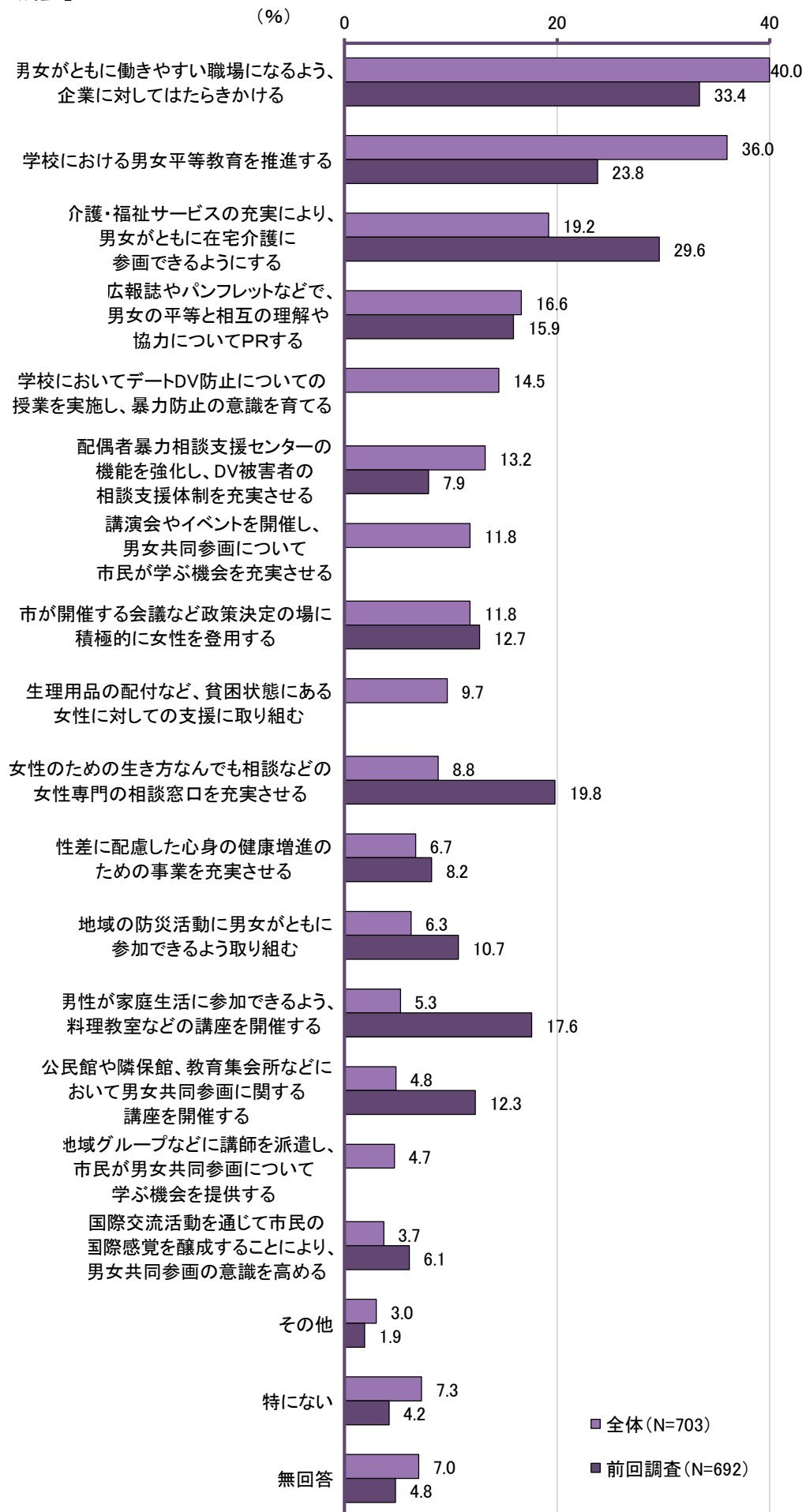
問 26 男女共同参画社会を形成していくため、今後、阿南市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。【○印3つまで】

男女共同参画の社会形成に阿南市が力を入れるべきことでは、「男女がともに働きやすい職場になるよう、企業に対してはたらきかける」の割合が40.0%と最も高く、次いで「学校における男女平等教育を推進する」36.0%、「介護・福祉サービスの充実により、男女がともに在宅介護に参加できるようにする」19.2%、「広報誌やパンフレットなどで、男女の平等と相互の理解や協力についてPRする」16.6%となっています。

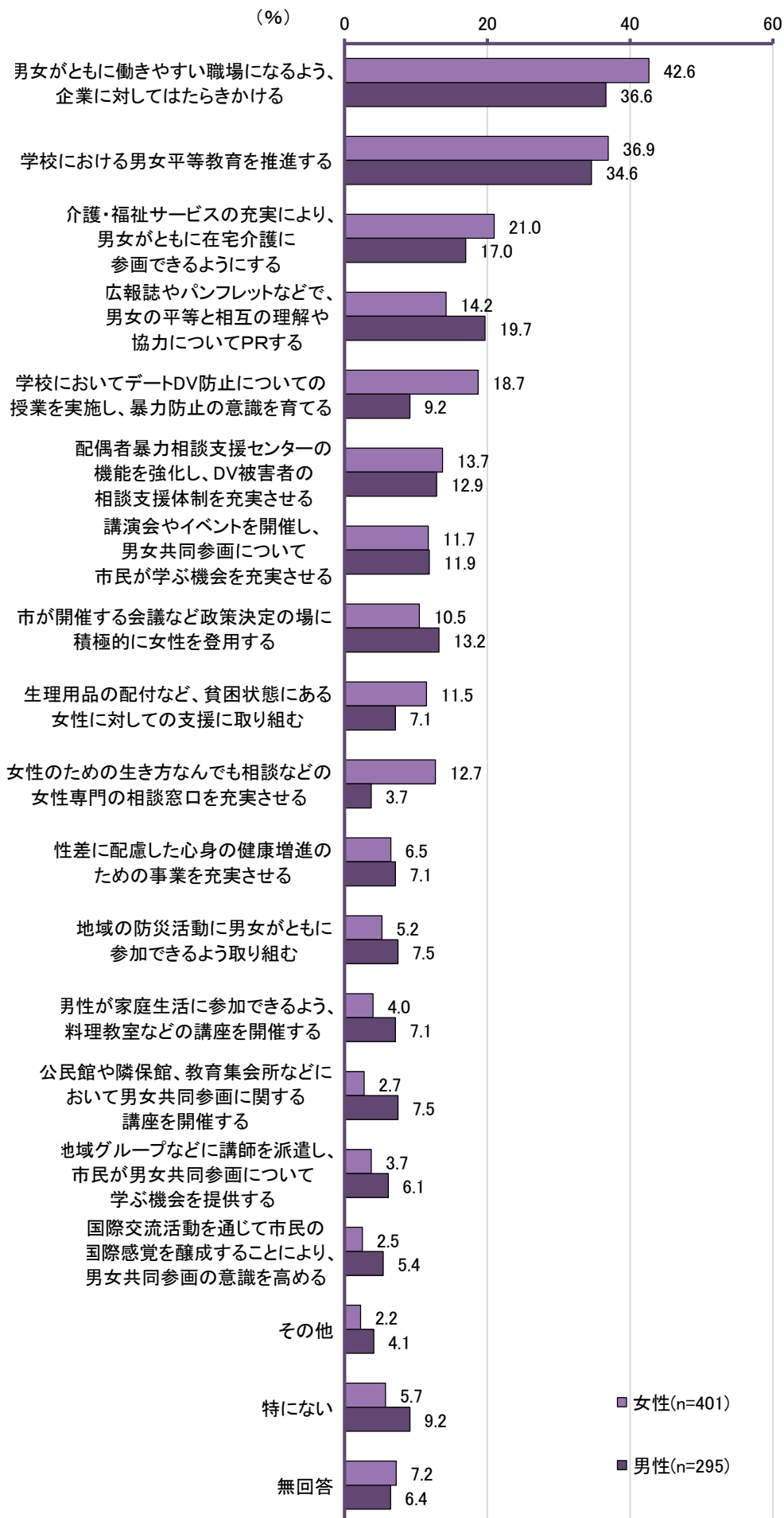
前回調査との比較では、「学校における男女平等教育を推進する」の割合が前回よりも最も増加しています。

性別では、概ね同様の傾向になっていますが、「学校においてDV防止についての授業を実施し、暴力防止の意識を育てる」の女性（18.7%）が男性（9.2%）を9.55ポイント上回っており、差が最も高くなっています。

【全体・前回調査】



【性別】



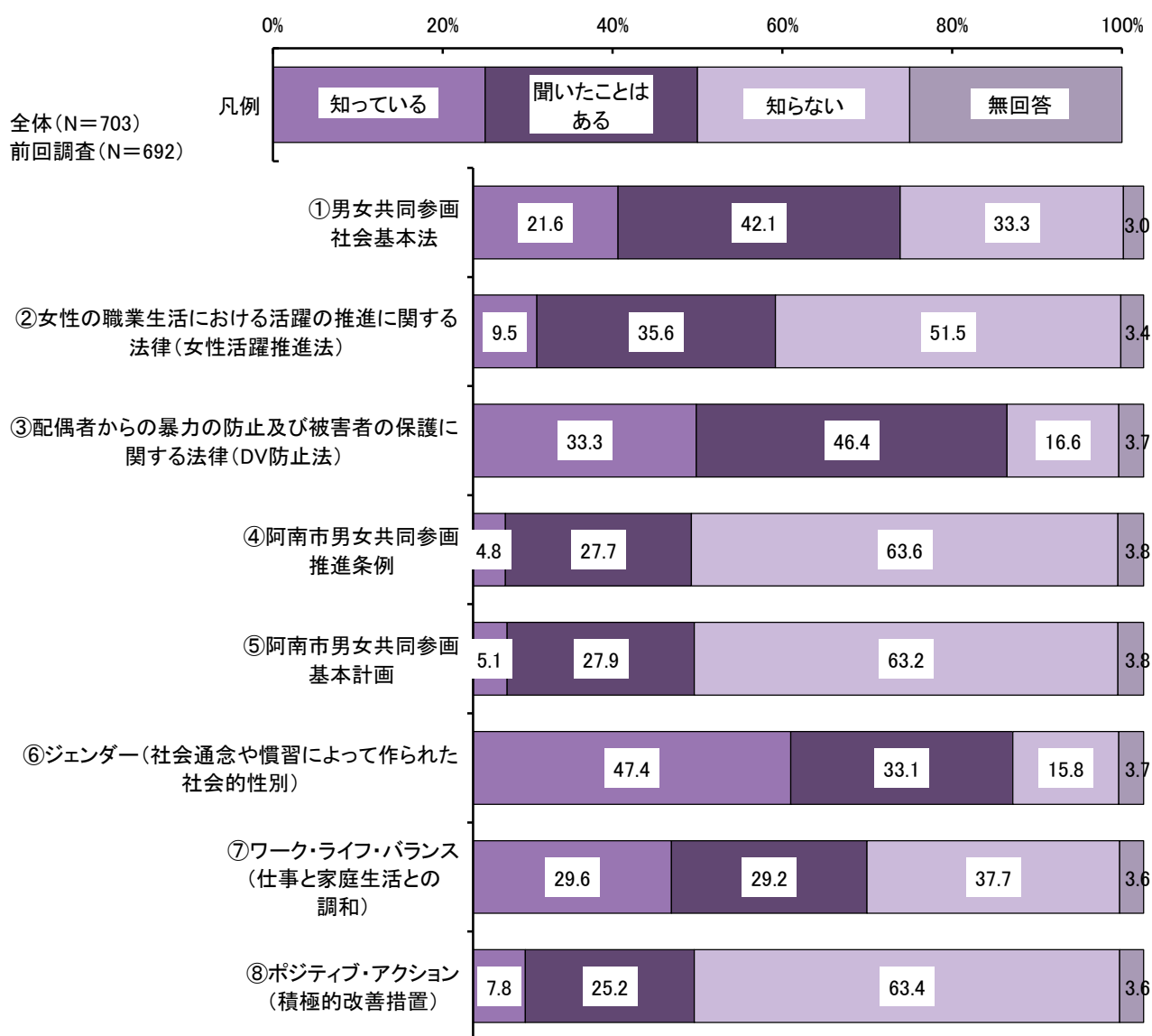
10. 男女共同参画に関する言葉などについておたずねします。

問 27 あなたは、次の法律や言葉を知っていますか。【①～⑧ごとに、それぞれ1つに印】

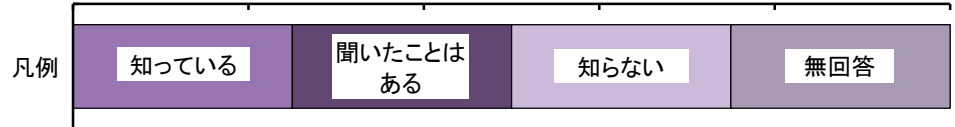
男女共同参画に関する言葉では、「知っている」は「⑥ジェンダー（社会通念や慣習によって作られた社会的性別）」の割合が47.4%と最も高く、次いで「③配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）」33.3%、「⑦ワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭生活との調和）」29.6%、「①男女共同参画社会基本法」21.6%となっています。『知っている』（「知っている」と「聞いたことはある」の合計、以下同じ）は、「⑥ジェンダー（社会通念や慣習によって作られた社会的性別）」の割合が80.5%と最も高くなっています。

性別では、概ね同様の傾向となっていますが、『知っている』は「②女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）」「⑦ワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭生活との調和）」以外は、女性の割合のほうが高くなっています。

【全体】



0% 20% 40% 60% 80% 100%



【性別】

